

OMPU
CAMPUS LIFE
REPORT
2022

大阪医科薬科大学
キャンパスライフ
レポート

2022

医学部 薬学部 看護学部



大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University

発刊にあたって

初等中等教育の改革が進み、大学に入学する学生の質が大きく変化しており、超少子社会における大学は新しい時代の学生を受け入れ、高等教育を提供していくことになります。民法の改正による成年年齢の引き下げや大学設置基準の改正による学生厚生補導体制の充実などは同じ流れの中にあるものと思われます。

2021年に大阪医科大学と大阪薬科大学が統合されて誕生した大阪医科薬科大学では、新たな時代の大学教育の一環として、学生生活支援を充実すべく学部を横断する学生生活支援機構を設置し、学生厚生補導の手本であった Student Personnel Service の基本である「学生の人間形成」を支援することとしました。学生生活支援を充実する上で、これまで各学部で行われていた学修実態ならびに学生生活に関する調査を統合し、大阪医科薬科大学の医学部、薬学部、看護学部共通の調査として IR 室が「大阪医科薬科大学 学生調査」を実施していくことになりました。そして、その調査結果を大学の構成員である学生とその保護者そして教職員が共有するため、毎年度「大阪医科薬科大学 キャンパスライフ・レポート」として刊行することにいたしました。

大阪医科薬科大学の3学部は、医学部が本部キャンパス、薬学部は阿武山キャンパス、看護学部は本部北キャンパスをそれぞれの本拠地として、各キャンパスでは医学部生、薬学部生、看護学部生が日々、学修やクラブ活動等に励み、切磋琢磨しています。最優の医療系総合大学を目指し、さらに素晴らしい大学を作り上げていくために、大阪医科大学と大阪薬科大学の歴史と伝統そして学部の特性を踏まえつつ、大阪医科薬科大学生の豊かな気質を育てたいと願っています。そのためにこの「キャンパスライフ・レポート」が有効に利用されることを望んでおります。

皆様におかれましては、本冊子をご覧いただき、本学の学生生活支援に倍旧のご理解とご指導をお願いいたします。

2023年9月

大阪医科薬科大学
学長 佐野 浩一

目次

発刊にあたって

調査概要

I. 学修実態

1. 本学の教育方針	2
(1) 建学の精神の理解	
(2) ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知	
(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）	
2. 今年度の授業を振り返って	18
(1) 授業への積極的な参加	
(2) アクティブラーニングの状況	
(3) 授業カリキュラムの満足度	
(4) 現在あるいは将来役立ちそうな授業	
(5) 授業全般への評価	
3. 教員との面談	30
(1) 面談の利用	
(2) 面談に対する評価	
4. UNIVERSAL PASSPORT（UNIPA）の利用	32
(1) 今年度の利用状況	
(2) UNIPA の利用目的	
(3) UNIPA「マイステップ」の利用状況	
5. 授業外学習	35
(1) 予習・復習時間	
(2) 授業以外の学習方法	
(3) 授業以外で学習する相手の有無	

II. 学生生活

1. 居住と通学	40
(1) 現在の住居	
(2) 通学時間	
2. 睡眠時間	42
3. 学内施設・支援の利用状況と満足度	43
(1) 図書館、自学自習室、共用スペースなどの学習支援施設	
(2) 就職・進路への支援	
(3) 学習・心身の健康面の相談体制（面談・カウンセリングを含む）	
(4) 奨学金等の経済支援に関する情報提供	

4. クラブ・サークル・同好会活動	51
(1) 今年度加入しているクラブ・サークル・同好会	
(2) 1週間あたりの活動時間	
(3) 部活動の学業への影響	
(4) 活動の満足度	
5. ボランティア活動	55
6. 今年度の経済状況	57
(1) 平均的な1か月あたりの総収入	
(2) 平均的な1か月あたりの総支出	
7. アルバイト	59
(1) 現在のアルバイト状況	
(2) 現在行っているアルバイトの種類	
(3) 平均的な1週間あたりの就労時間	
(4) アルバイト収入の使途	
(5) アルバイトと学業の関係	
8. 不安や悩み	64
(1) 今年度の状況	
(2) 今年度の不安や悩みの種類	
(3) 悩みの相談相手	
9. 卒業後の進路	67

III. 総合評価

1. 入学前後の本学への印象 【1年生と最終学年のみ】	69
2. 入学以降の総合的な学修成果（結果）の満足度	71
3. 大学生活全般の満足度	72

2022 年大阪医科薬科大学学生調査 調査概要

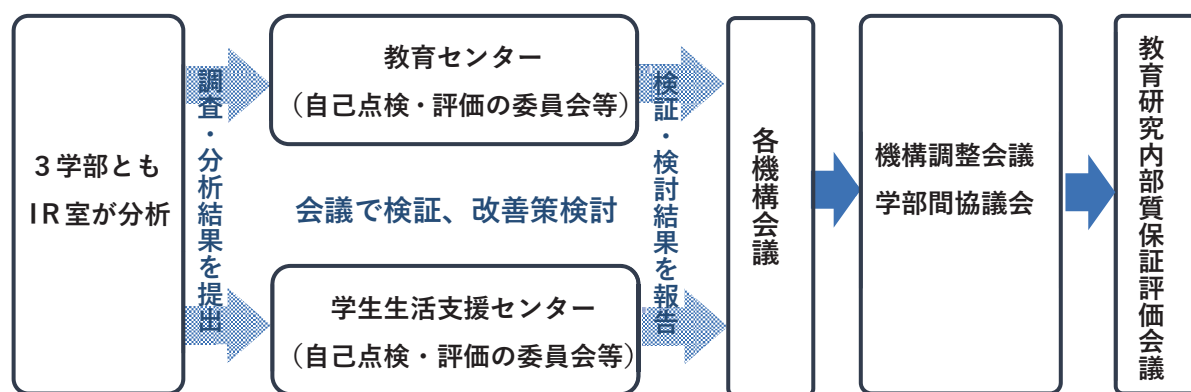
1. 調査対象・方法等

	医学部	薬学部	看護学部
調査対象人数	678 人	1854 人	352 人
調査時期	2022 年 10 月～ 2023 年 2 月	2022 年 12 月～ 2023 年 2 月	2022 年 11 月～12 月
調査方法	UNIPA による web 調査	MS Forms による web 調査	UNIPA による web 調査
有効回答率	学修実態 86.7% 学生生活 88.6%	85.0%	83.2%

2. 回答者の基本属性

性 別	医学部	薬学部	看護学部
男 性	62.2%	31.6%	6.8%
女 性	36.3%	66.5%	89.8%
回答しない	1.5%	1.8%	3.4%

3. 「学生調査」調査結果の活用

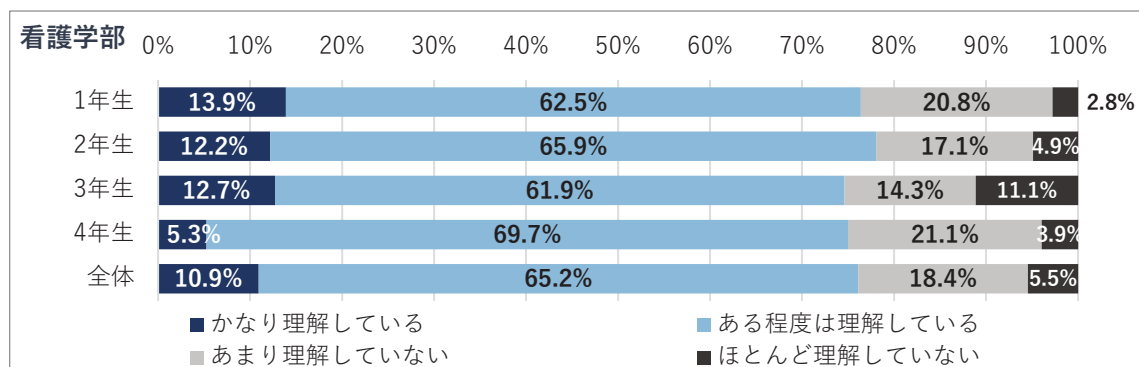
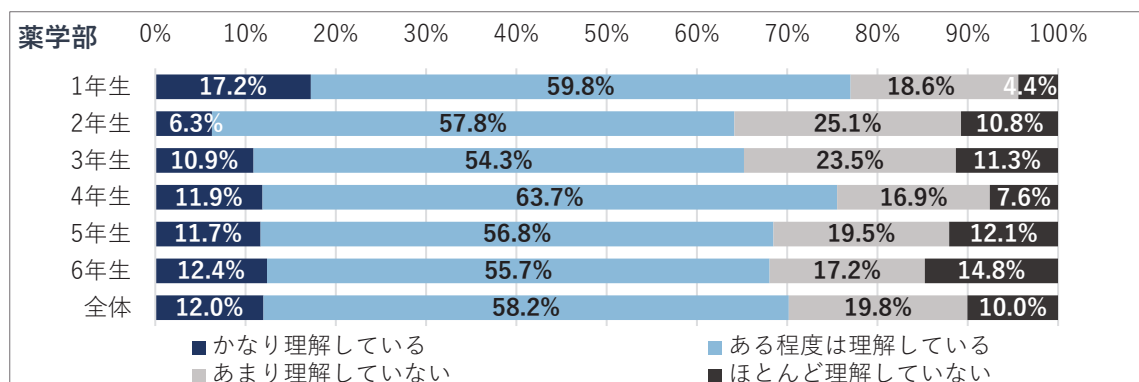
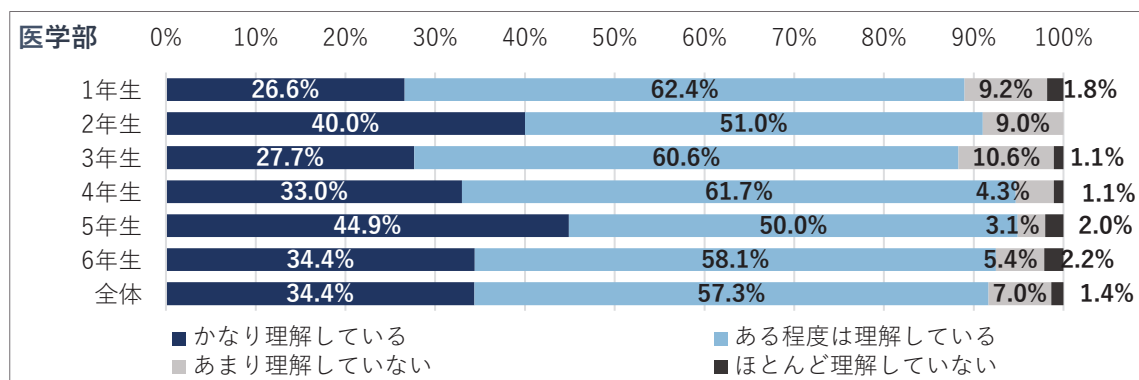


学生調査の調査結果は、毎年度、IR 室から医学部・薬学部・看護学部の教育センターと学生生活支援センターに提出されます。その調査結果は、各学部のセンター会議等の検証を経て、学修支援・学生生活支援の改善に活用されています。また検証結果と改善報告は大学全体で共有され、全学的な学生支援の方針に活かされています。

I. 学修実態

1. 本学の教育方針

(1) 建学の精神の理解



「建学の精神」の理解に対する自己評価について学部全体でみると、もっとも自己評価が高いのは医学部で「かなり理解している」が34.4%、「ある程度理解している」をあわせると91.7%が理解していると回答している。薬学部と看護学部の全体では、「かなり理解している」が10%程度、「ある程度理解している」をあわせると薬学部では70.2%、看護学部では76.1%が理解していると回答している。

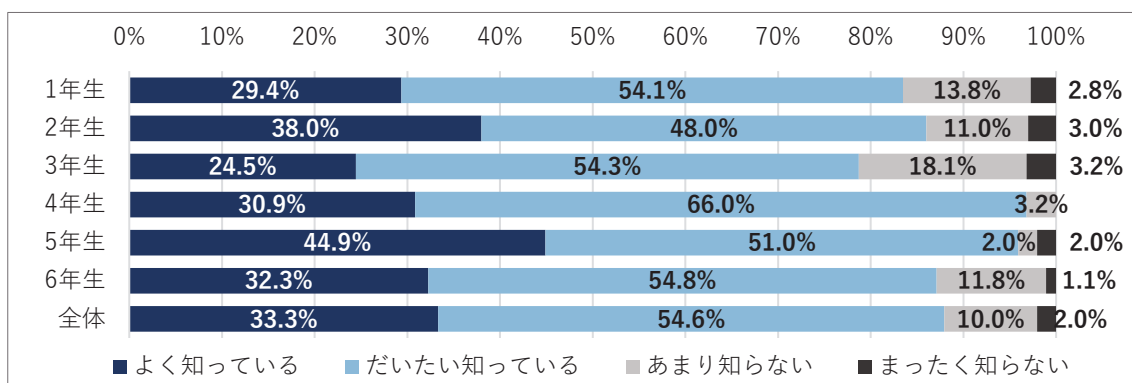
医学部

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

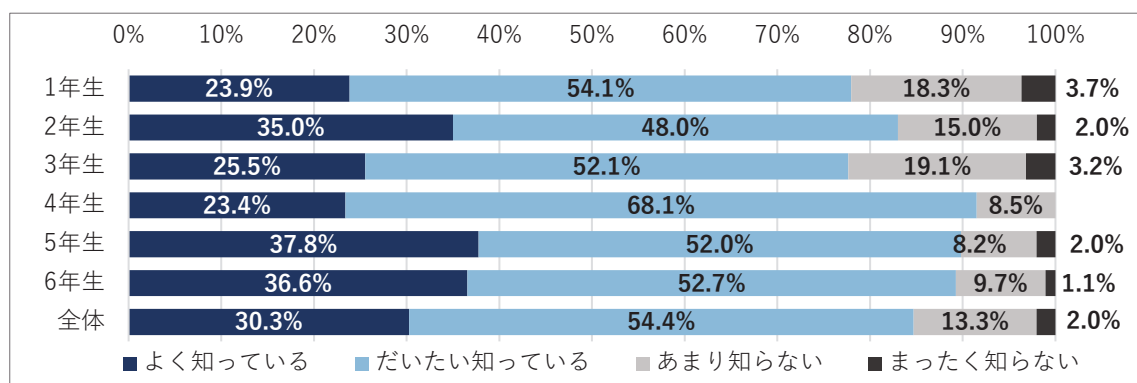
- ① 倫理とプロフェッショナリズム：
高い倫理性と誇りをもって、自己管理能力とリーダーシップを有し、他者に敬意をもって接することができる。
- ② 医学・科学的知識：
医学における科学的知識について十分に理解し、診療や研究に活用できる。
- ③ 実践的診療能力：
統合された医学・科学的知識、技能に基づいて、高い倫理観を有し、患者に敬意と思いやりをもって、医療行為を実践できる。
- ④ 自律的探求能力：
医師や医学研究者としての能力の向上を目指し、生涯にわたって自ら学習することができる。
- ⑤ 多職種連携とコミュニケーション：
他の医療職の立場や考え方を理解、尊重しながら自分の考えを伝え、チーム医療において良好な人間関係を構築することができる。
- ⑥ 医療の社会性と国際性：
医療の社会性に関する基本的な知識を身につけたうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。また医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者・研究者や患者とコミュニケーションを取ることができる。

（２）ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知

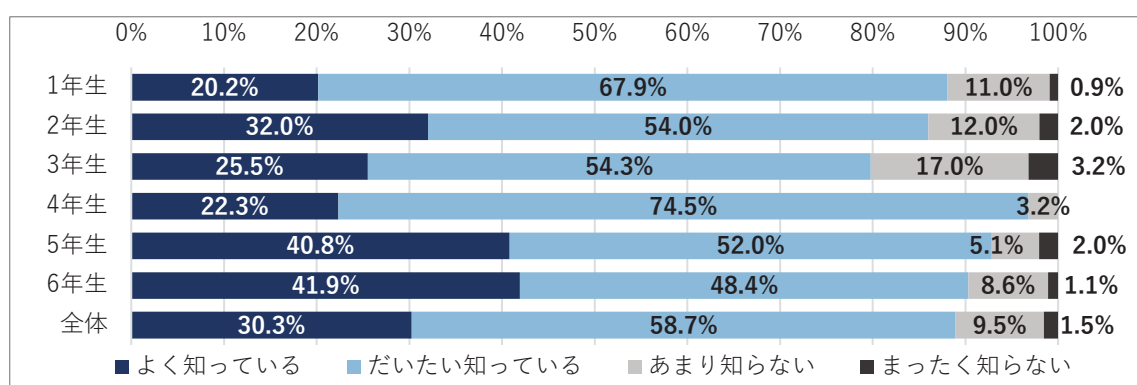
① 倫理とプロフェッショナリズム



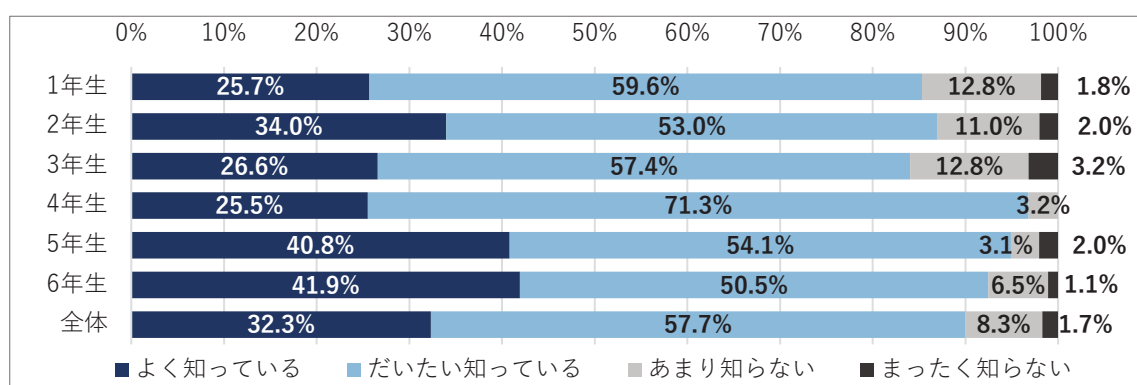
② 医学・科学的知識



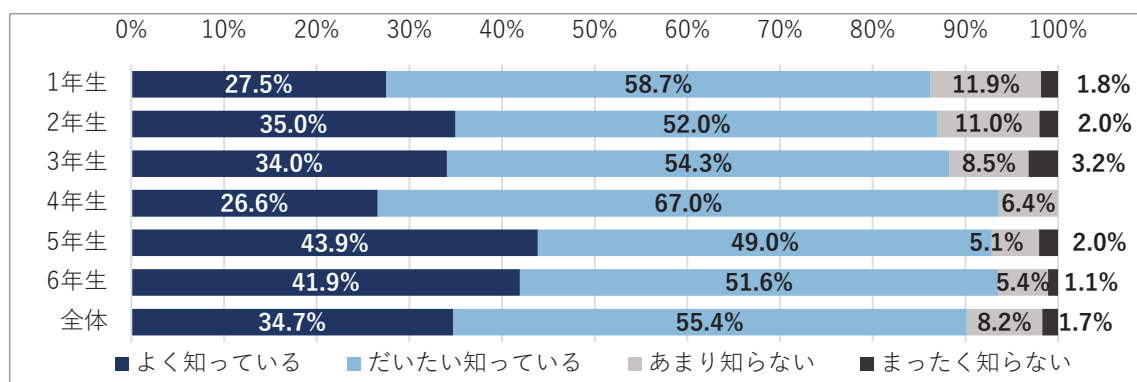
③ 実践的診療能力



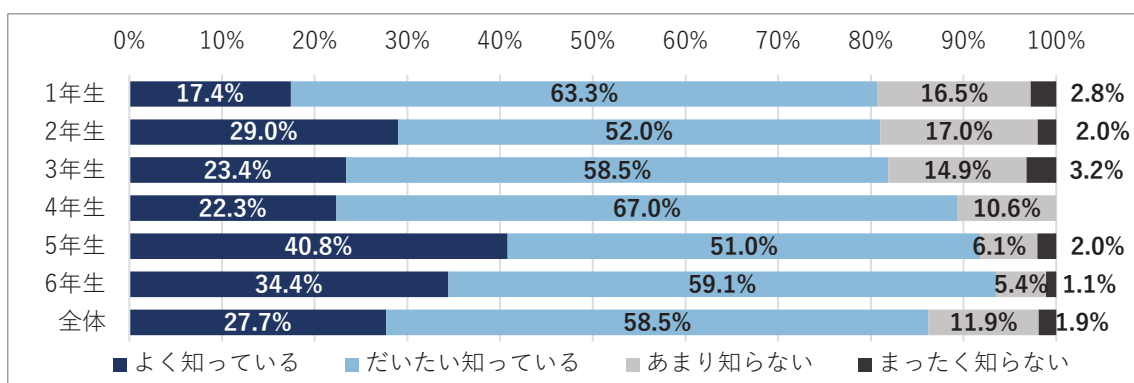
④ 自律的探究能力



⑤ 多職種連携とコミュニケーション



⑥ 医療の社会性と国際性

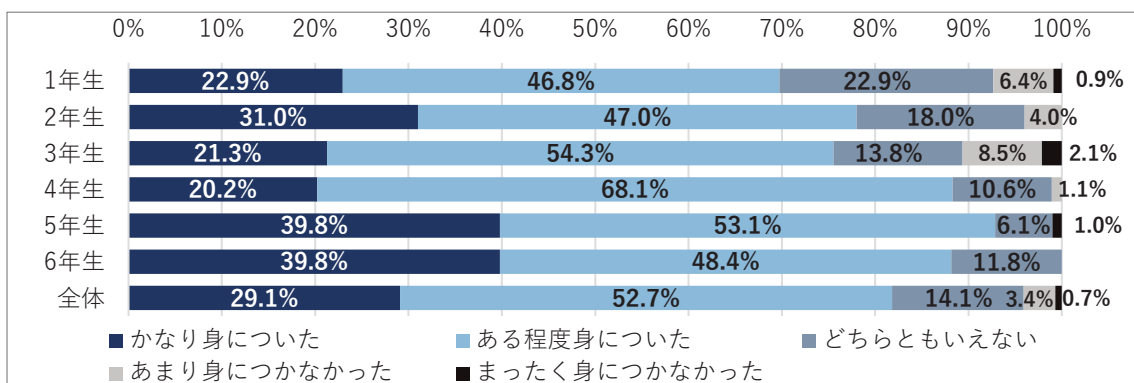


医学部のディプロマポリシーの認知については、いずれの項目においても、3年生まででは80～85%、4年生以降では90%前後がある程度以上知っているという回答している。

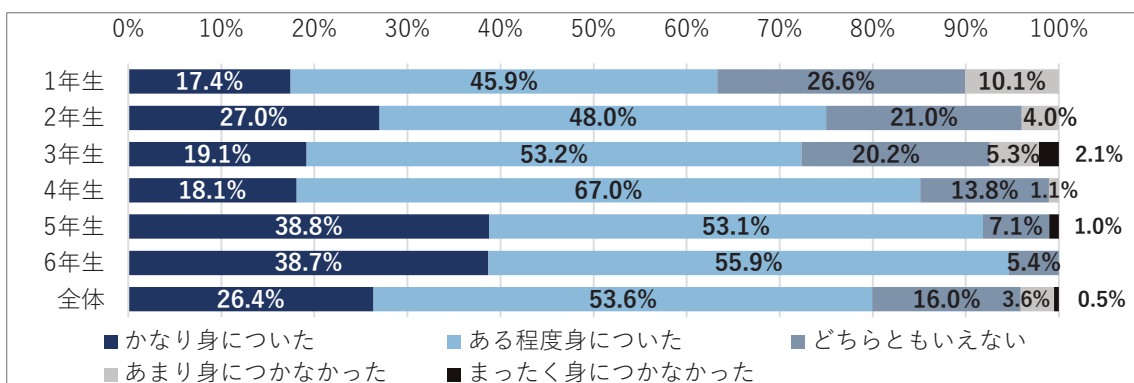
(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）

*卒業年次の6年生は6年間を振り返って回答。

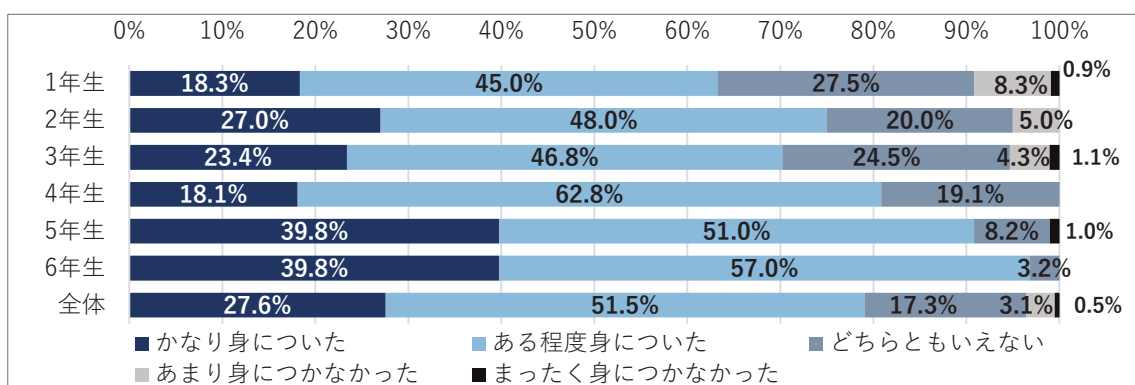
① 倫理とプロフェッショナリズム



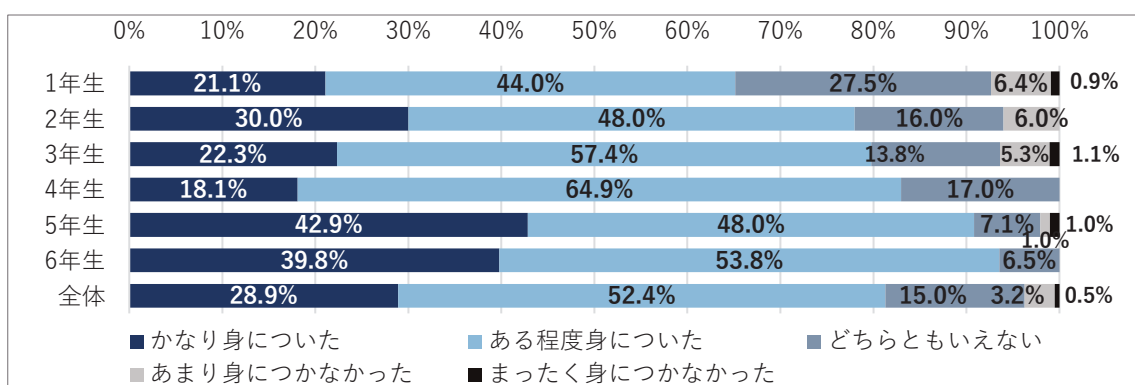
② 医学・科学的知識



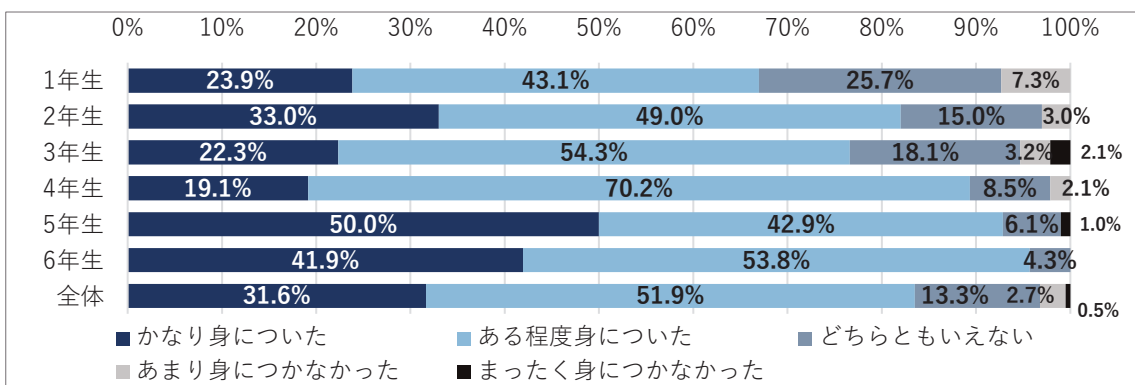
③ 実践的診療能力



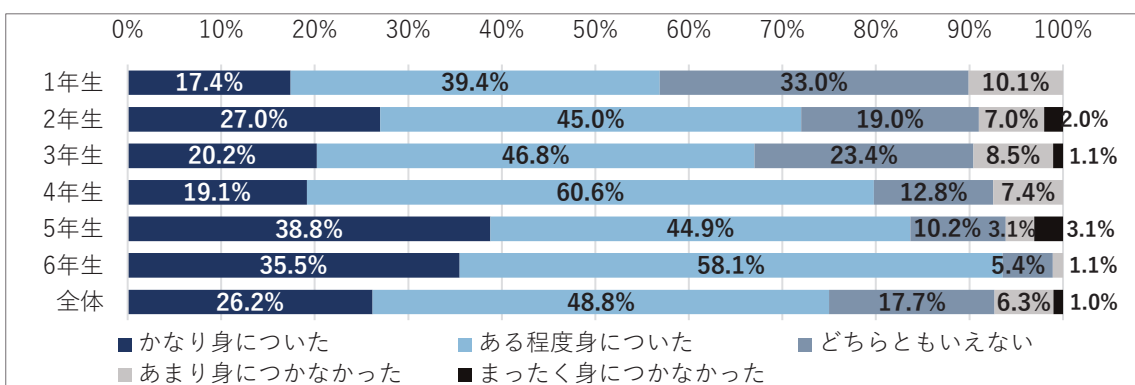
④ 自律的探求能力



⑤ 多職種連携とコミュニケーション



⑥ 医療の社会性と国際性



ディプロマポリシーとして掲げられている項目に関する達成度の自己評価について、医学部全体では「かなり身についた」または「ある程度身についた」とする回答が、ほとんどの項目において80%前後となっており、5～6年生では90%程度である。

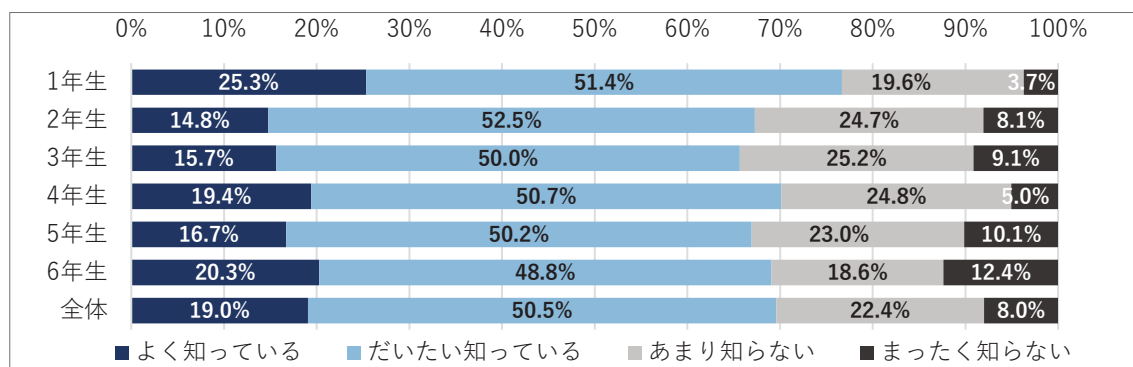
薬学部

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

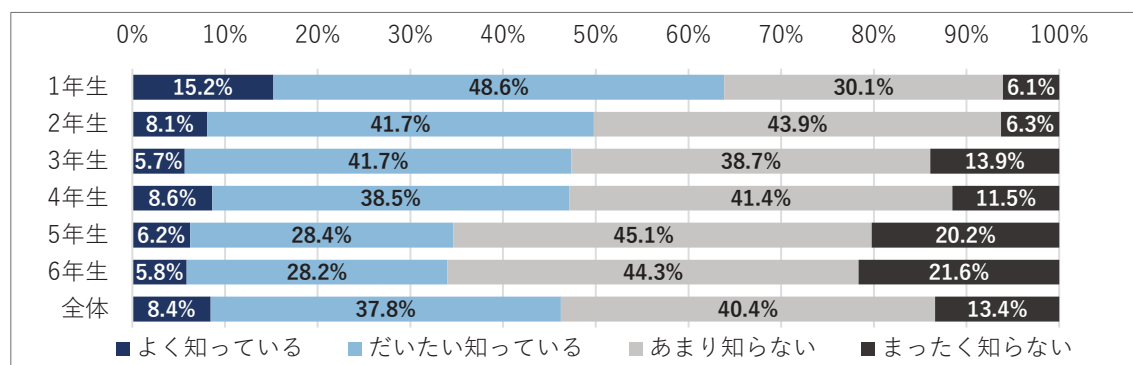
- ① 医療人として相応しい倫理観と社会性を有していること。
- ② 国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること。
- ③ 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度を有していること。
- ④ 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度を有していること。
- ⑤ チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度を有していること。
- ⑥ 薬の専門家に必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を有していること。
- ⑦ 地域における必要な情報を適切に発信し、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有していること。
- ⑧ 薬学・医療の進歩に対応するために自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度を有していること。
- ⑨ 薬学・医療の進歩と改善に役立てる研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力を有していること。

（２）ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知

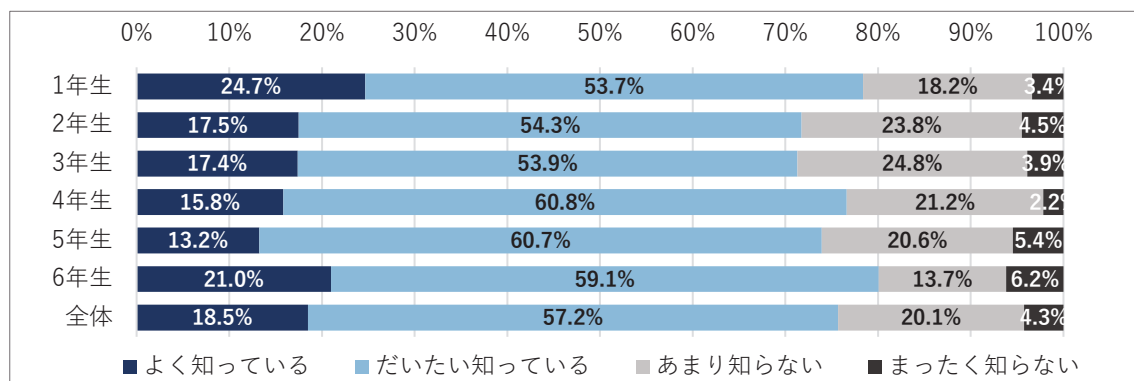
① 倫理観と社会性



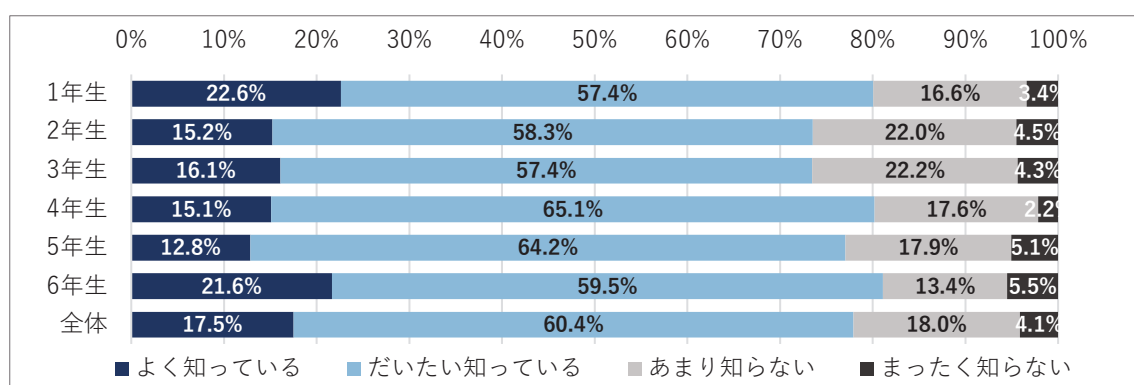
② 基礎的な語学力



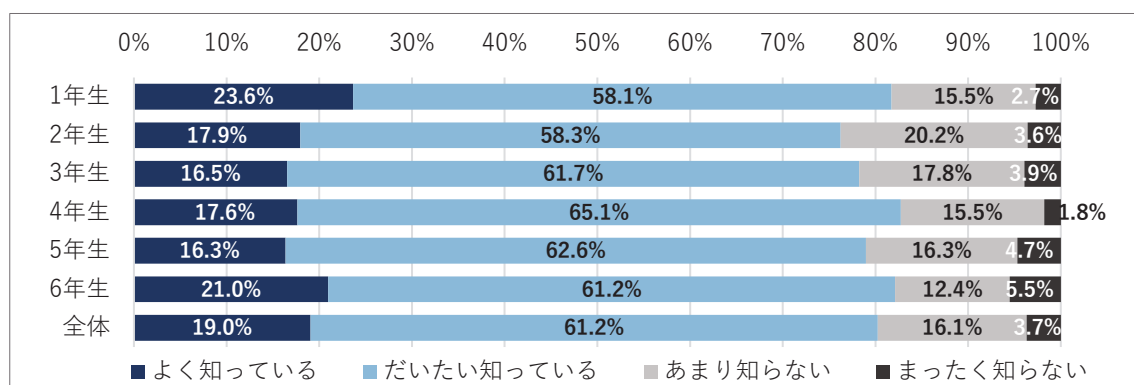
③ 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度



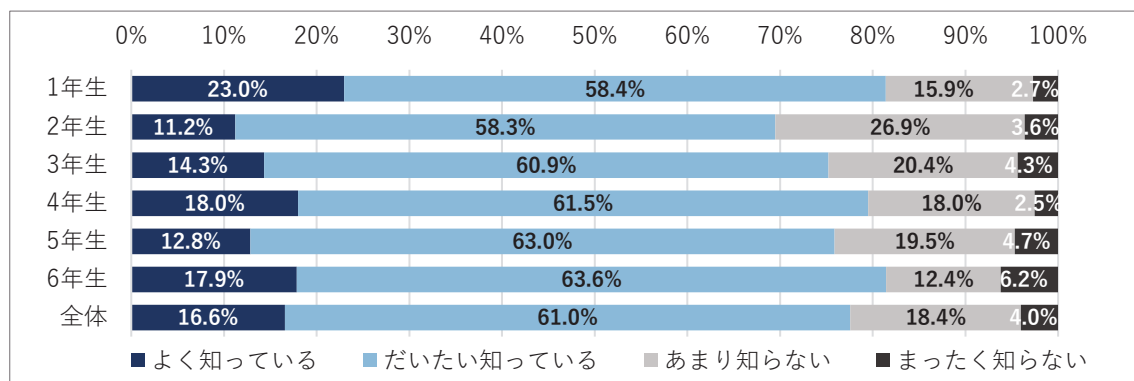
④ 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度



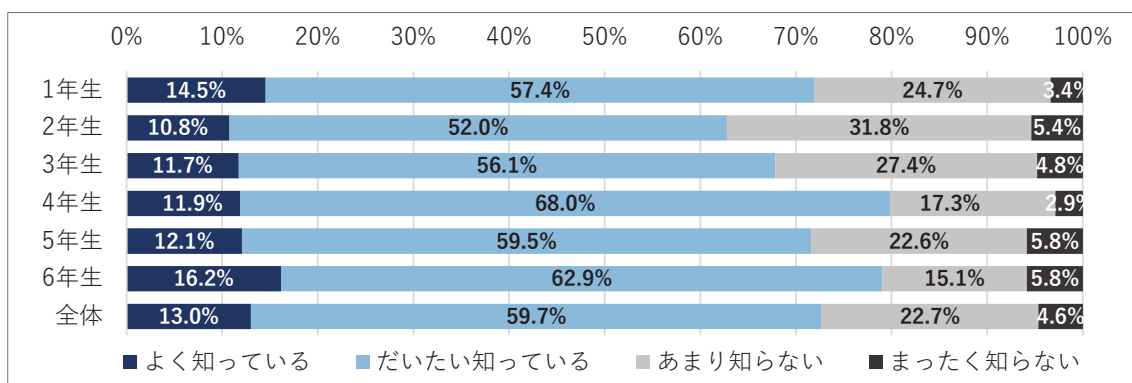
⑤ チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度



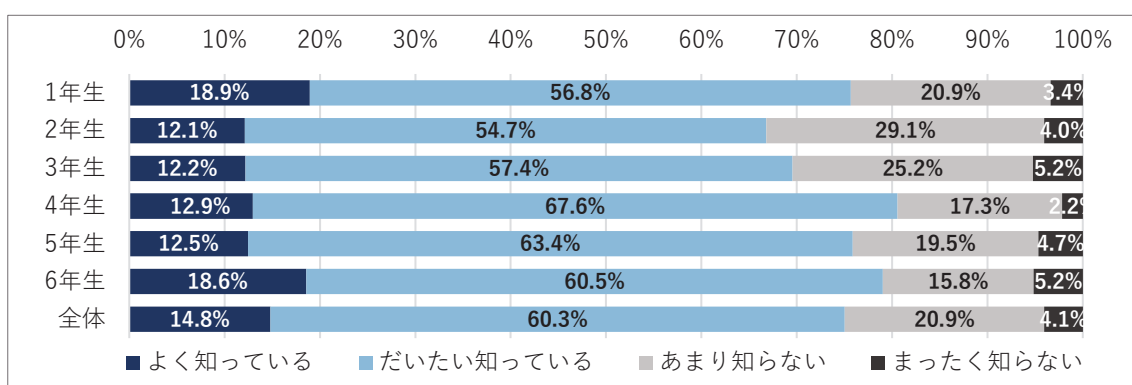
⑥ コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力



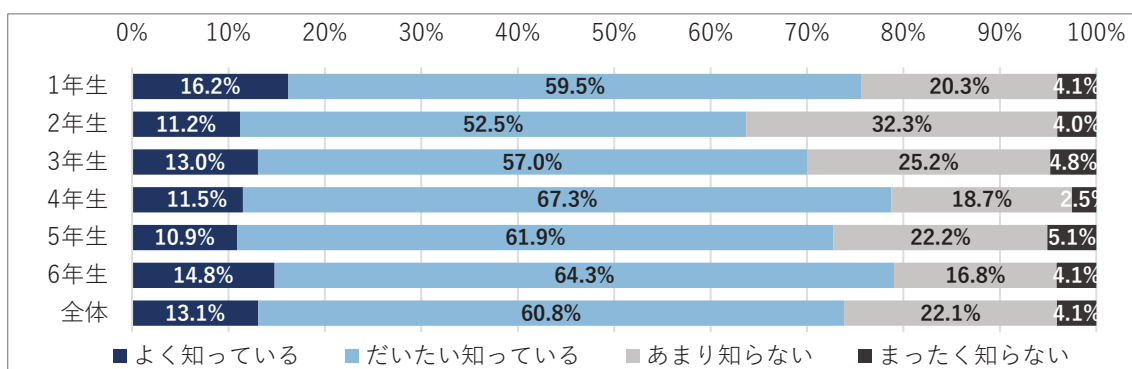
⑦ 健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力



⑧ 自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度



⑨ 研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力

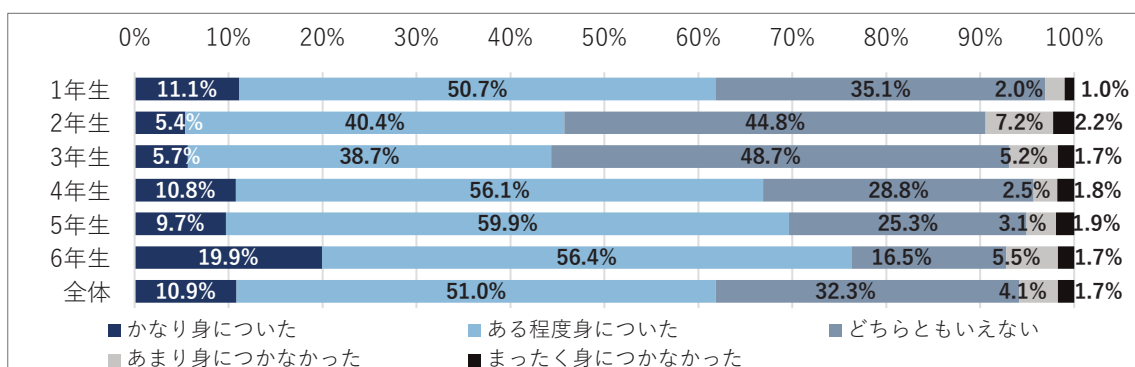


薬学部のディプロマポリシーの認知については、薬学部全体で 70～80%が各項目をある程度以上知っていると回答している。ただし「国際化に対応できる基礎的な語学力を有していること」に関しては、ある程度以上知っていると回答した学生が薬学部全体で 46.2%である。

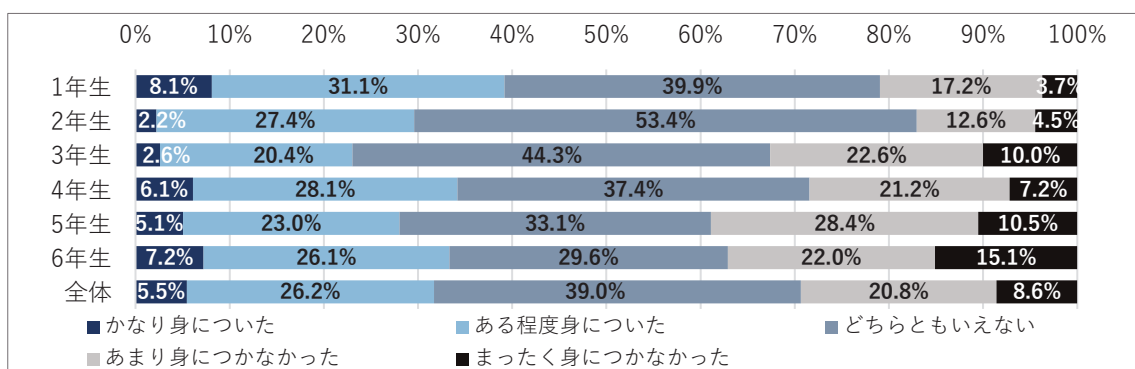
(3) 今年度、身についた能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）

*卒業年次の6年生は6年間を振り返って回答。

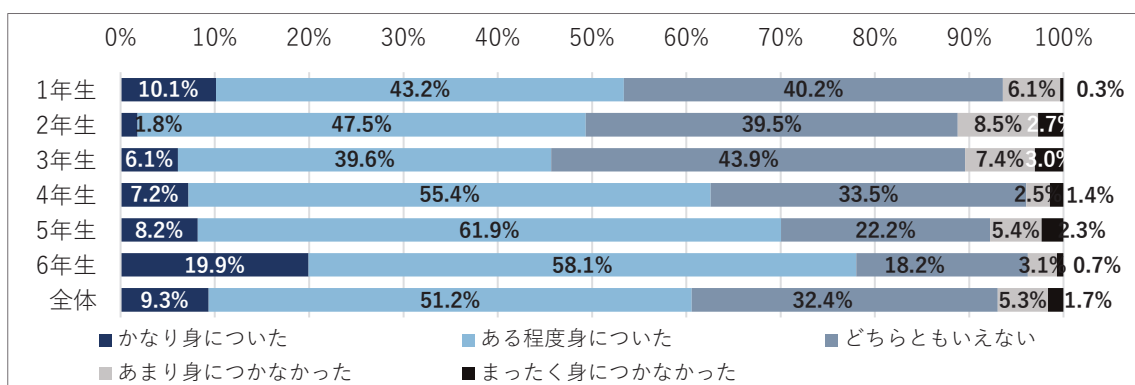
① 倫理観と社会性



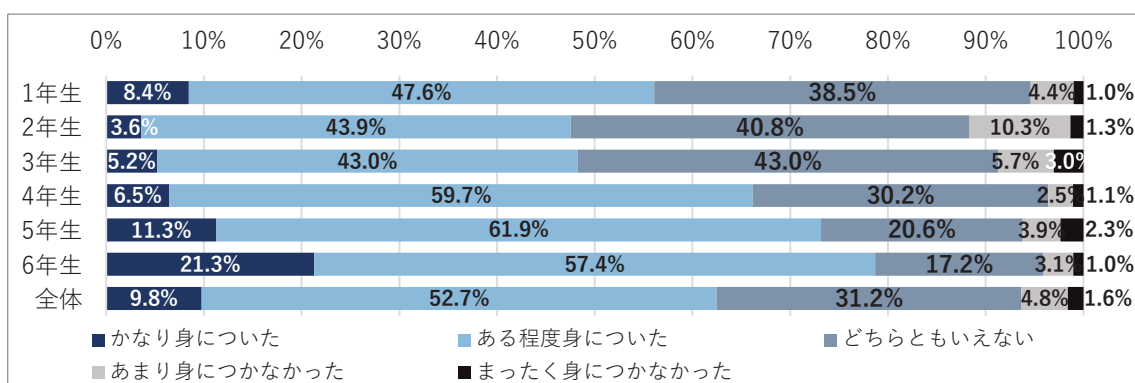
② 基礎的な語学力



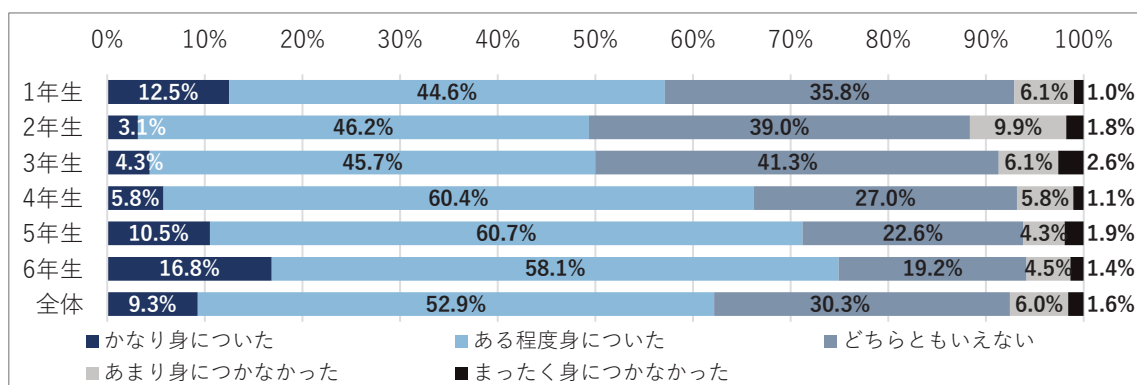
③ 薬の専門家として必要な幅広い科学的知識・技能・態度



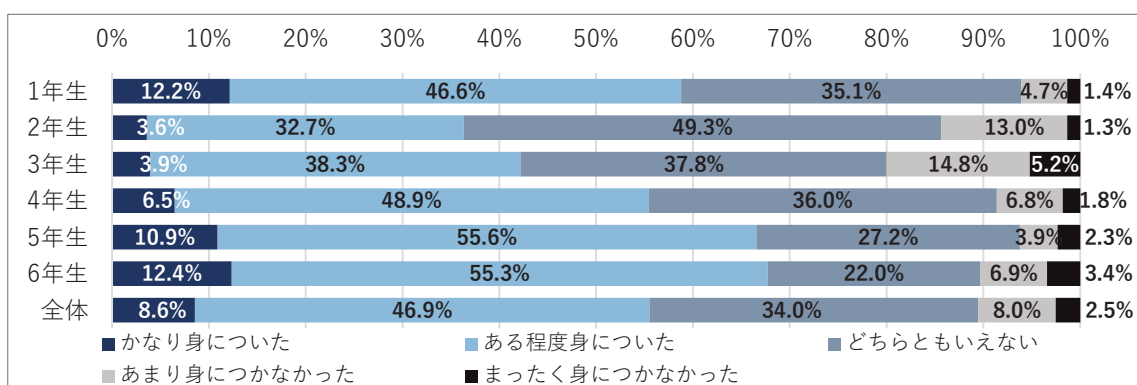
④ 薬剤師として医療に関わるための基本的知識・技能・態度



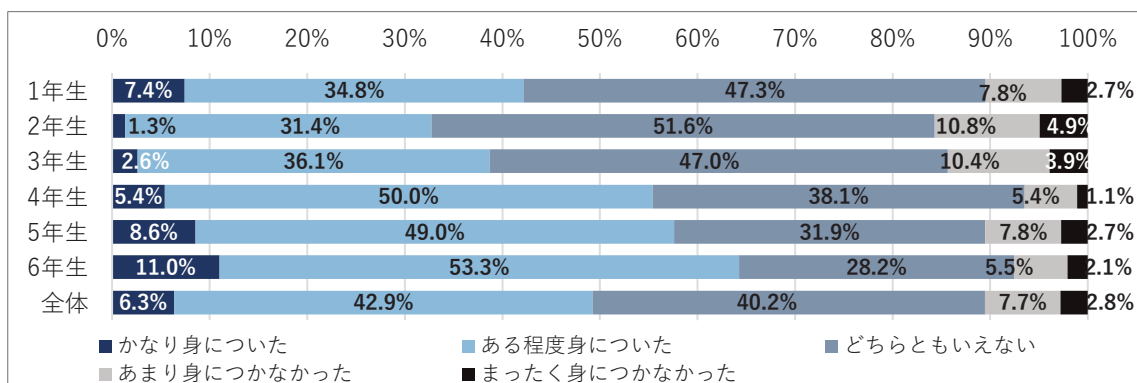
⑤ チーム医療や薬物療法に必要な専門的知識・技能・態度



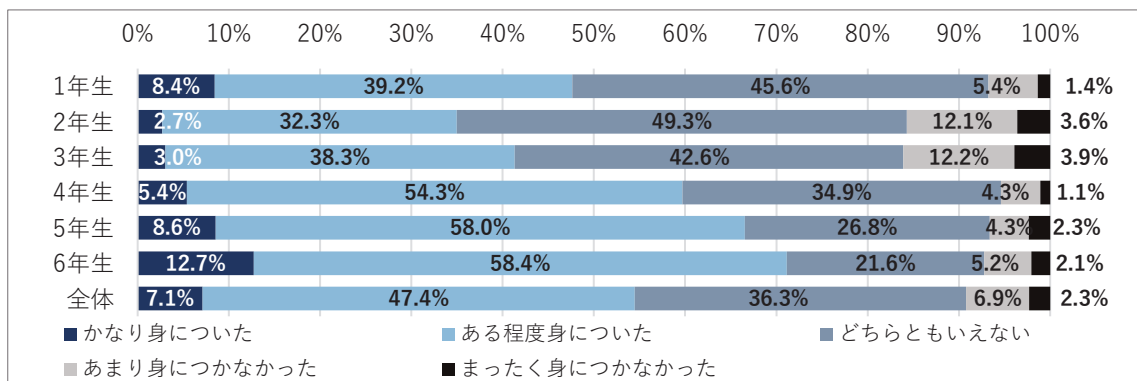
⑥ コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力



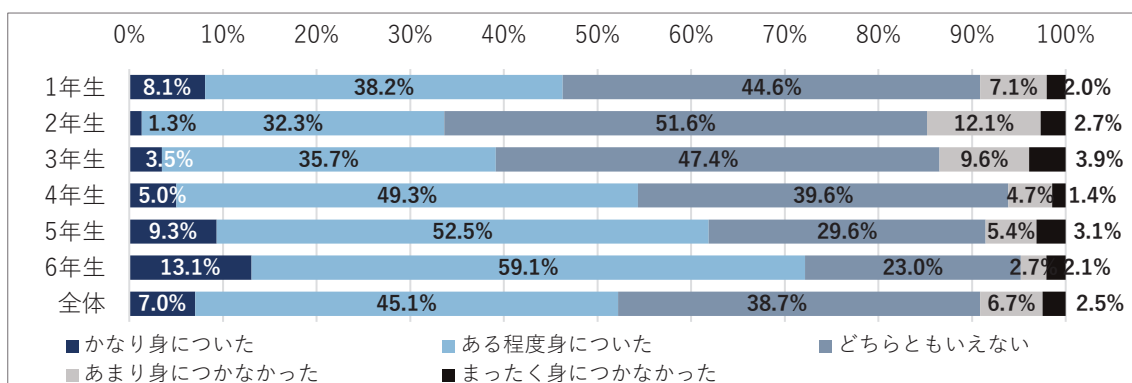
⑦ 健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力



⑧ 自己研鑽し、次なる人材を育成する意欲と態度



⑨ 研究を遂行する意欲と科学的根拠・研究に基づく問題発見・解決能力



ディプロマポリシーとして掲げられている項目に関する達成度の自己評価では、薬学部全体で「かなり身についた」または「ある程度身についた」とする回答がほとんどの項目において45～60%程度となっており、5～6年生では60～80%程度である。

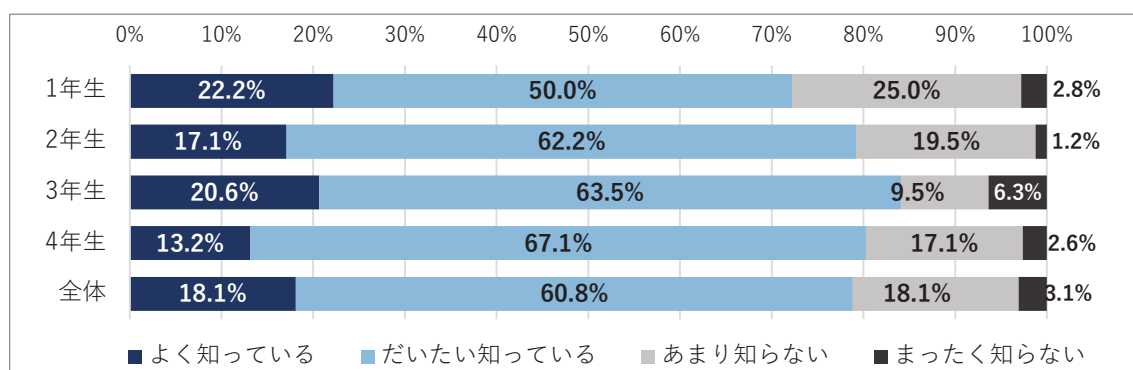
看護学部

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

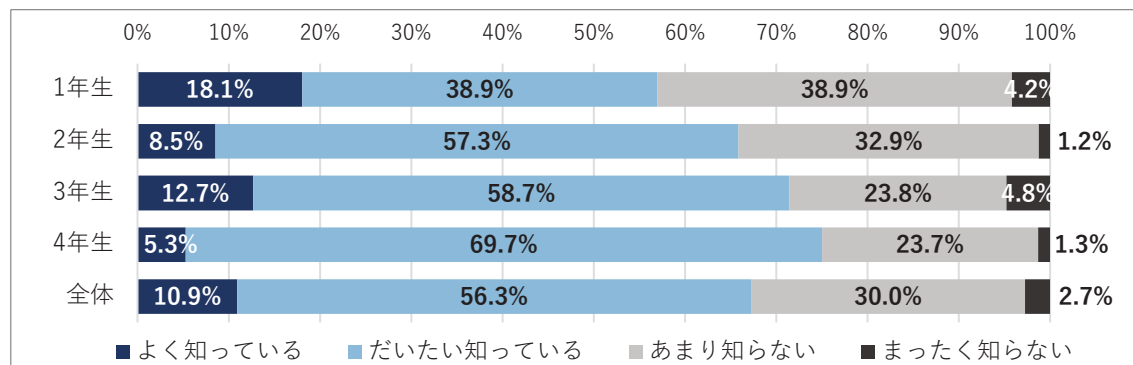
- ① 生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる。
- ② グローバルな視点から看護に関する課題を探究し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる。
- ③ 看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる。
- ④ 地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる。
- ⑤ 自らのキャリア形成をみすえて、向上心をもって自己研鑽し続けることができる。

（２）ディプロマポリシー（学位授与の方針）の認知

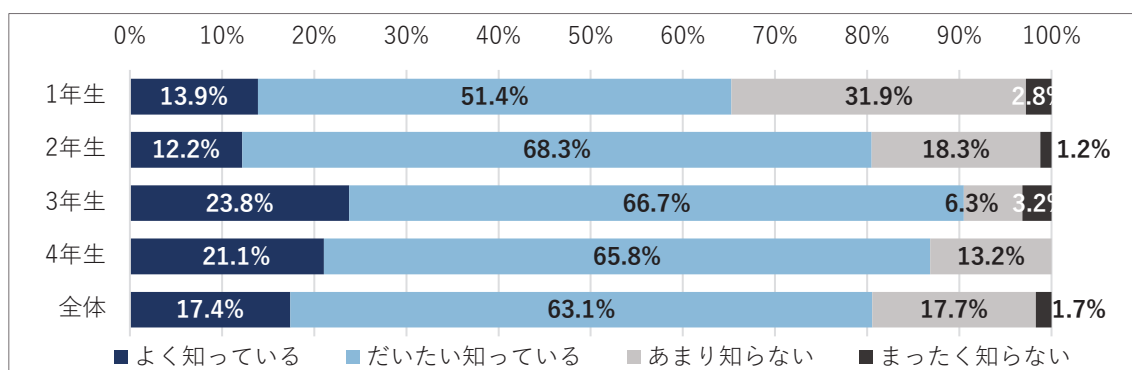
① 生命の尊厳、人権を尊重、生き方や価値観を尊重した行動



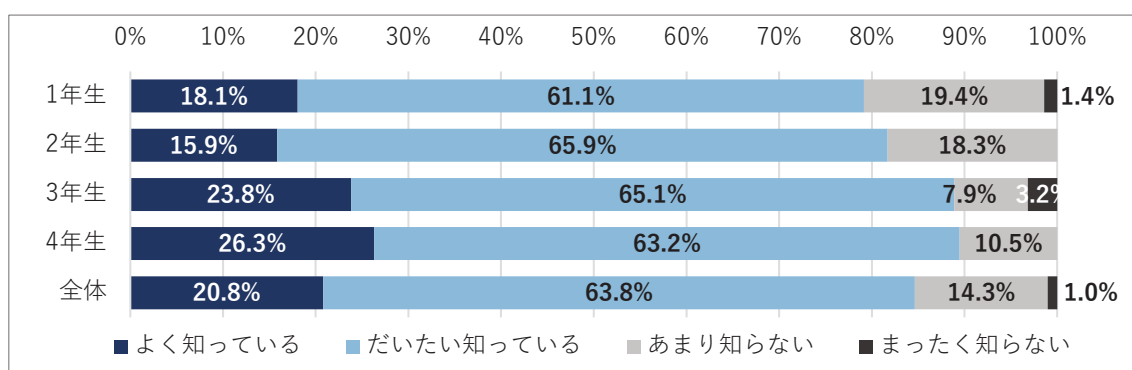
② グローバルな視点での課題の探求と新しい知識や技術の創造



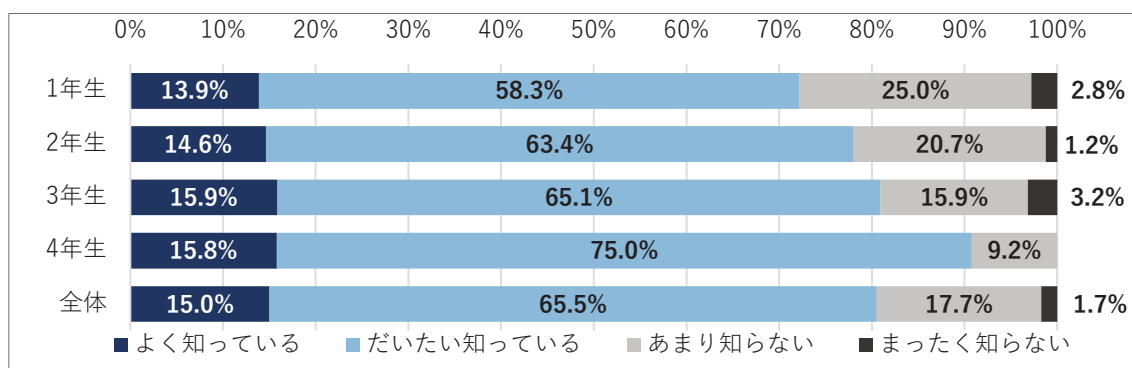
③ 専門的知識と技術の習得、個別の健康課題を考慮した実践



④ 地域社会における健康課題を把握、多職種連携の理解、多様な課題の解決



⑤ キャリア形成をみすえた自己研鑽

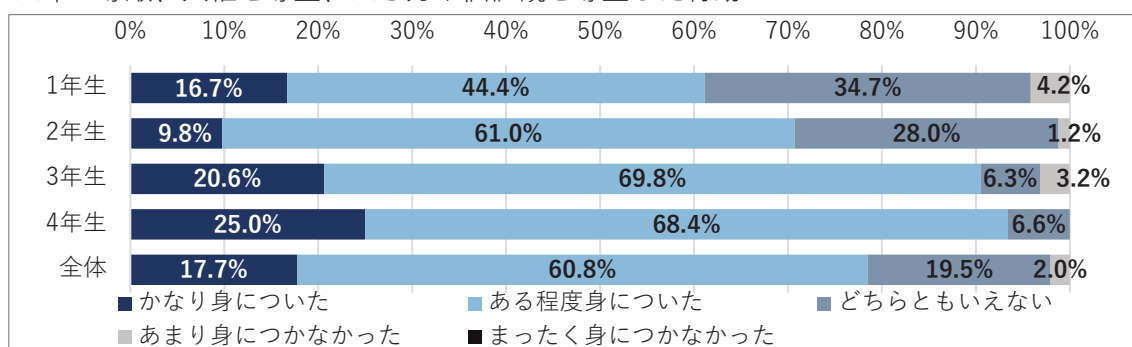


看護学部のディプロマポリシーの認知については、看護学部全体で 80%程度が各項目をある程度以上知っていると回答している。ただし「グローバルな視点から看護に関する課題を探究し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる」に関しては、ある程度以上知っていると回答した学生が看護学部全体で 67.2%である。

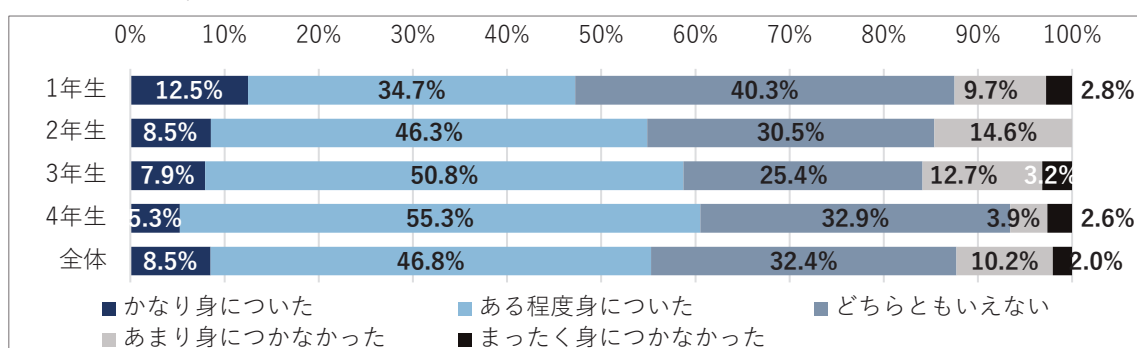
(3) 今年度、身について能力や態度（ディプロマポリシー項目に対する自己評価）

* 卒業年次の4年生は4年間を振り返って回答。

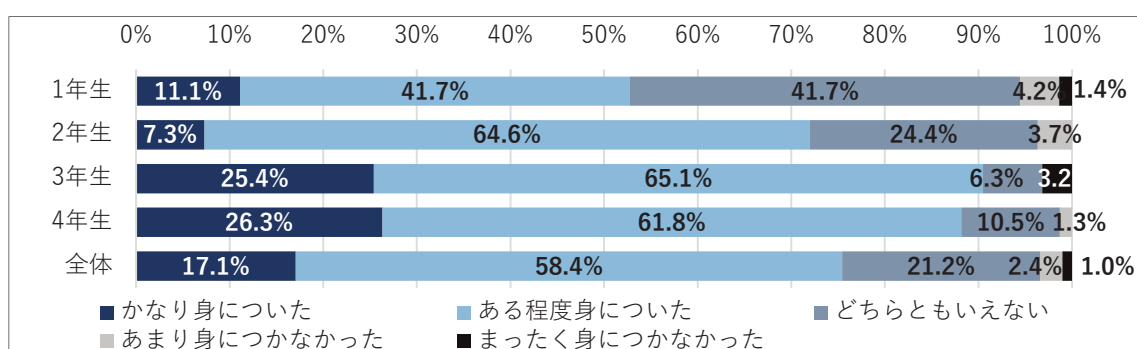
① 生命の尊厳、人権を尊重、生き方や価値観を尊重した行動



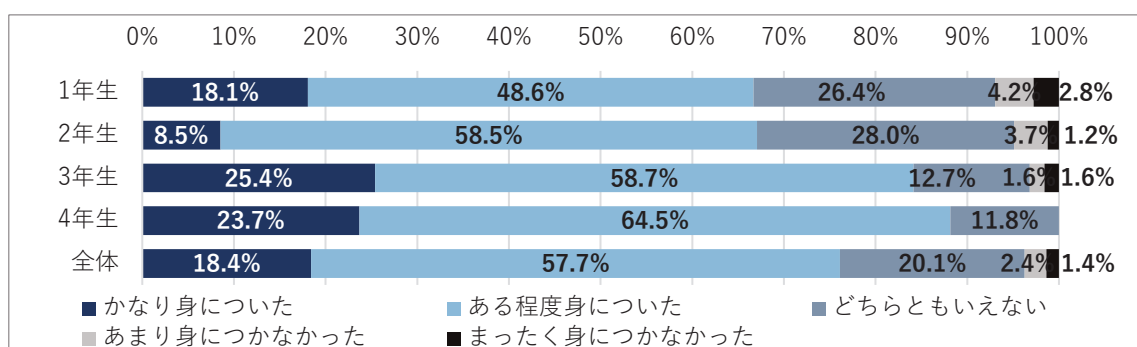
② グローバルな視点での課題の探求と新しい知識や技術の創造



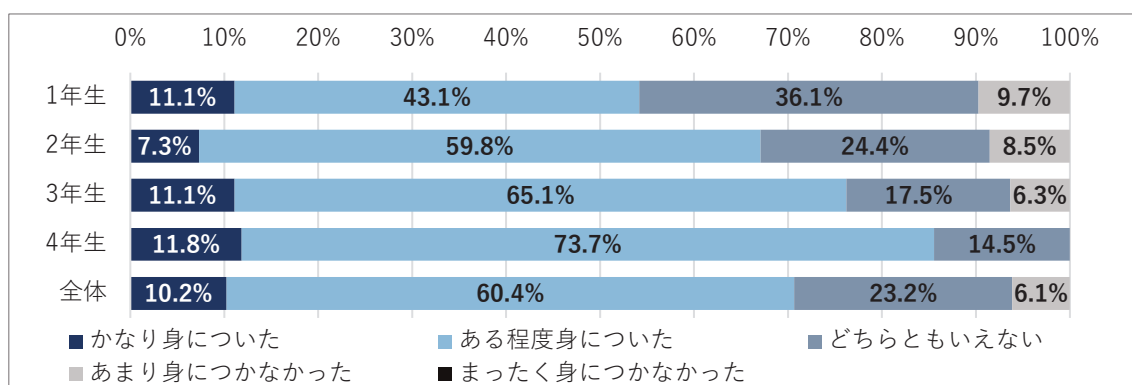
③ 専門的知識と技術の習得、個別の健康課題を考慮した実践



④ 地域社会における健康課題を把握、多職種連携の理解、多様な課題の解決



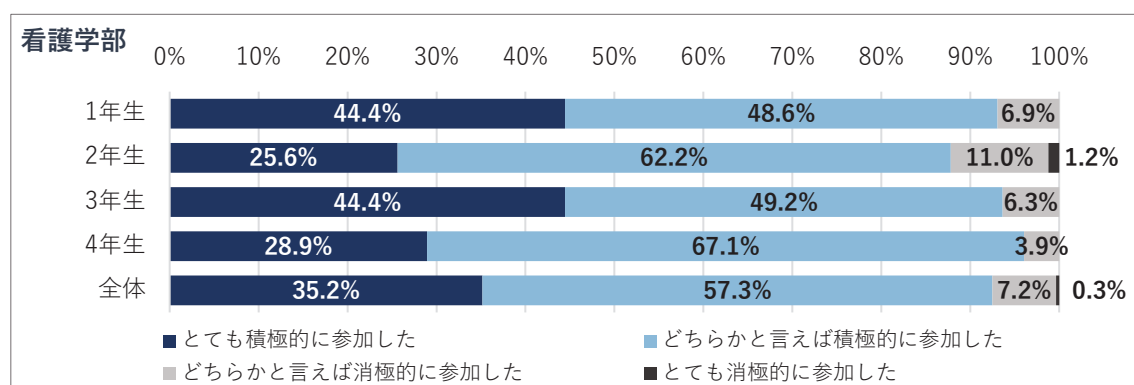
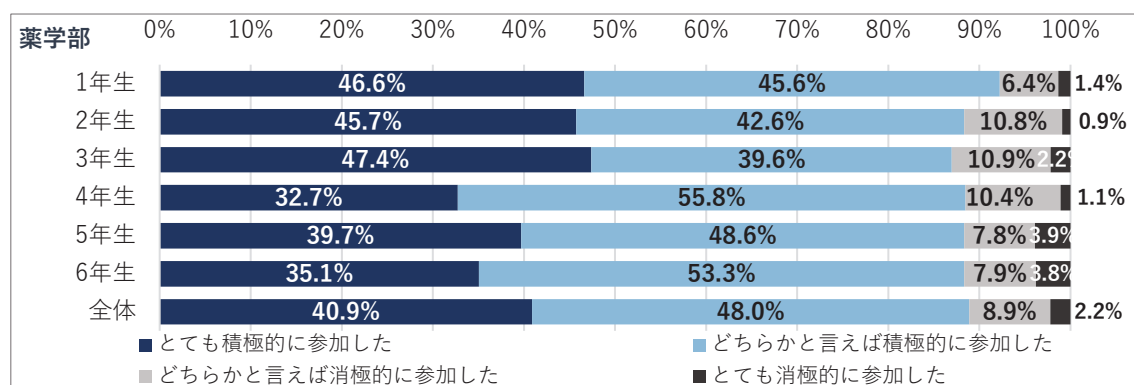
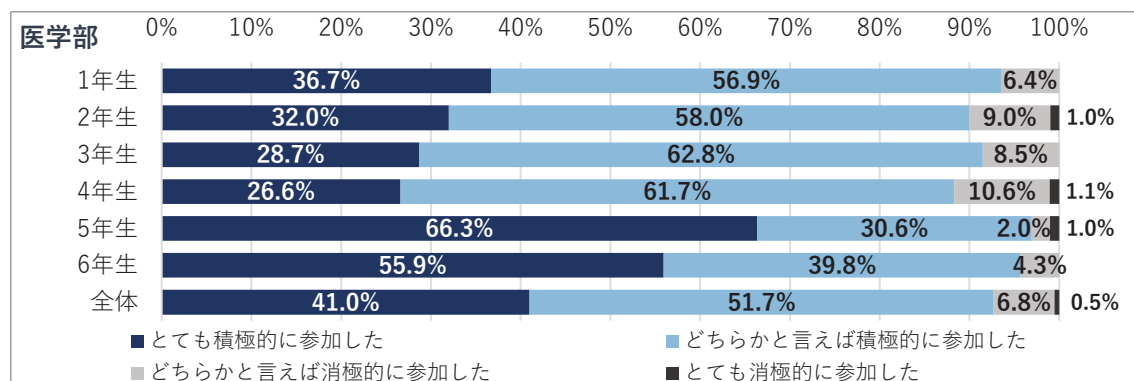
⑤ キャリア形成をみすえた自己研鑽



ディプロマポリシーとして掲げられている項目に関する達成度の自己評価では、看護学部全体で「かなり身についた」または「ある程度身についた」とする回答が各項目においても 70～80%であるが、「グローバルな視点での課題の探求と新しい知識や技術の創造」については 55.3%である。学年別にみると、3～4 年生で到達度の自己評価が高い。

2. 今年度の授業を振り返って

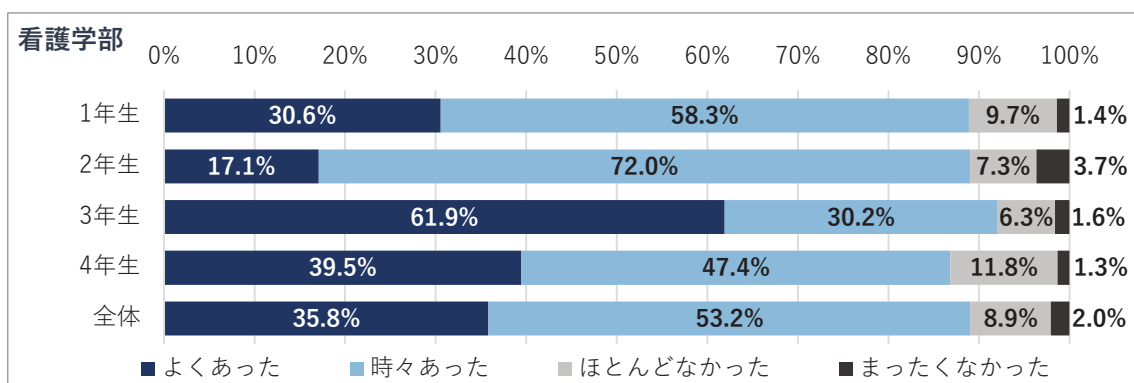
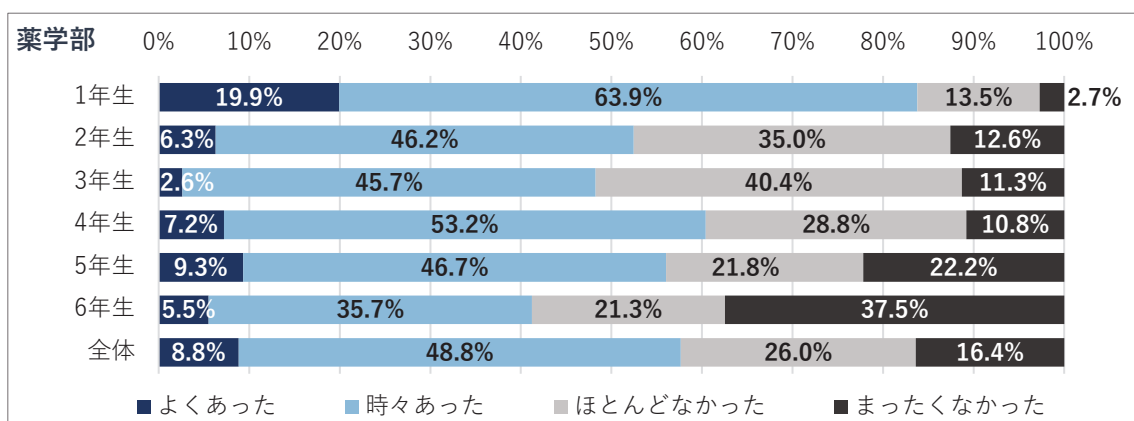
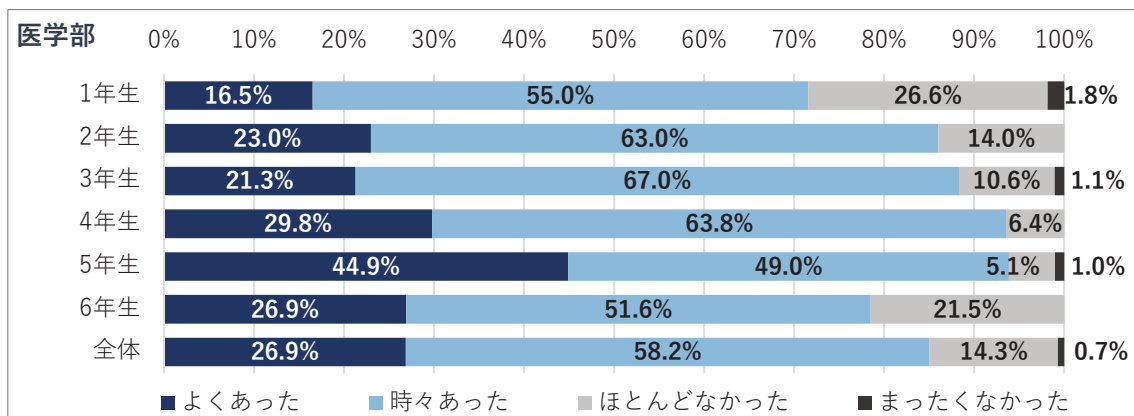
(1) 授業への積極的な参加



授業に積極的に参加したとする回答は、医学部全体で 92.7%、薬学部全体で 88.9%、看護学部全体で 92.5%である。学年別にみると、医学部の 5～6 年生では「とても積極的に参加した」と回答した学生が 55～65%程度、薬学部の 1～3 年生と看護学部の 1・3 年生では 45%前後が「とても積極的に参加した」と回答している。

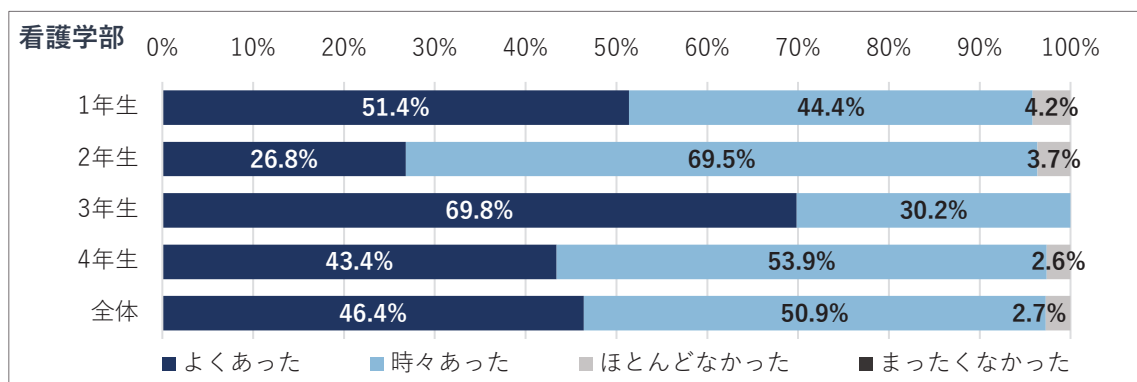
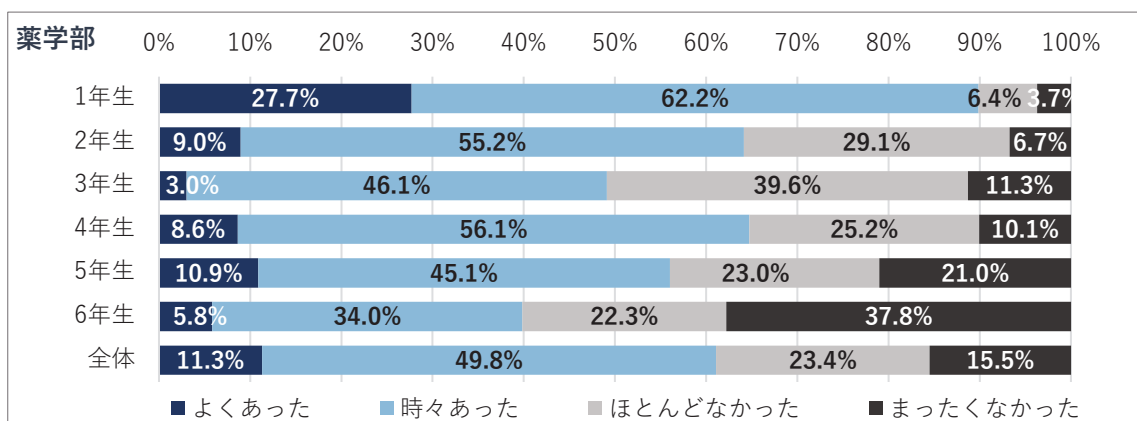
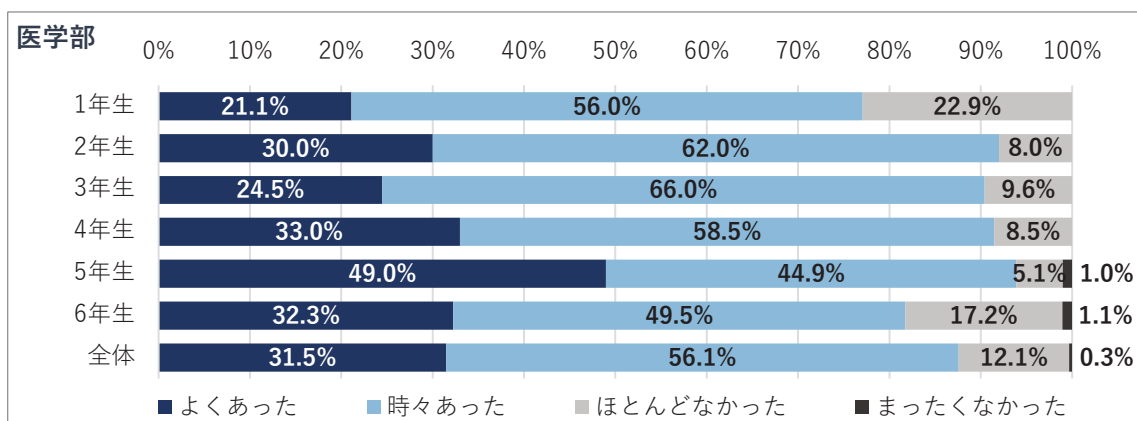
(2) アクティブラーニングの状況

①「ディスカッション、ディベート（議論・討論）」



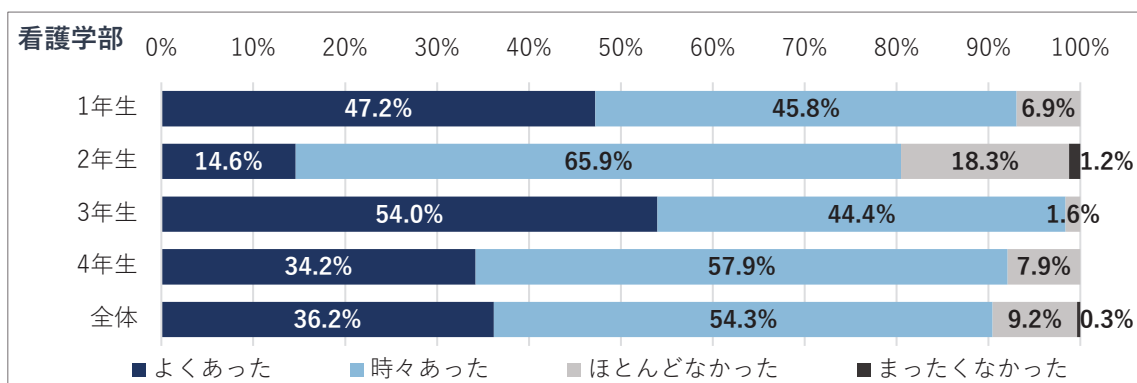
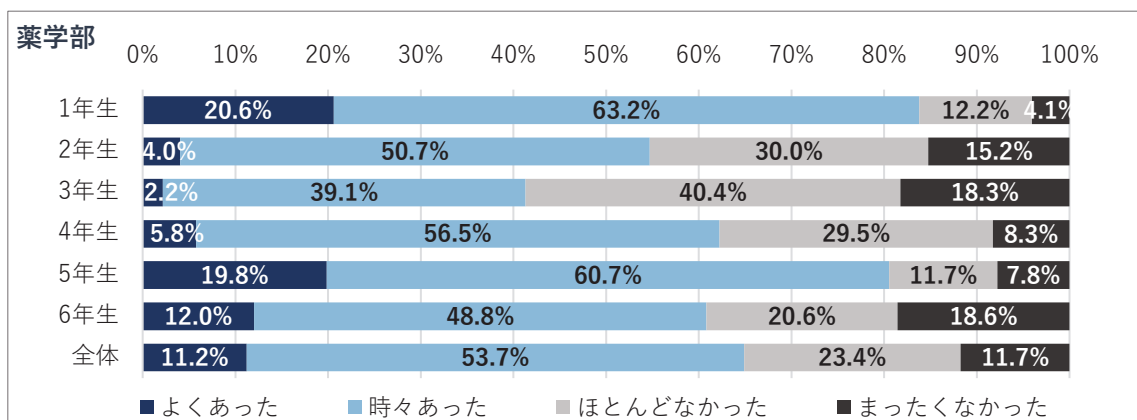
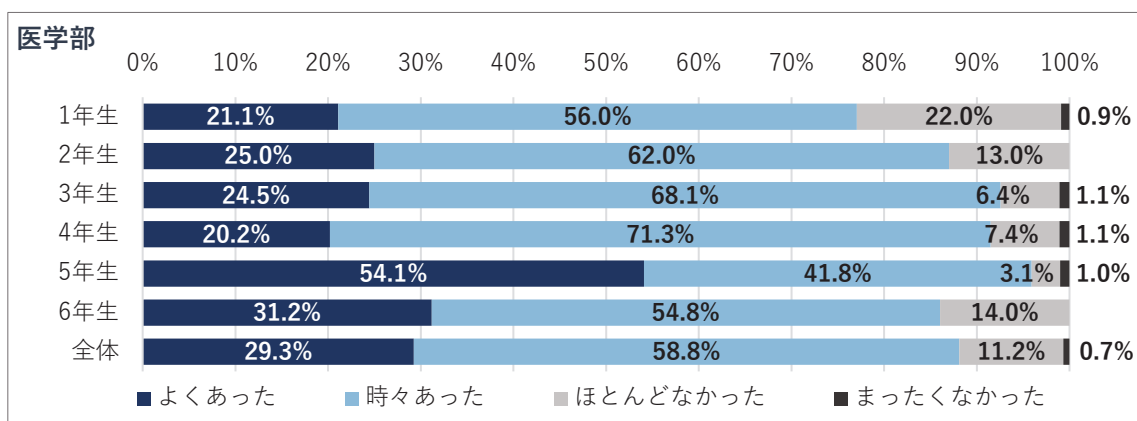
ディスカッション、ディベートについては、割合が高い順に看護学部全体で 89.0%、医学部全体で 85.1%、薬学部全体で 57.6%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部の 5 年生と看護学部の 3 年生で高い。

②「グループワーク（小グループや班別授業）」



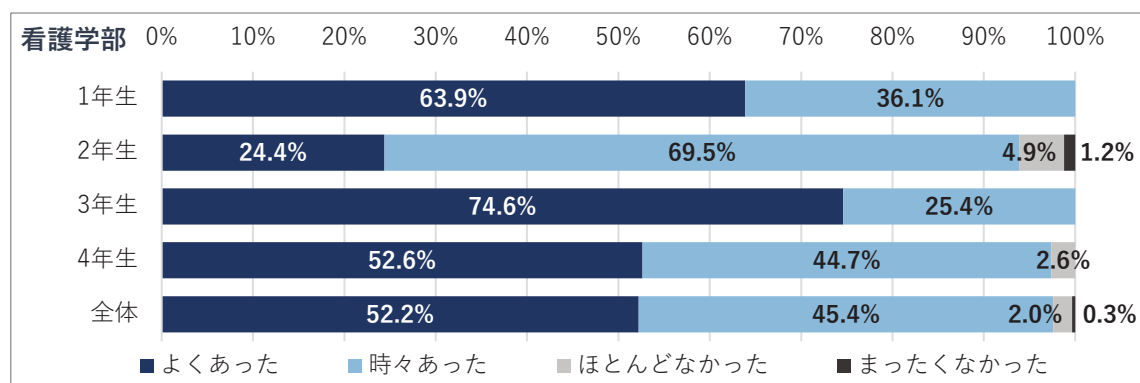
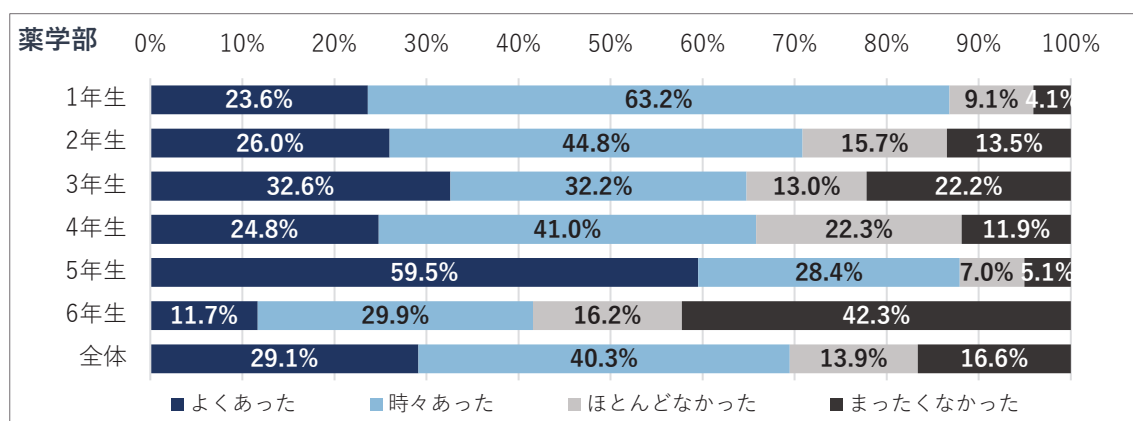
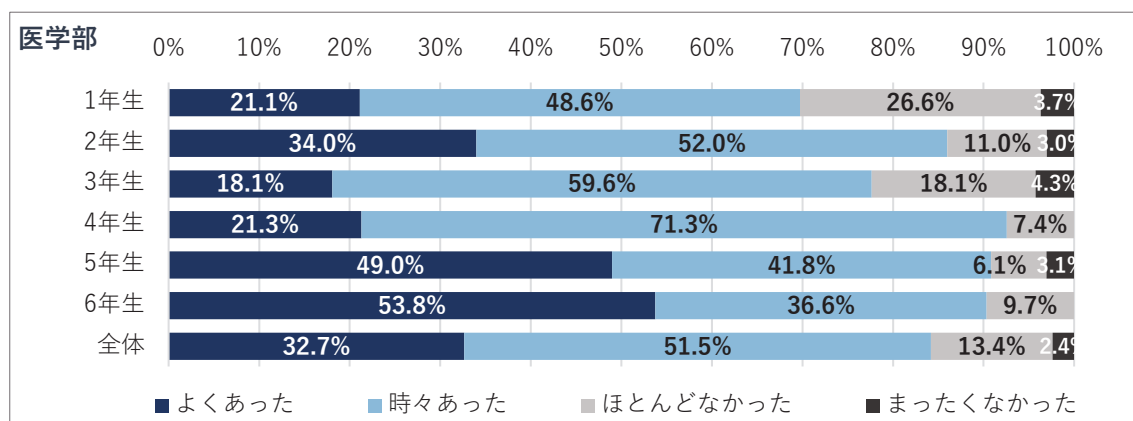
グループワークについては、割合が高い順に看護学部全体で 97.3%、医学部全体で 87.6%、薬学部全体で 61.1%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部の 5 年生と看護学部の 1・3 年生で高い。

③「プレゼンテーション（個人またはグループでの発表）」



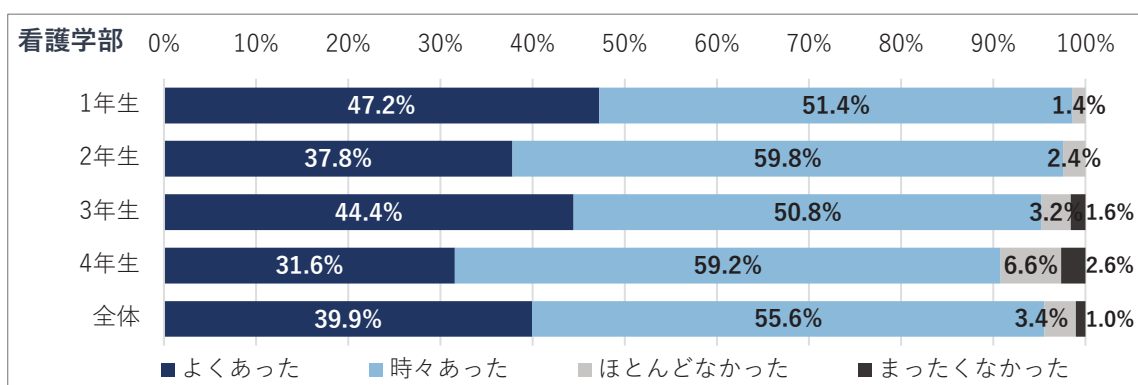
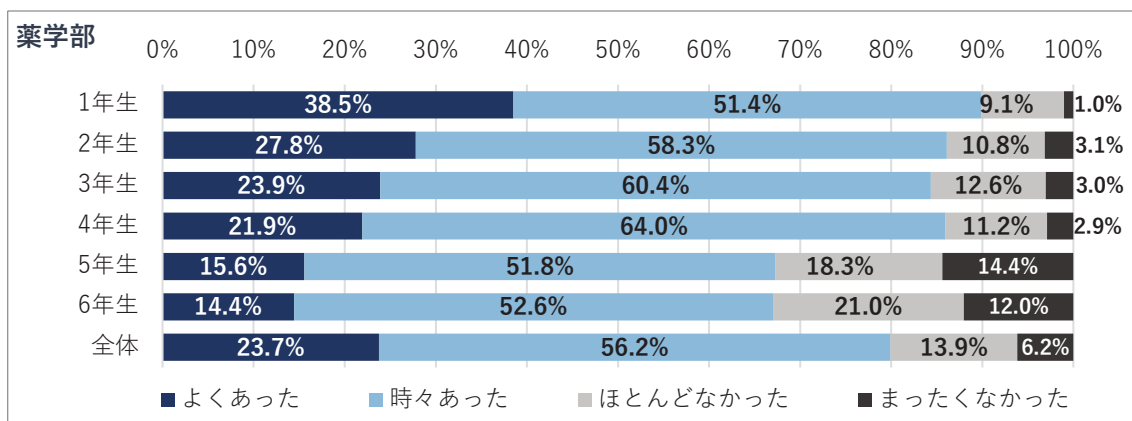
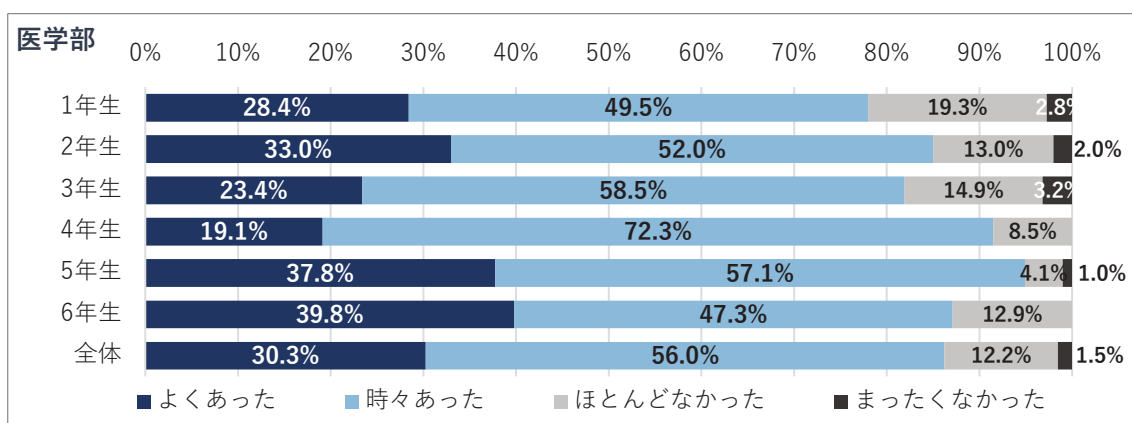
プレゼンテーションについては、割合が高い順に看護学部全体で 90.5%、医学部全体で 88.1%、薬学部全体で 64.9%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部の 5 年生と看護学部の 1・3 年生で高い。

④「実習、フィールドワーク（実習・臨床実習などの授業や学外に出向く授業など）」



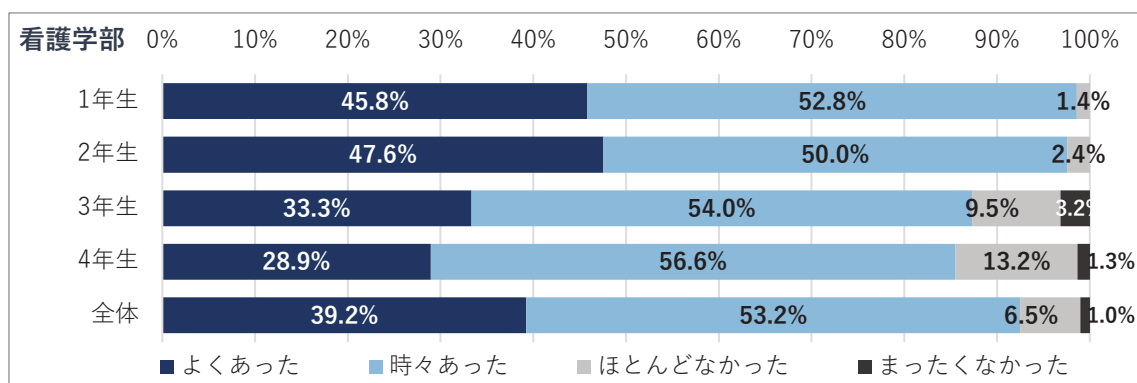
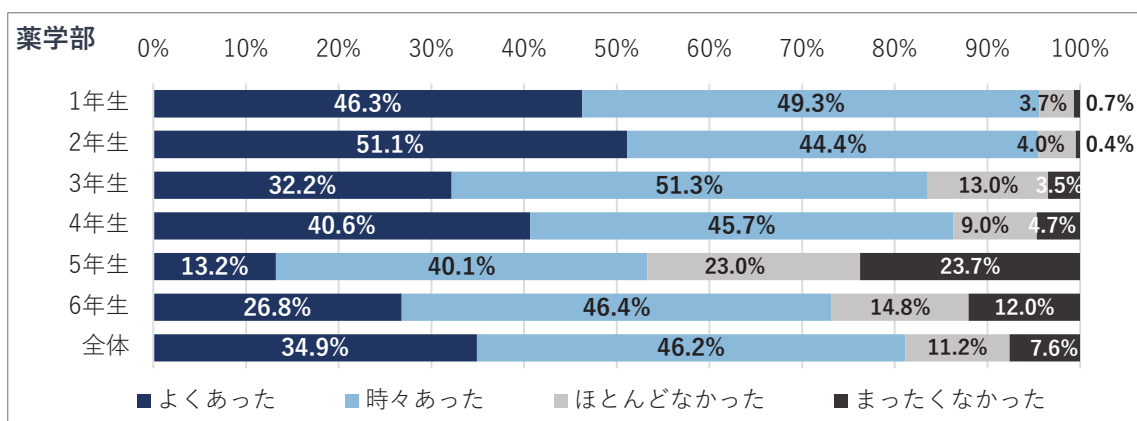
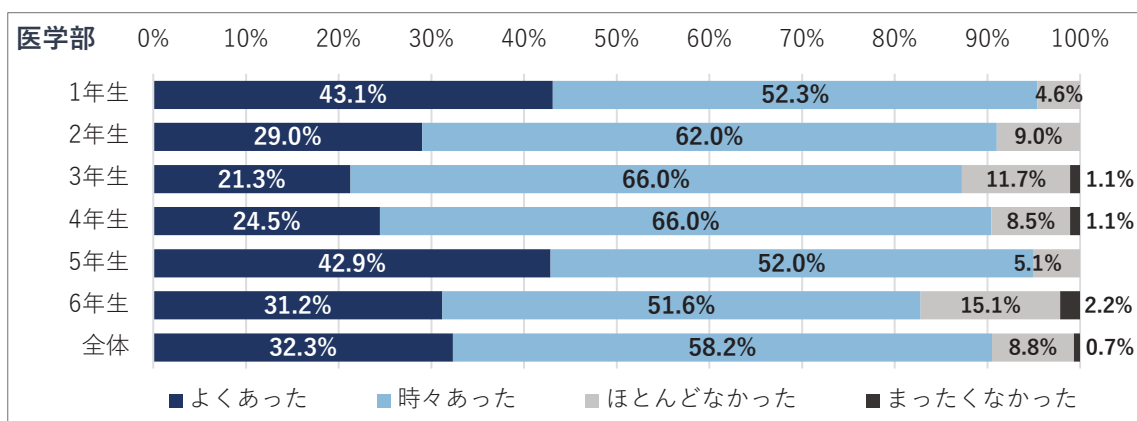
実習、フィールドワークについては、割合が高い順に看護学部全体で 97.6%、医学部全体で 84.2%、薬学部で全体の 69.4%が経験したと回答している。「よくあった」の回答の割合は、医学部の 5・6 年生、薬学部の 5 年生、看護学部の 1・3 年生で高い。

⑤「予習・復習を行うことを前提とする授業が行われる」



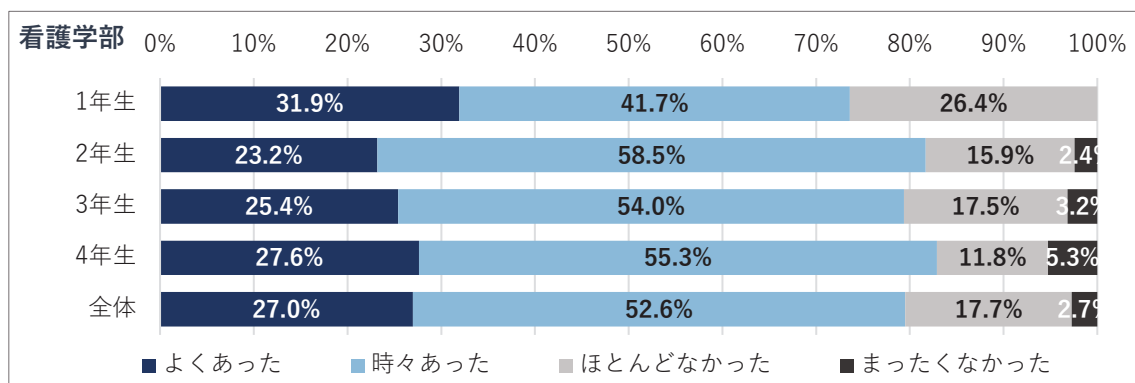
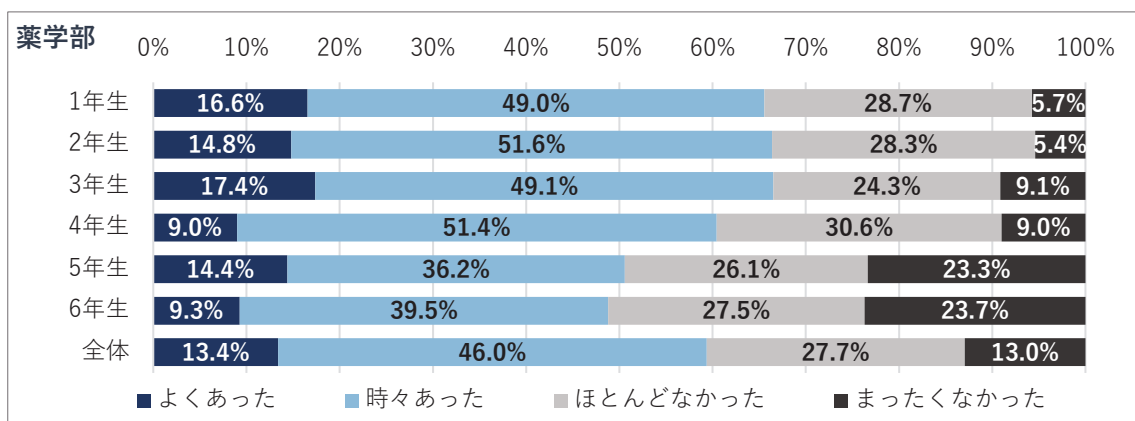
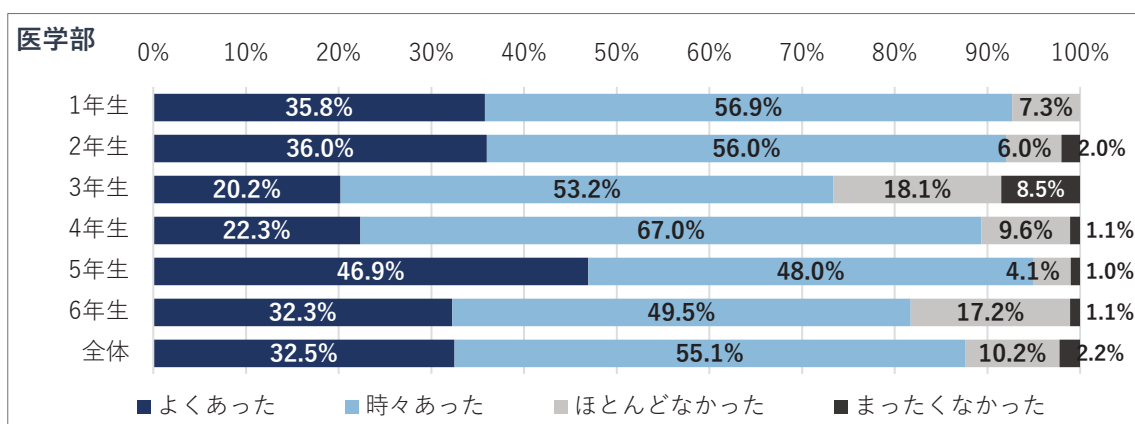
予習・復習を前提する授業については、割合が高い順に看護学部全体で 95.5%、医学部全体で 86.3%、薬学部全体で 79.9%が経験したと回答している。

⑥「定期的に小テストやレポートが課される」



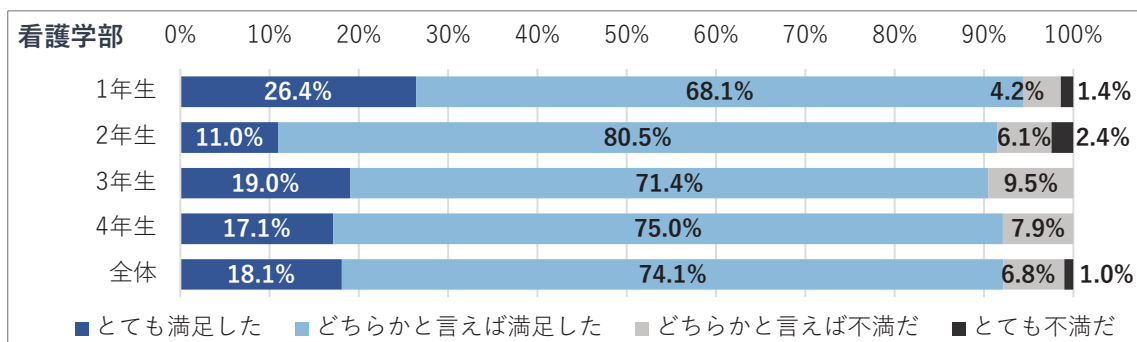
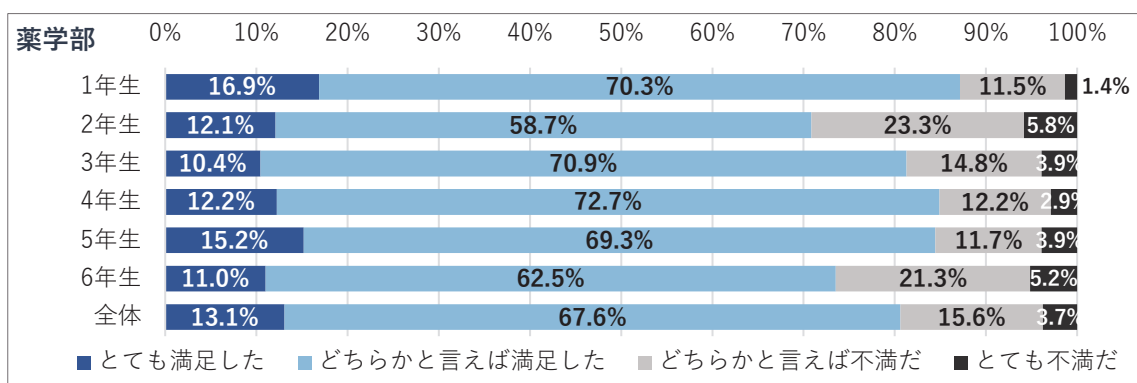
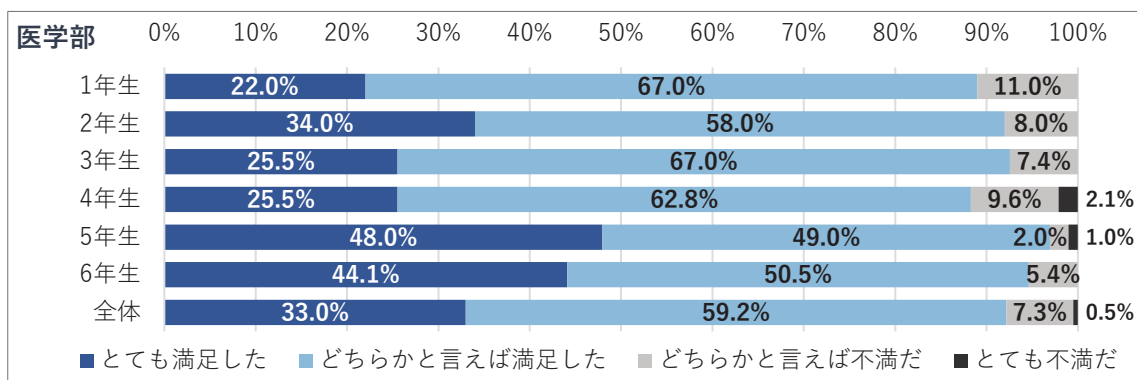
定期的に小テストやレポートが課される授業については、割合が高い順に看護学部全体で92.4%、医学部全体で90.5%、薬学部全体で81.1%が経験したと回答している。医学部の1・5年生、薬学部1・2・4年生と看護学部の1・2年生で「よくあった」の割合が高い。

⑦「レポート等提出物の添削と返却が行われる（教員からのフィードバックがある授業）」



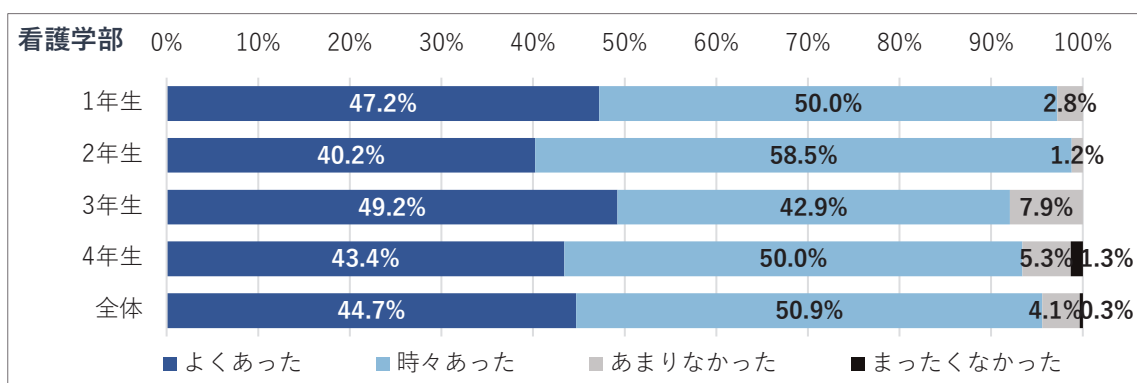
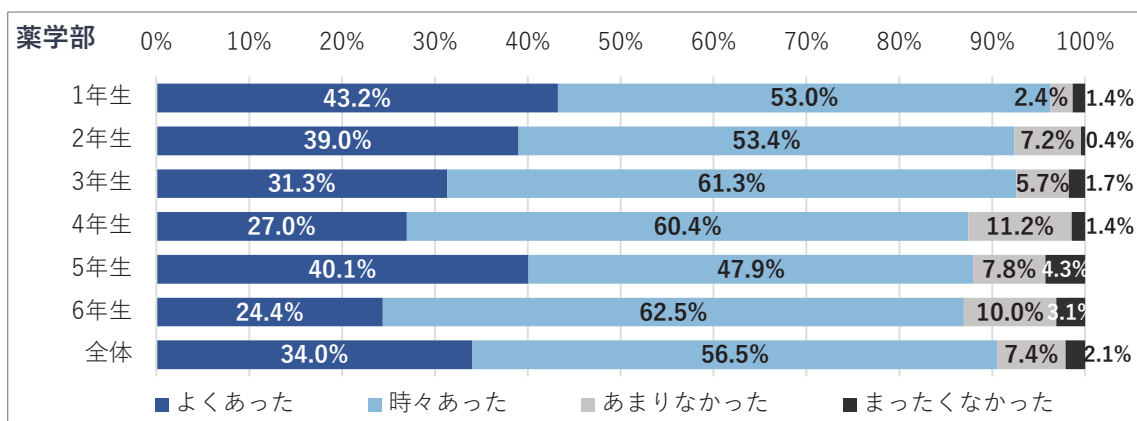
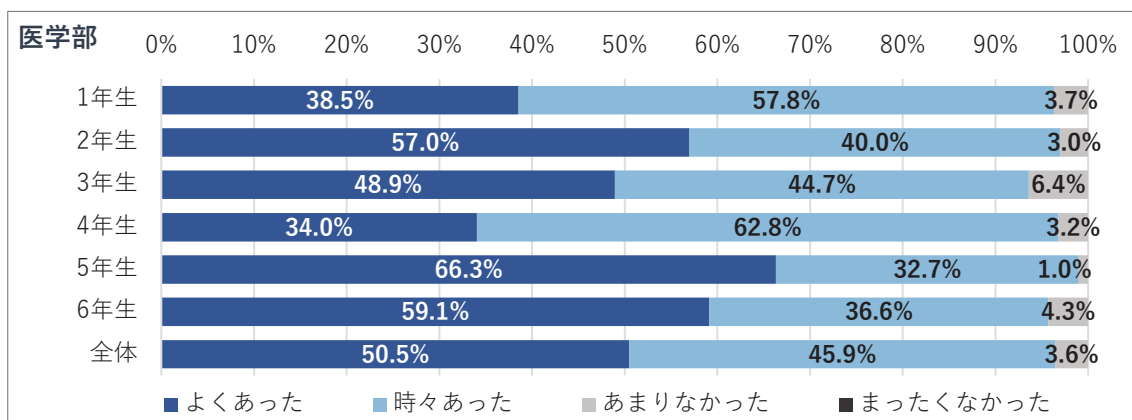
レポート等提出物の添削と返却が行われる授業については、割合が高い順に医学部全体の 87.6%、看護学部全体の 79.6%、薬学部全体の 59.4%が経験したと回答している。

(3) 授業カリキュラムの満足度



授業カリキュラムの満足度を学部全体でみると、「とても満足した」割合がもっとも高いのは医学部で 33.0%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると 92.2%が満足したと回答している。薬学部では「とても満足した」が 13.1%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると 80.7%が満足したと回答しており、看護学部では「とても満足した」が 18.1%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると 92.2%が満足したと回答している。

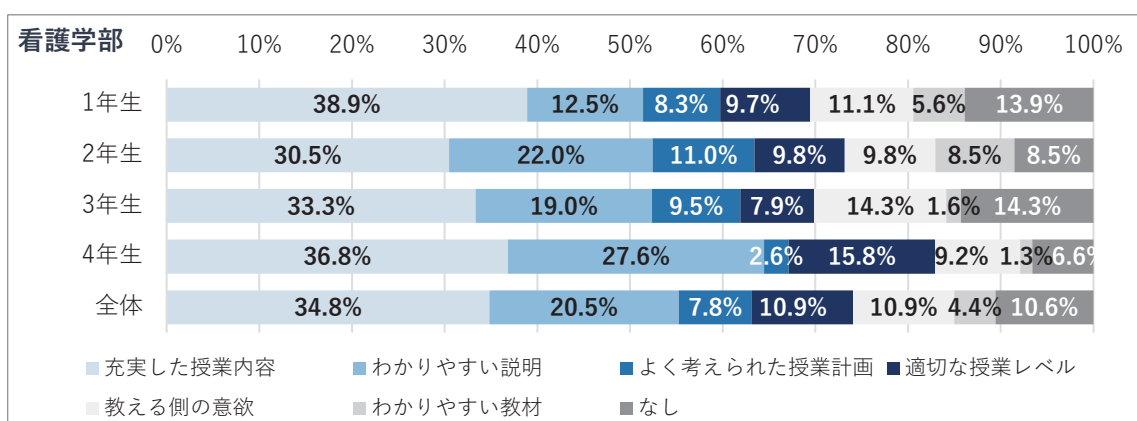
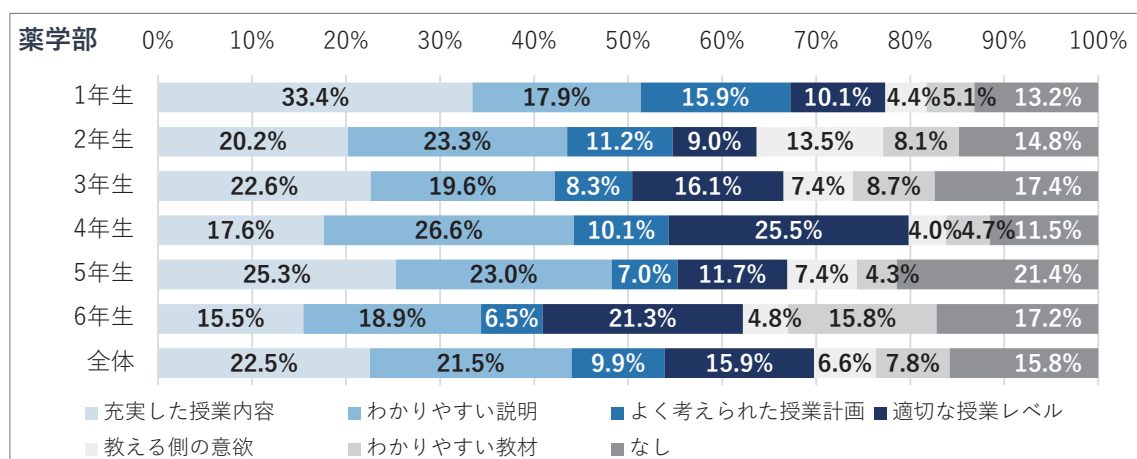
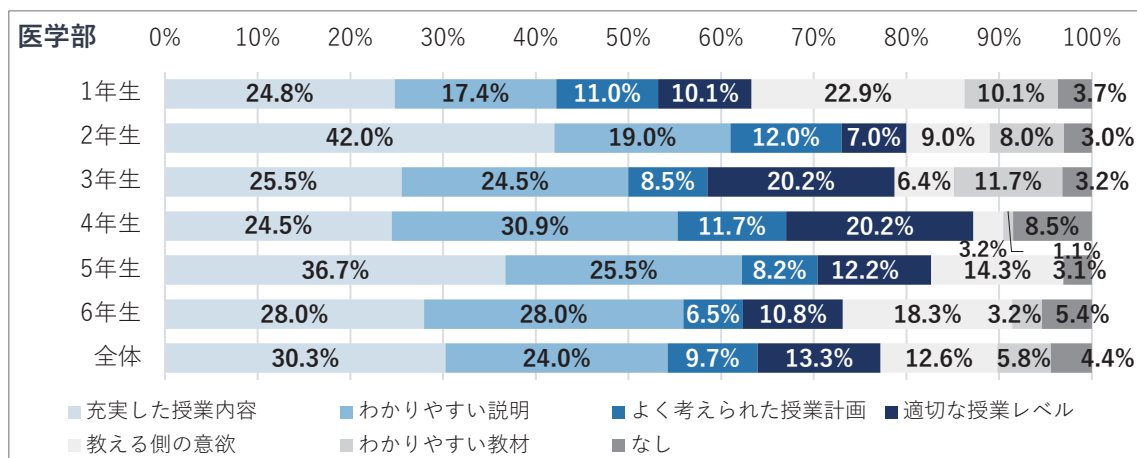
(4) 現在あるいは将来役立ちそうな授業



現在あるいは将来役立ちそうな授業について「よくあった」とする回答は、割合が高い順に医学部全体で 50.5%、看護学部全体で 44.7%、薬学部全体で 34.0%である。医学部、薬学部、看護学部とも 90%以上が役立つ授業があったと回答している。

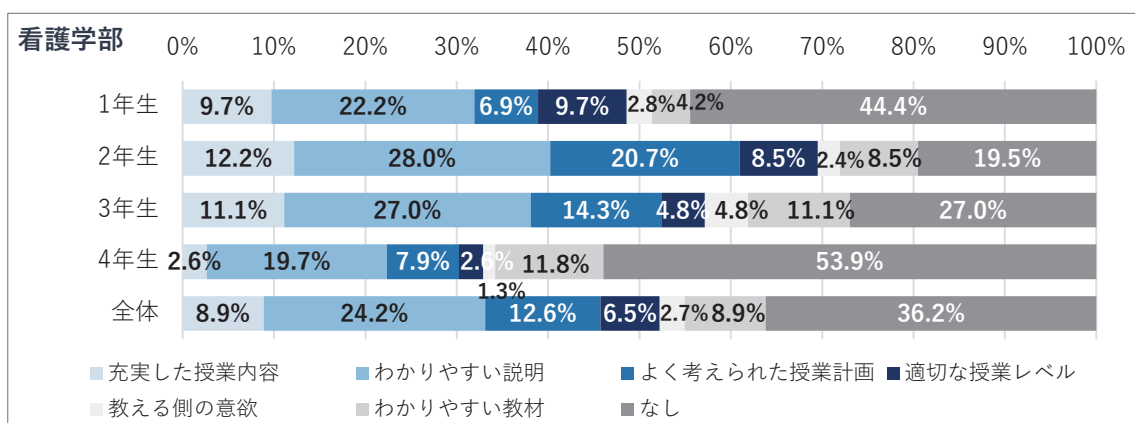
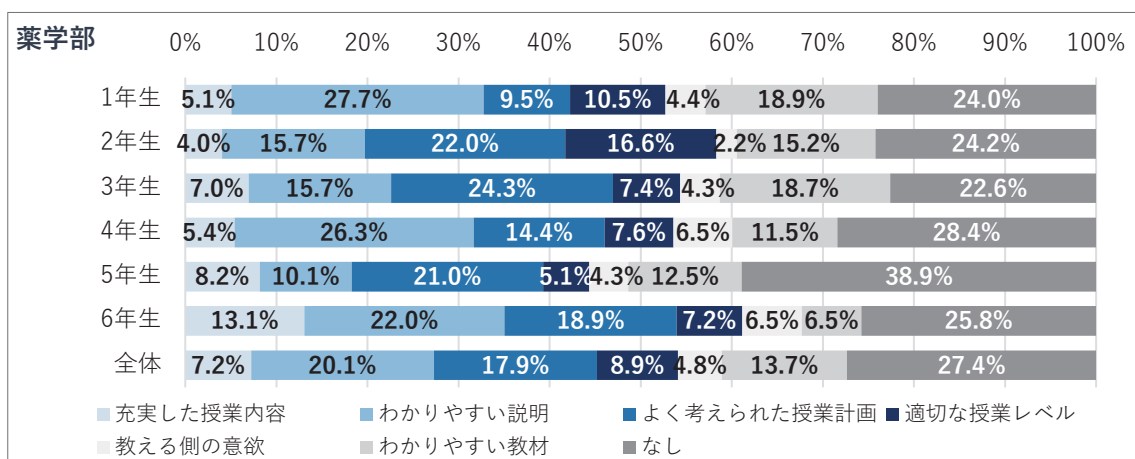
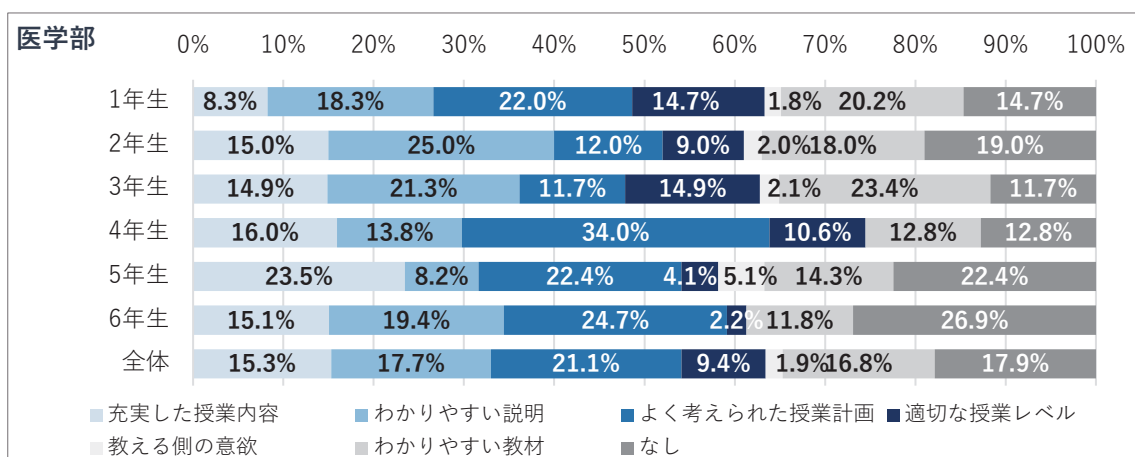
(5) 授業全般への評価

①「よかった」ところ



授業全般についてもっともよかったところについては、学部全体でみると医学部、薬学部、看護学部いずれも「充実した内容」と「わかりやすい説明」が上位であり、次いで「適切な授業レベル」が挙げられている。

②「欠けていた」ところ

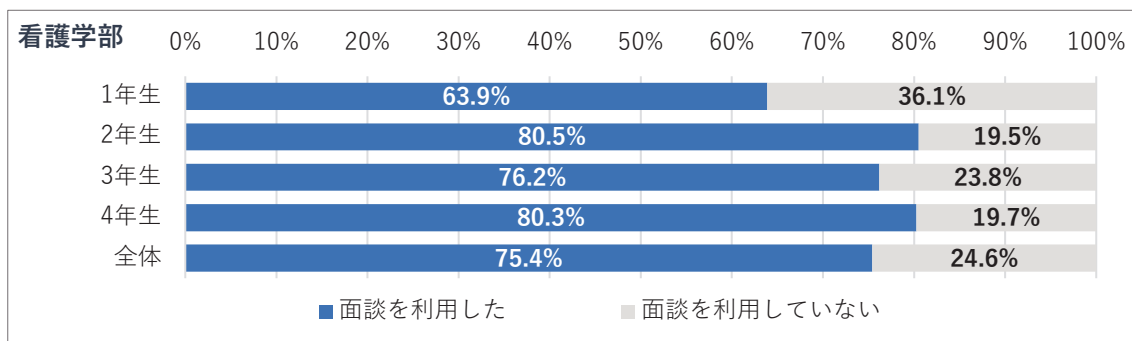
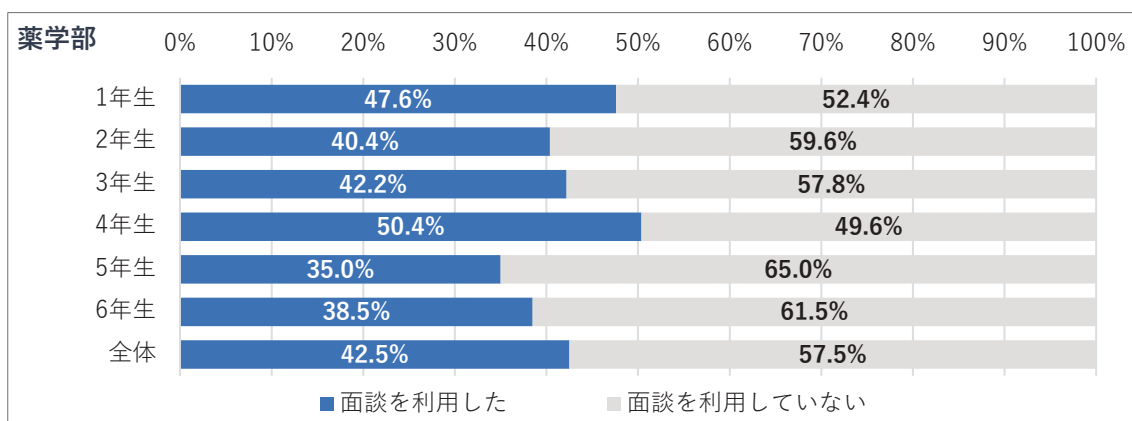
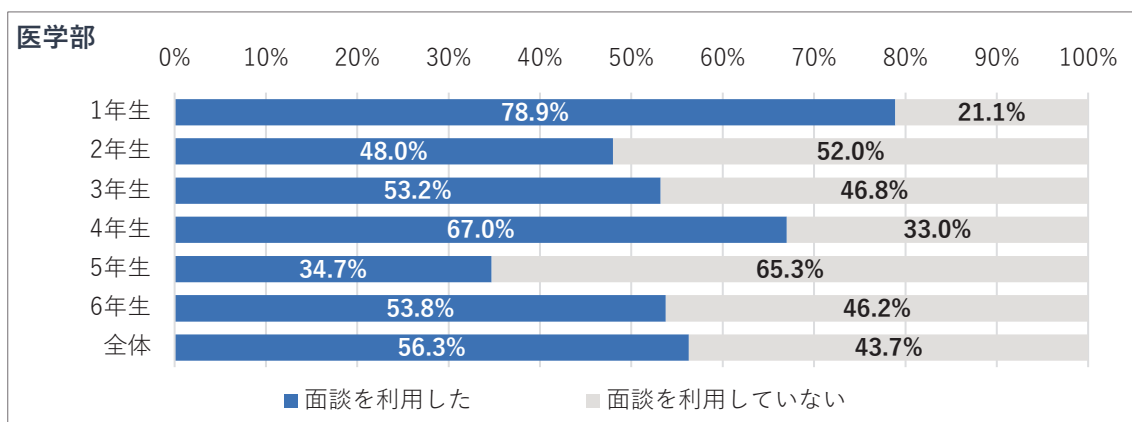


授業全般についてもっとも欠けていたところについては、学部全体でみると医学部、薬学部、看護学部いずれも「わかりやすい説明」と「よく考えられた授業計画」が上位である。一方、欠けていたところがないとする回答は、割合が高い順に看護学部全体で36.2%、薬学部全体で27.4%、医学部全体で17.9%である。

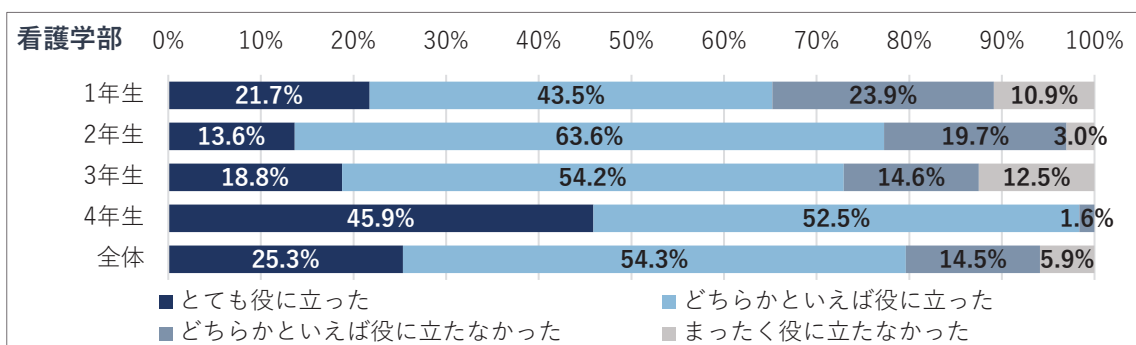
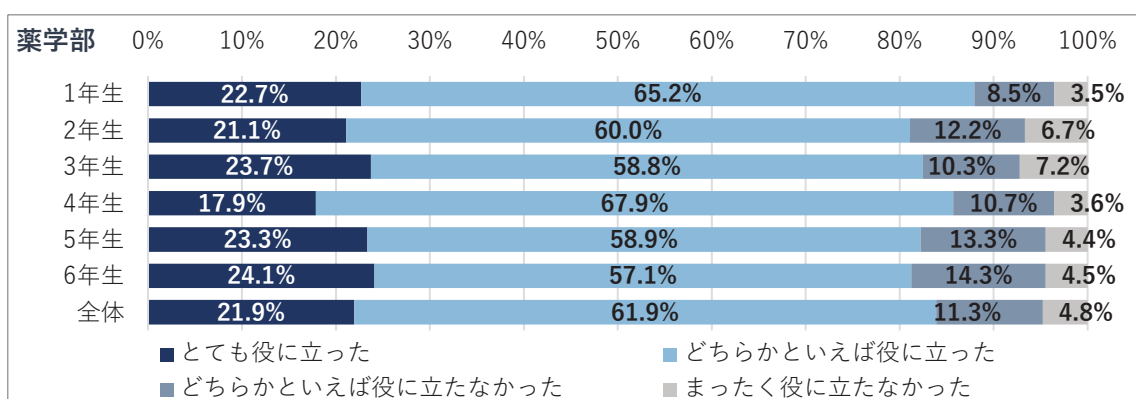
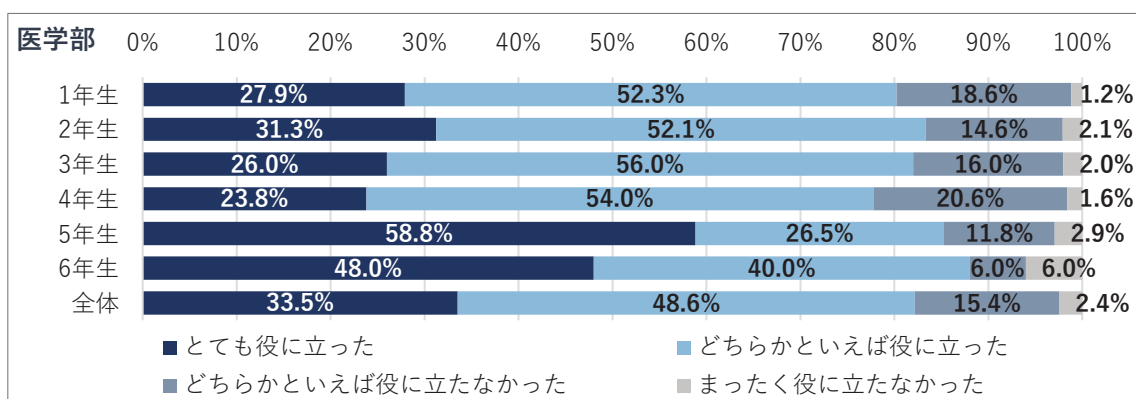
3. 教員※との面談

※ 医学部：担任・メンター教員，薬学部：アドバイザー教員，
看護学部：チューター教員

(1) 面談の利用



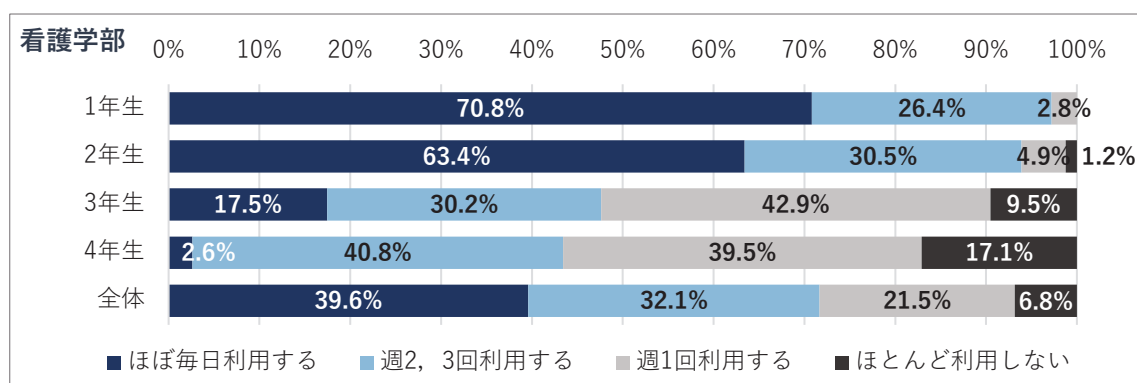
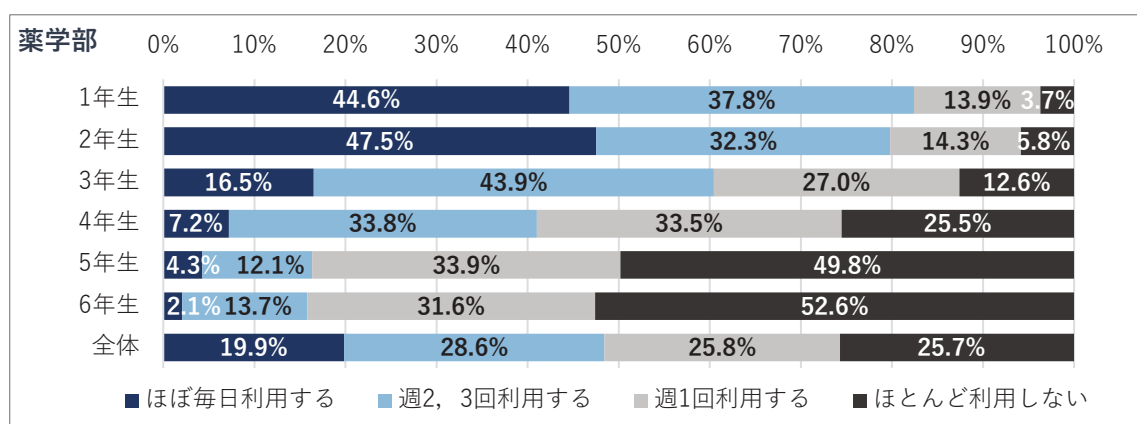
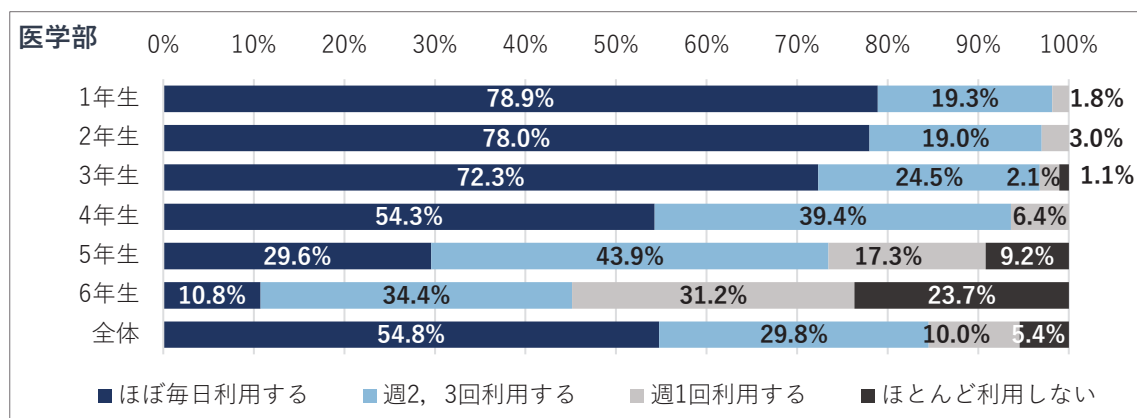
(2) 面談に対する評価



教員との面談を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 75.4%、医学部全体で 56.3%、薬学部全体で 42.5%である。面談を利用した学生の評価をみると、医学部、薬学部、看護学部とも役に立ったとする回答が 80%程度である。「とても役に立った」とする回答は、割合が高い順に医学部全体で 33.5%、看護学部で 25.3%、薬学部で 21.9%である。学年別では医学部の 5・6 年生と看護学部の 4 年生で「とても役に立った」の割合が高い。

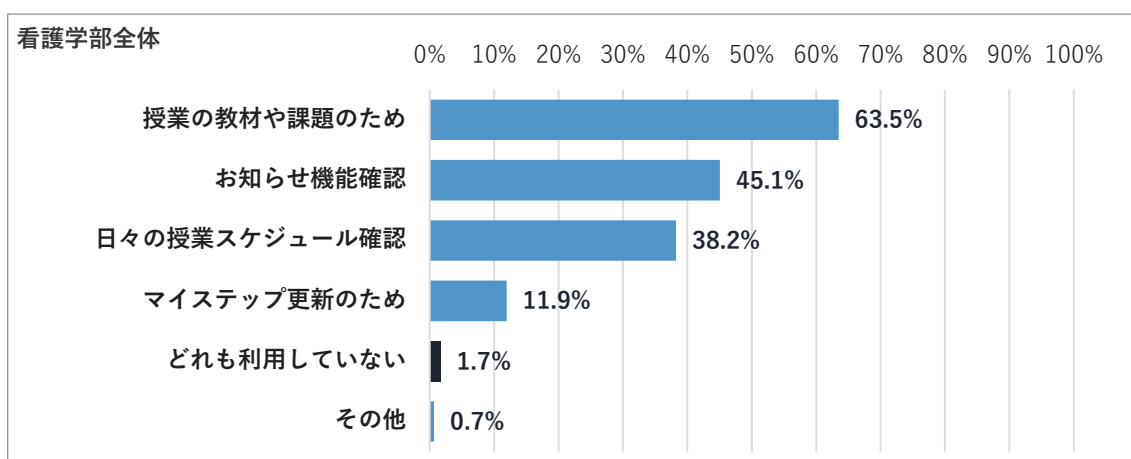
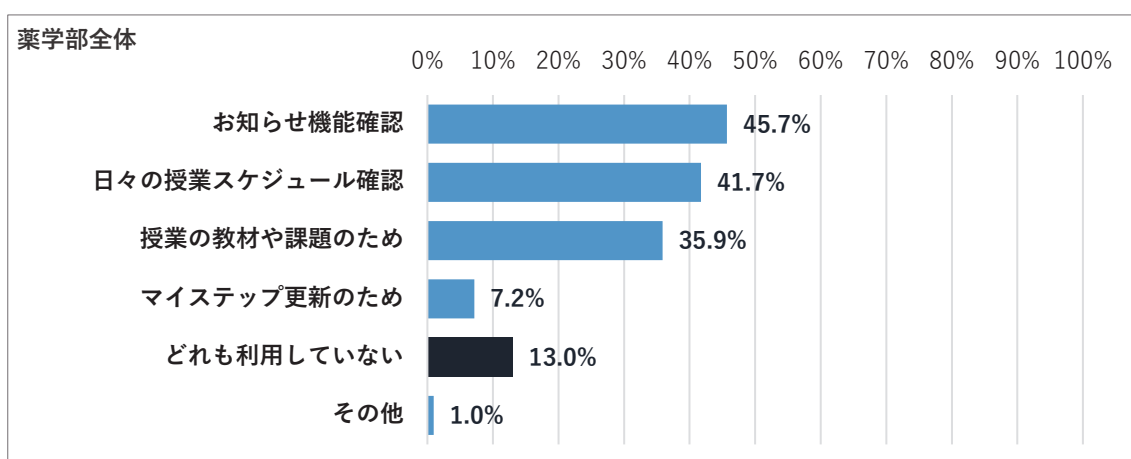
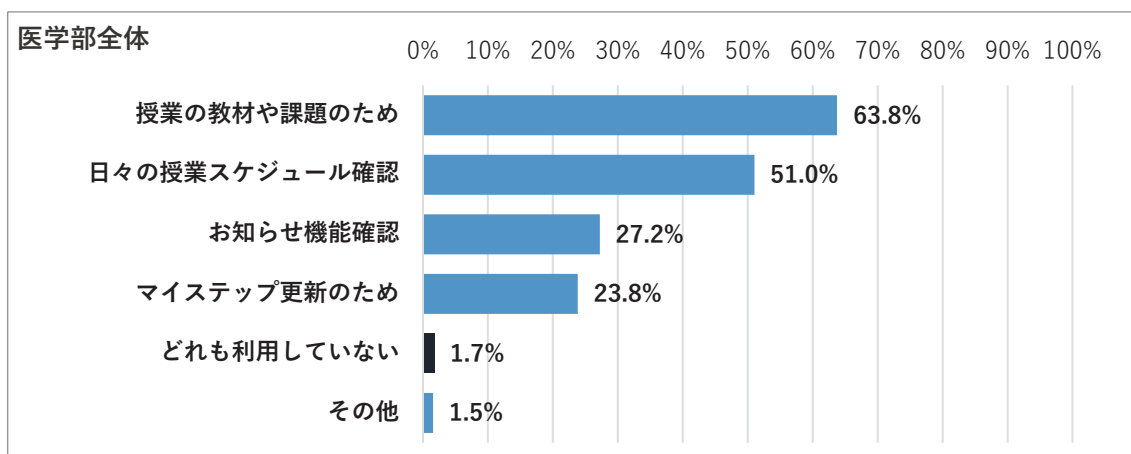
4. UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) の利用

(1) 今年度の利用状況



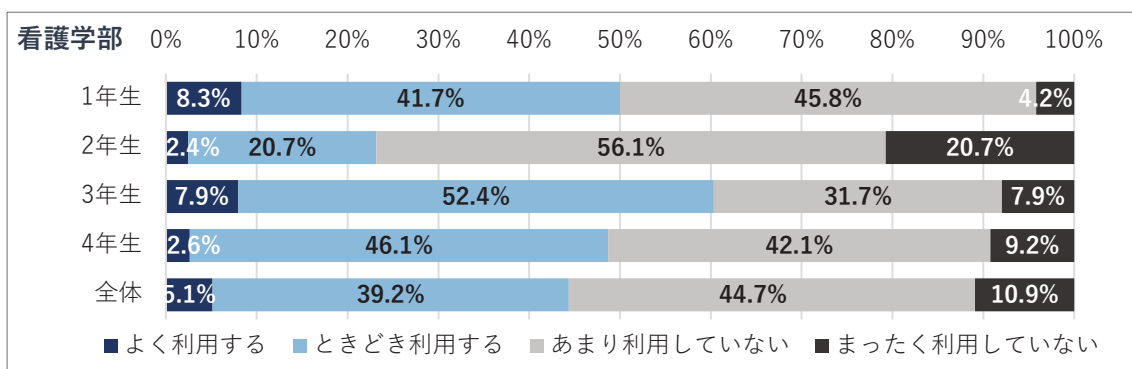
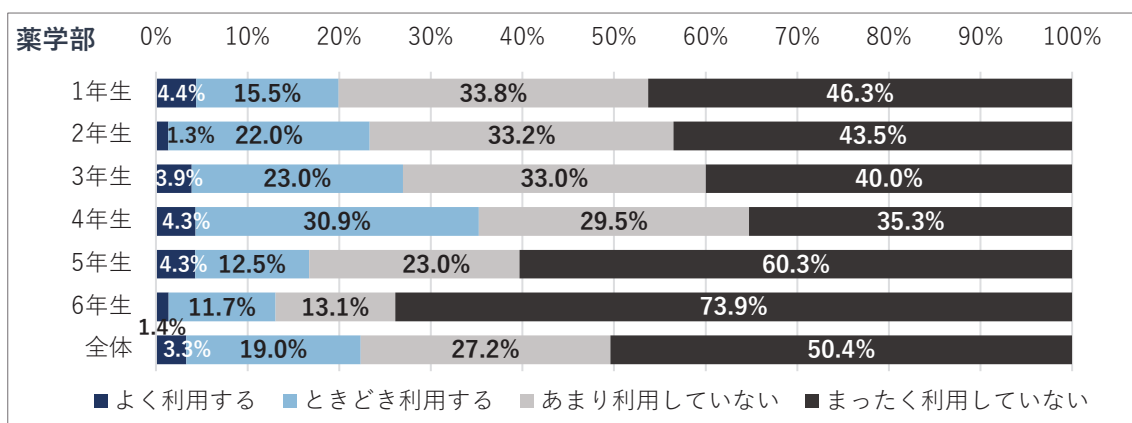
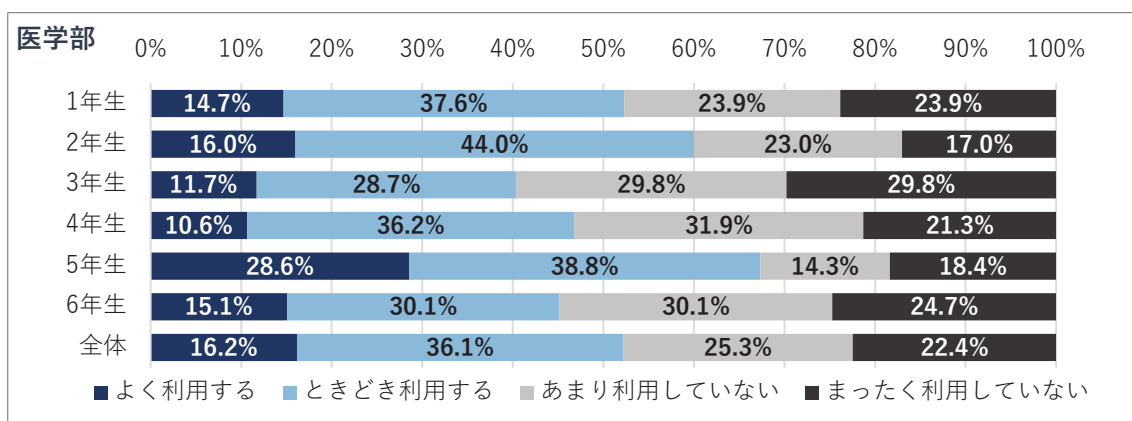
UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) の利用について「ほぼ毎日利用する」学生は、割合が高い順に医学部全体で 54.8%、看護学部全体で 39.6%、薬学部全体で 19.9% である。ただし、医学部、薬学部、看護学部とも学年によって利用頻度に差があり、医学部では 1～3 年生、薬学部と看護学部では 1・2 年生で比較的に利用する頻度が高い。

(2) UNIPA の利用目的



UNIPA の利用目的をみると、もっとも割合が高いのは医学部と看護学部では「授業の教材や課題のため」であり、薬学部では「お知らせ機能確認」である。医学部・薬学部・看護学部とも、「授業の教材や課題のため」、「お知らせ機能確認」、「日々の授業スケジュール確認」が利用目的の上位である。

(3) UNIPA「マイステップ」の利用状況

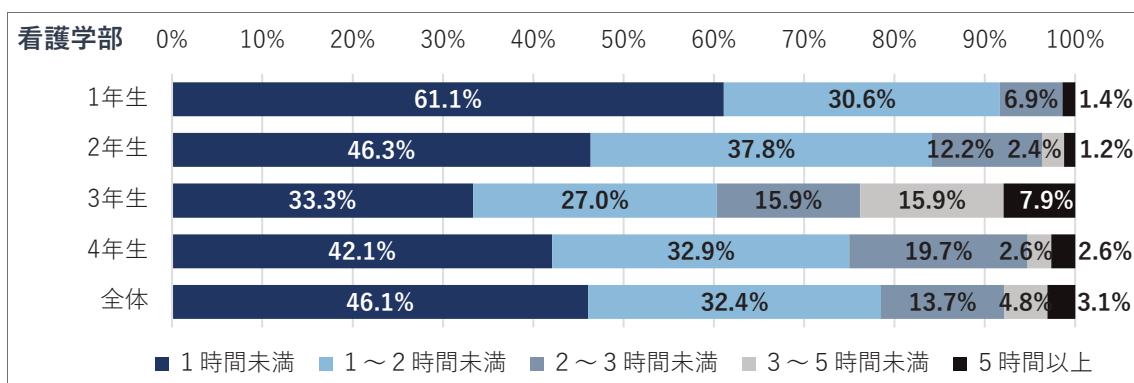
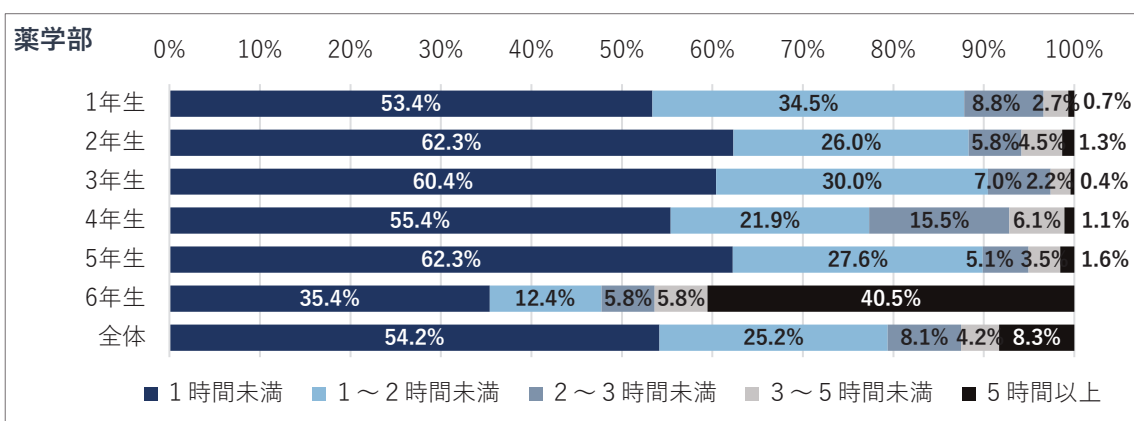
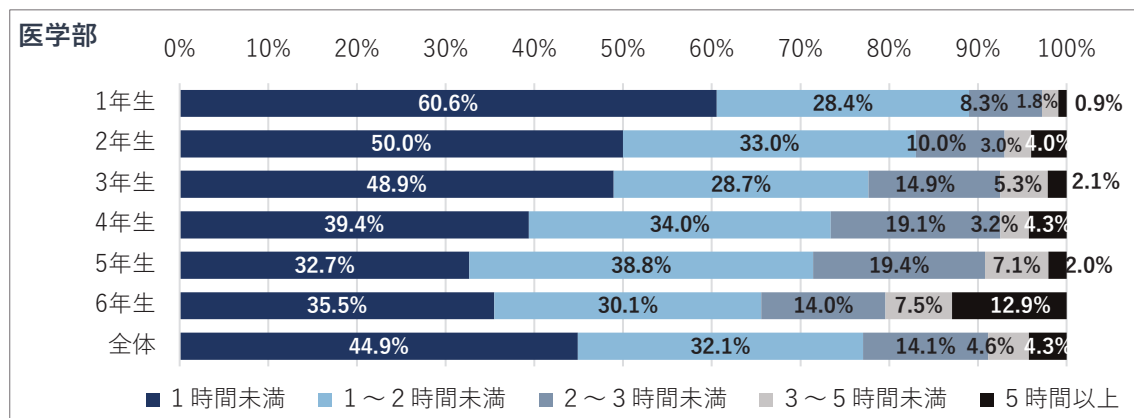


UNIPA「マイステップ」を比較的に利用している学生は、割合が高い順に医学部全体で52.3%、看護学部全体で44.3%、薬学部全体では22.3%である。

5. 授業外学習

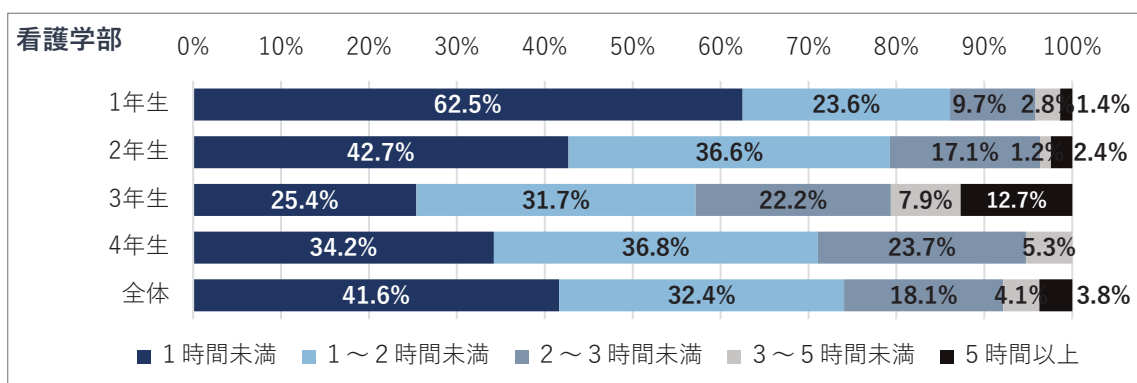
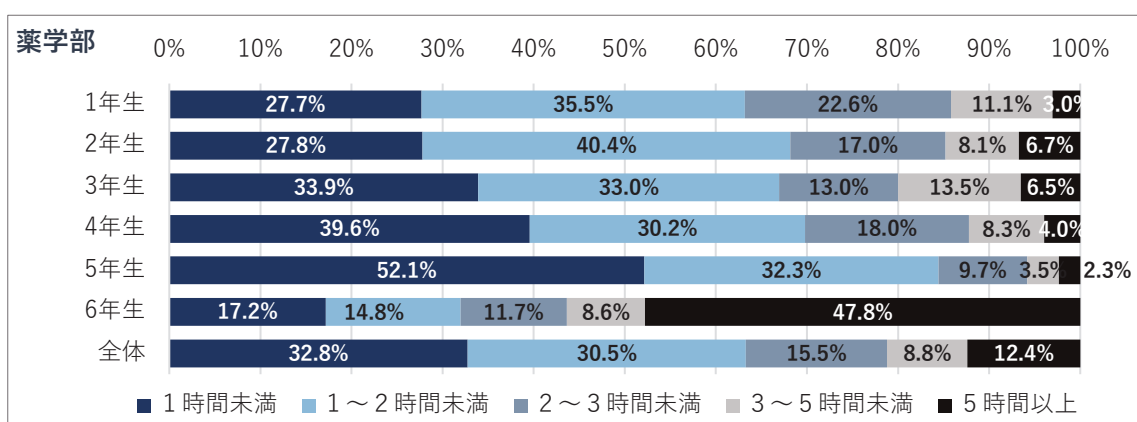
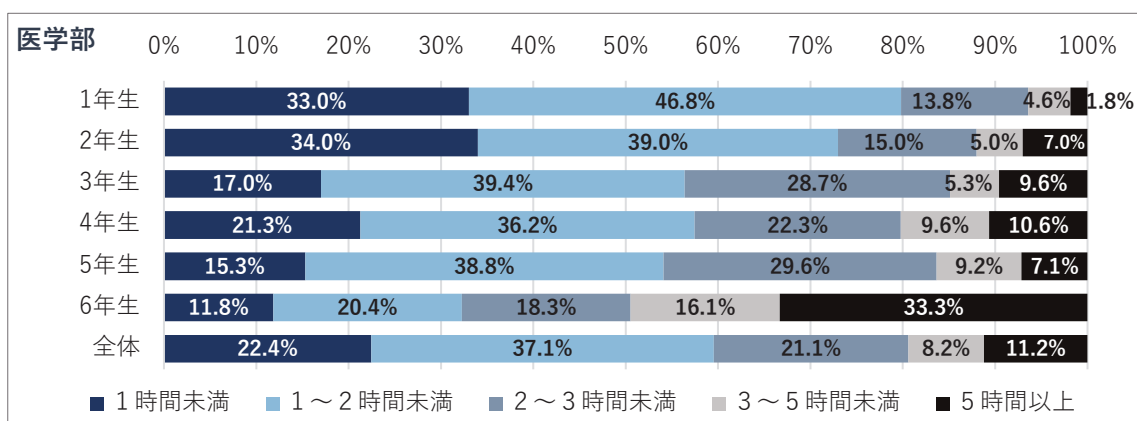
(1) 予習・復習時間

① 平均的な1日あたりの予習時間



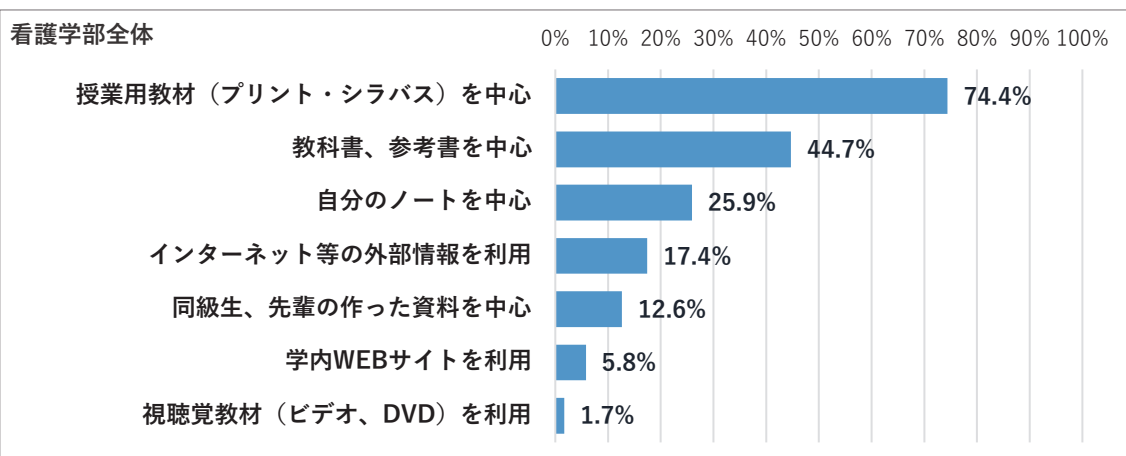
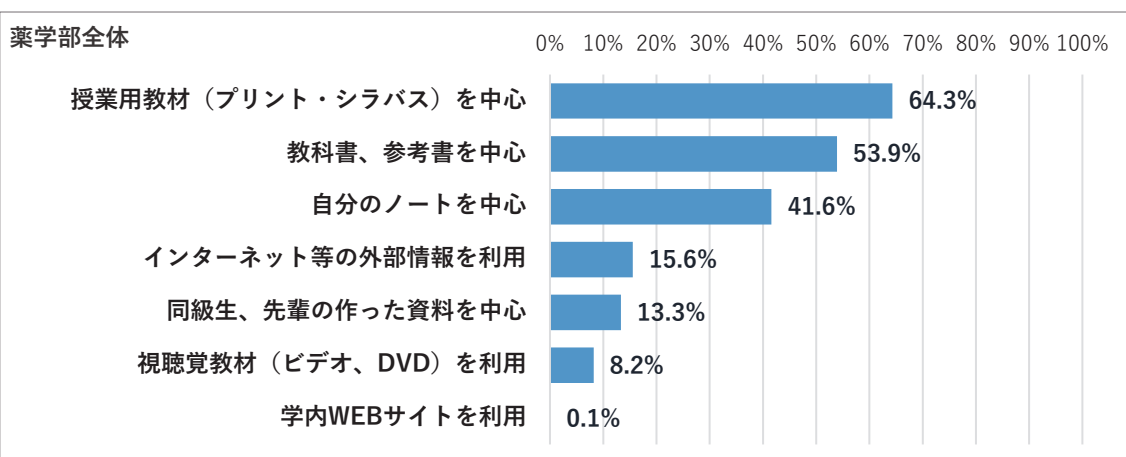
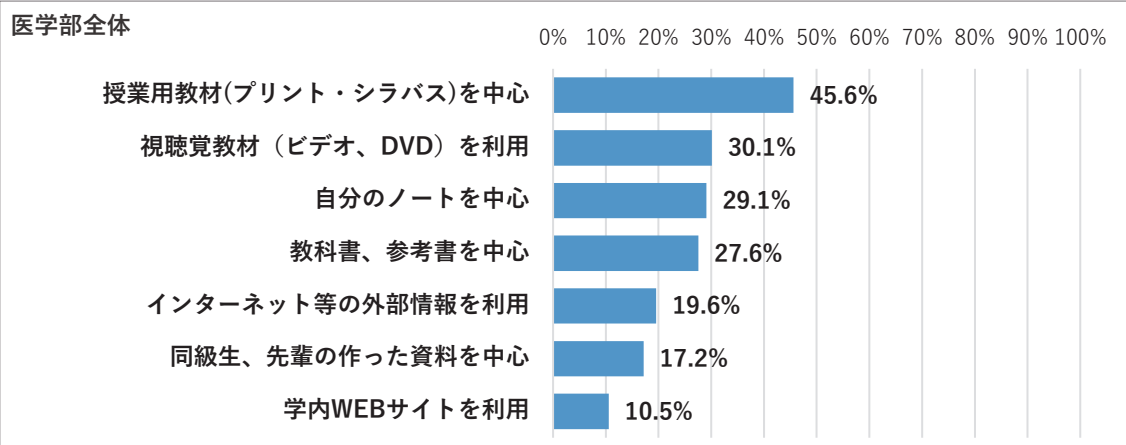
予習時間について、学部全体でもっとも割合が高いのは「1時間未満」であり、医学部で44.9%、薬学部で54.2%、看護学部で46.1%である。学部別に予習時間「5時間以上」についてみると、割合が高い順に薬学部6年生で40.5%、医学部6年生で12.9%、看護学部3年生で7.9%である。

② 平均的な1日あたりの復習時間



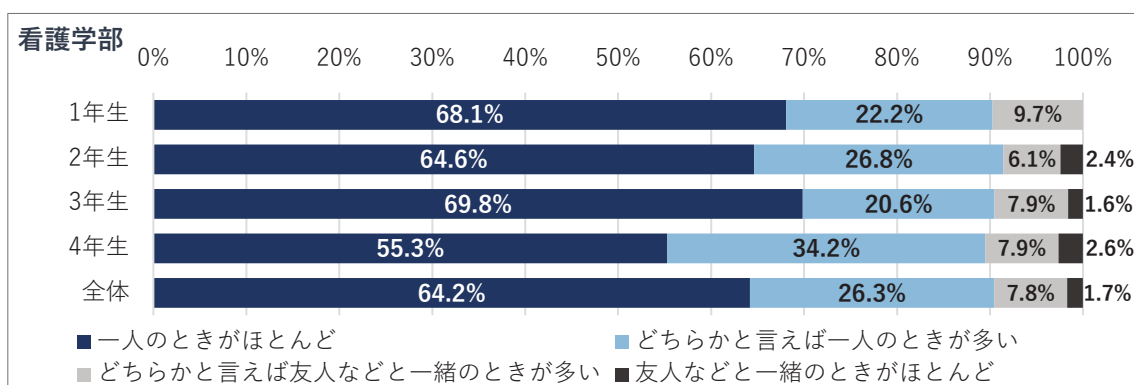
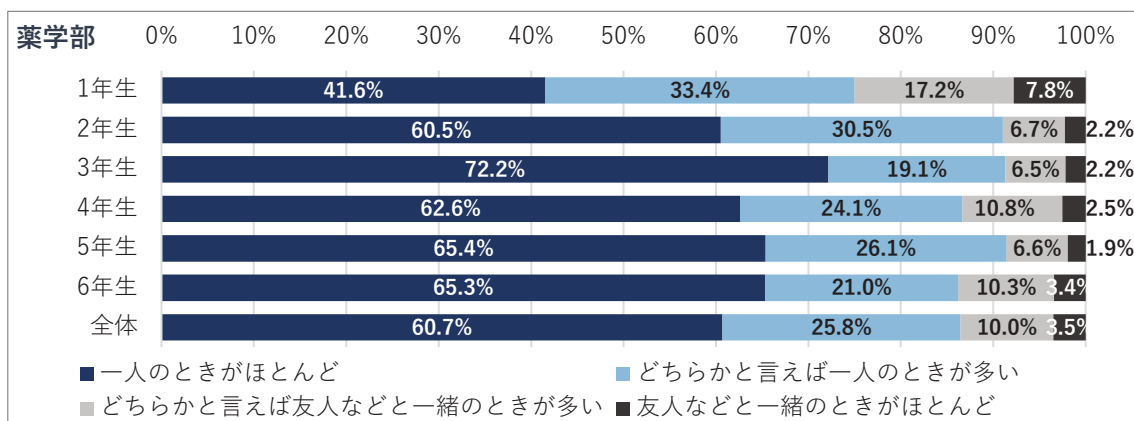
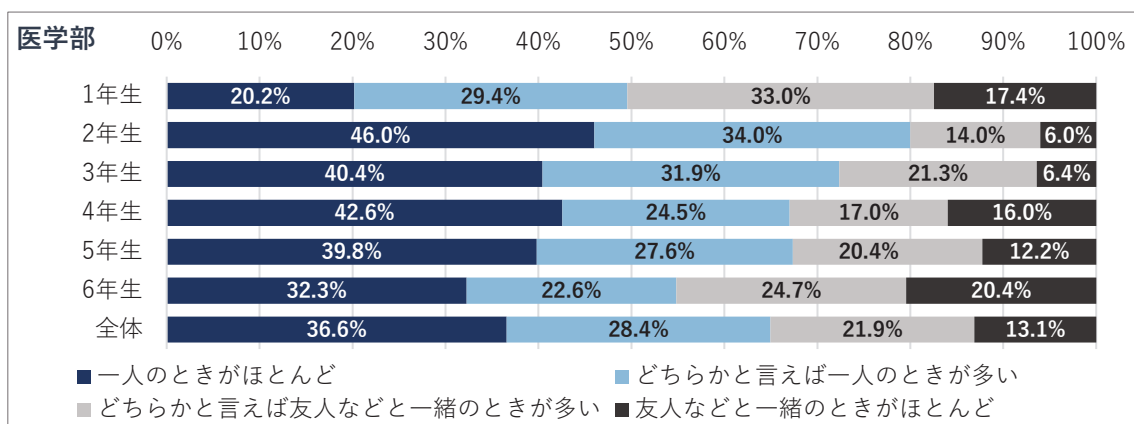
復習時間についてもっとも割合が高いのは、医学部全体では「1～2時間未満」の37.1%、薬学部全体では「1時間未満」の32.8%、看護学部全体では「1時間未満」の41.6%である。学部別に予習時間「5時間以上」についてみると、割合が高い順に薬学部6年生で47.8%、医学部6年生で33.3%、看護学部3年生で12.7%である。医学部と薬学部は、全体として予習時間より復習時間の方が長く、看護学部は予習、復習の時間に大きな差がみられない。

(2) 授業以外の学習方法



授業以外の学習方法については、医学部、薬学部、看護学部とも「授業用教材(プリント・シラバス)」がもっともよく利用されており、つづいて「教科書、参考書」と「自分のノート」がよく利用されている。ただし、医学部では「視聴覚教材(ビデオ、DVD)」が利用の上位である。

(3) 授業以外で学習する相手の有無

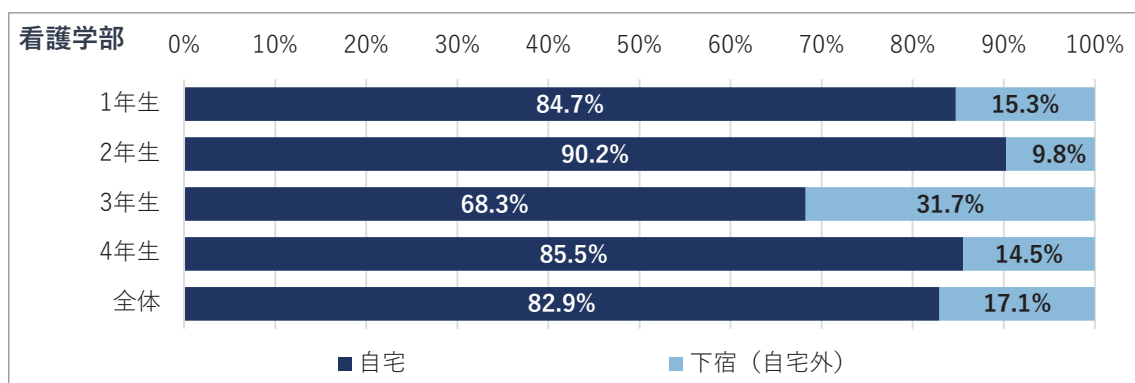
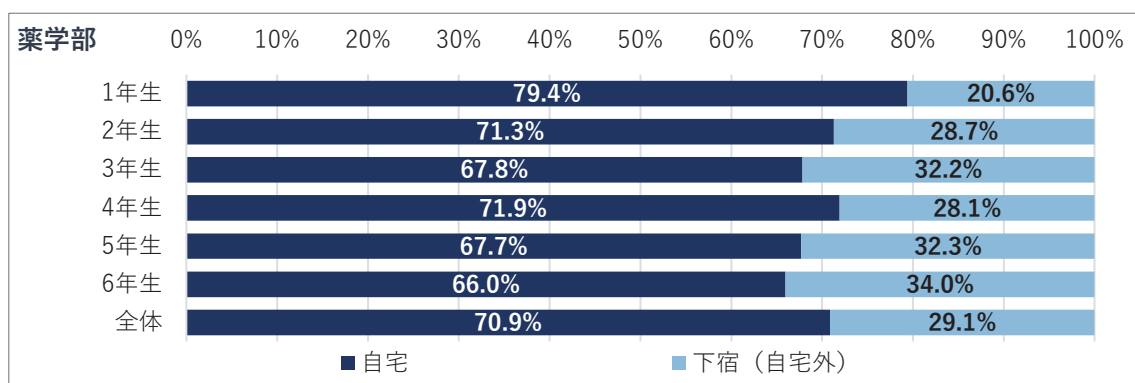
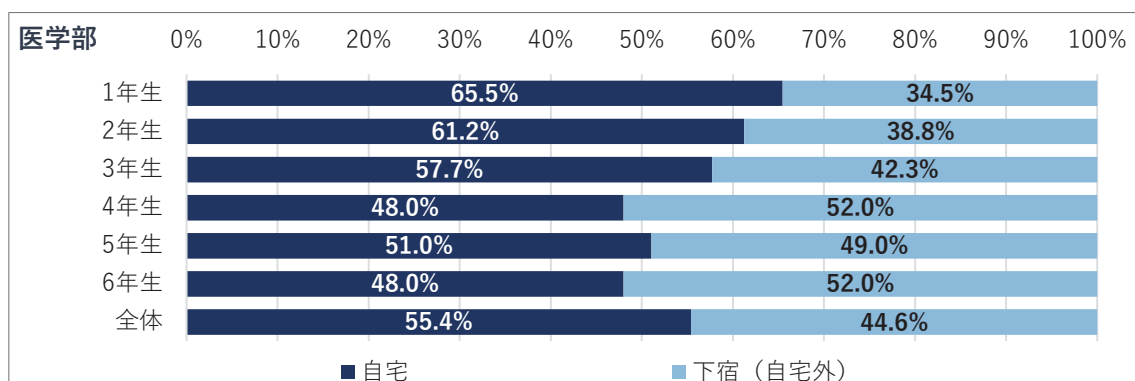


授業以外で学習する相手について、もっとも割合が高いのは「一人のときがほとんど」であり、割合が高い順に看護学部全体で 64.2%、薬学部全体で 60.7%、医学部全体で 36.6%である。看護学部と薬学部では「どちらかと言えば一人のときが多い」とあわせると全体の 90%程度となる。友人と一緒に学習する割合は医学部が高い。

II. 学生生活

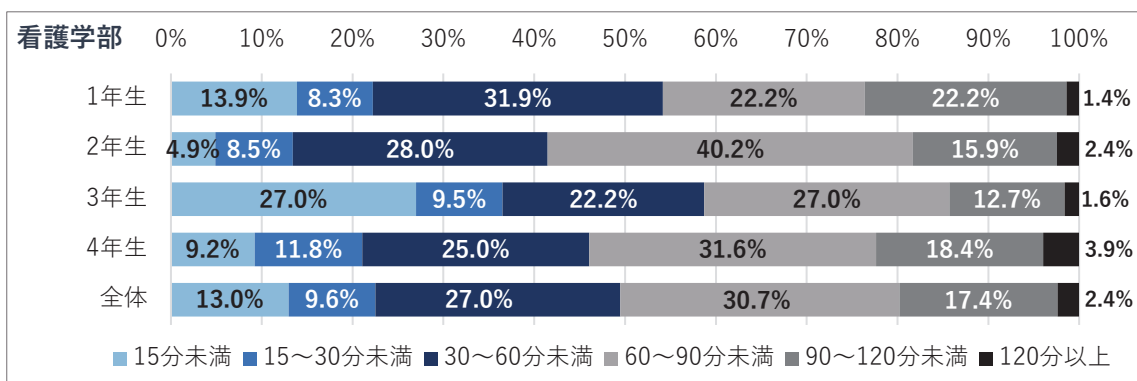
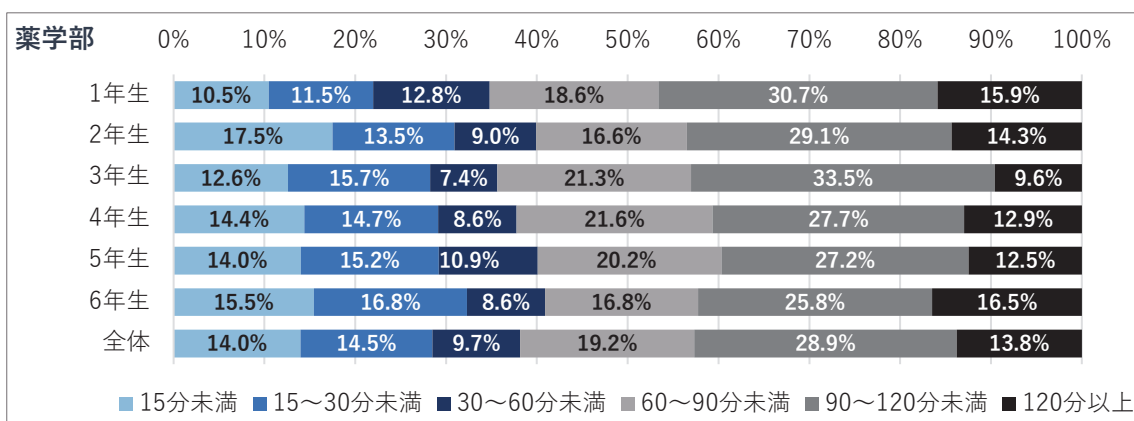
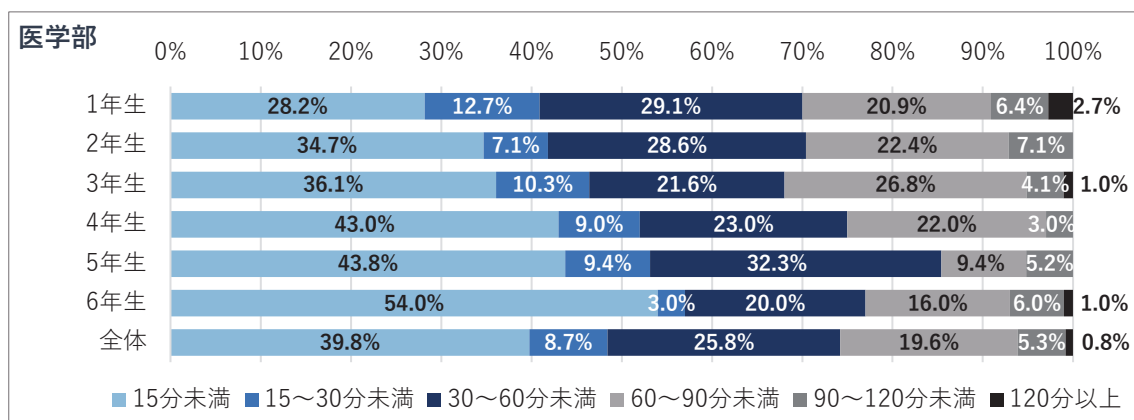
1. 居住と通学

(1) 現在の住居



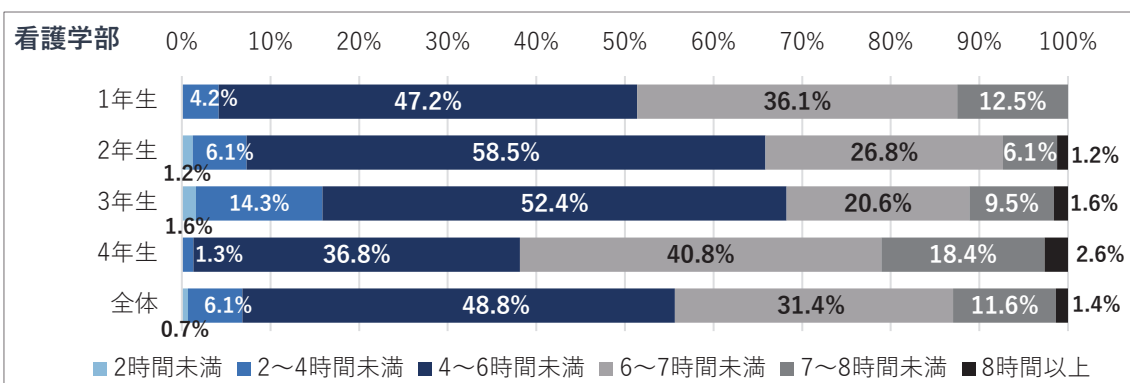
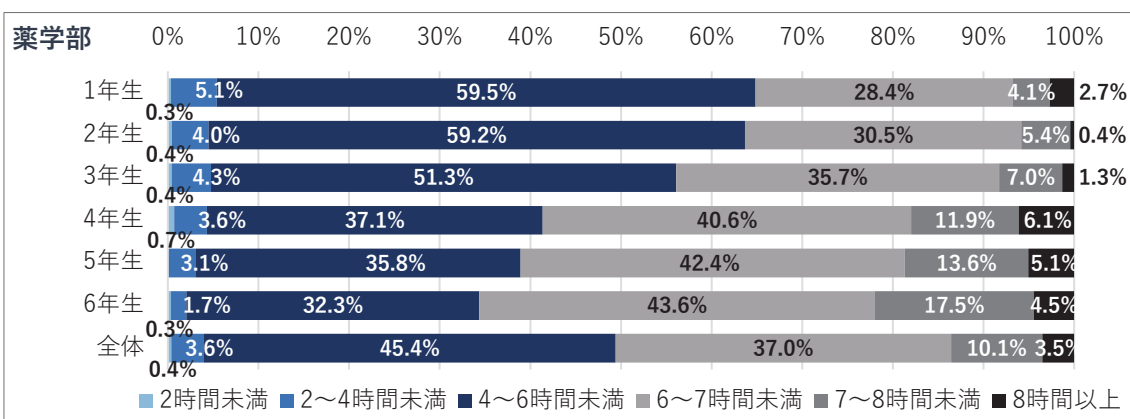
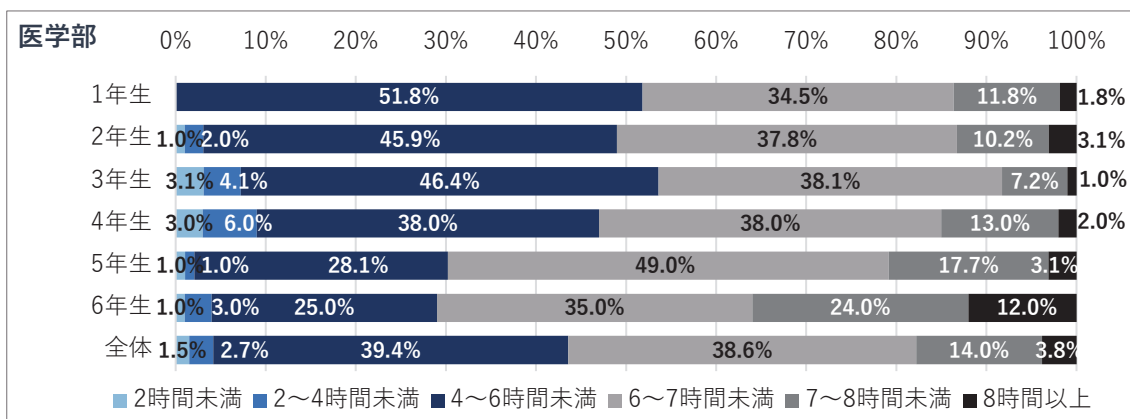
現在の住居について「自宅」を回答した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 82.9%、薬学部全体で 70.9%、医学部全体で 55.4%である。下宿率は医学部が高い。

(2) 通学時間



通学時間については、医学部全体では「15分未満」が39.8%と割合が高く、薬学部全体では28.9%の「90～120分未満」、看護学部全体では30.7%の「60～90分未満」の割合が高い。

2. 睡眠時間

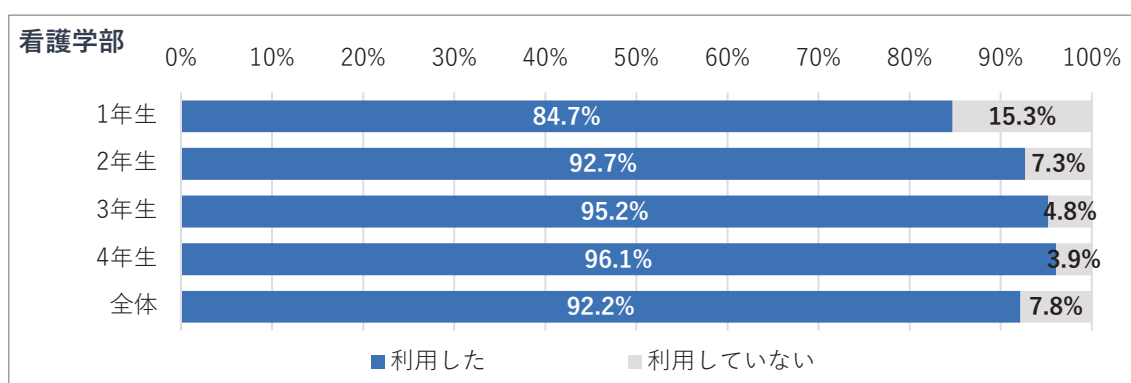
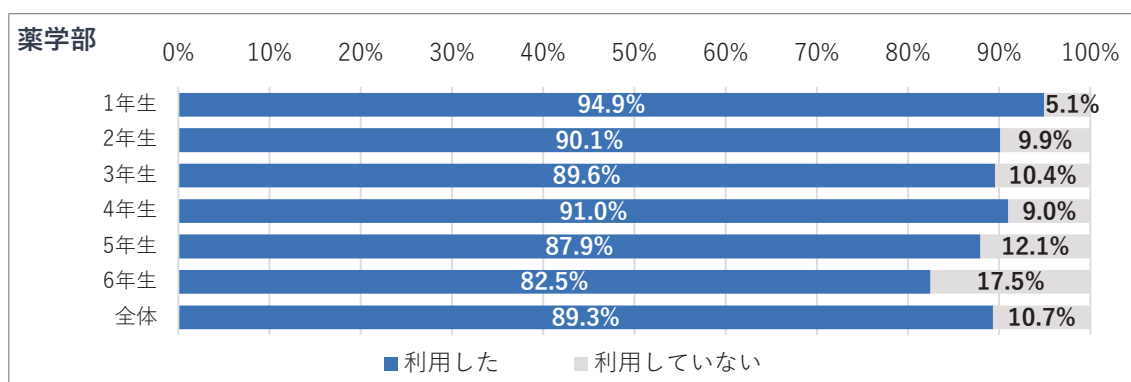
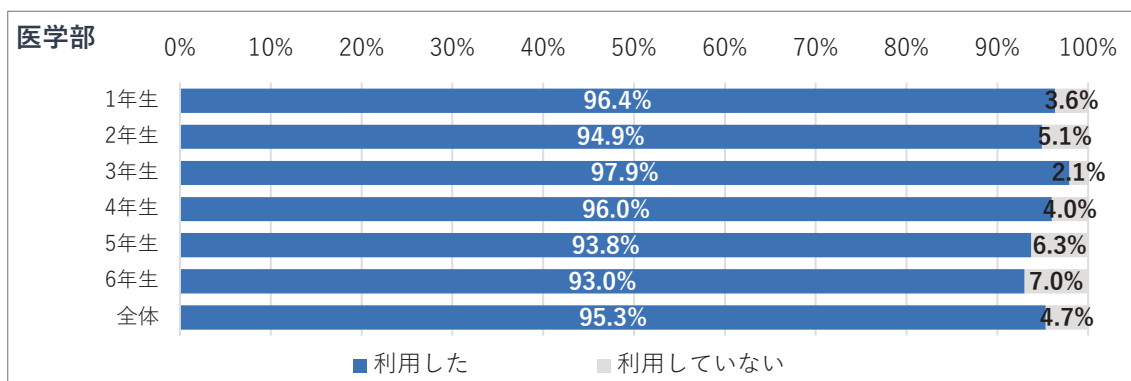


睡眠 6 時間以上の学生は、医学部全体では 56.4%、薬学部全体では 50.6%、看護学部全体では 44.4%である。学年別にみると、医学部、薬学部、看護学部とも最終学年で睡眠時間 6 時間以上の割合が高い。

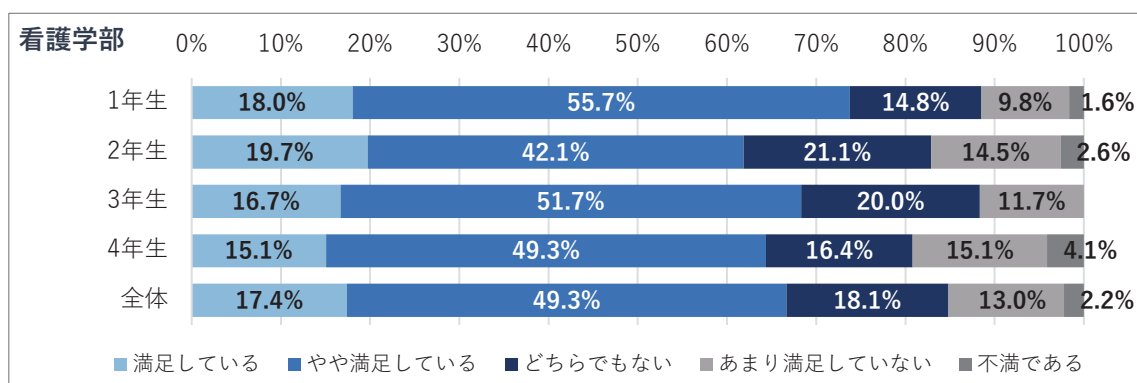
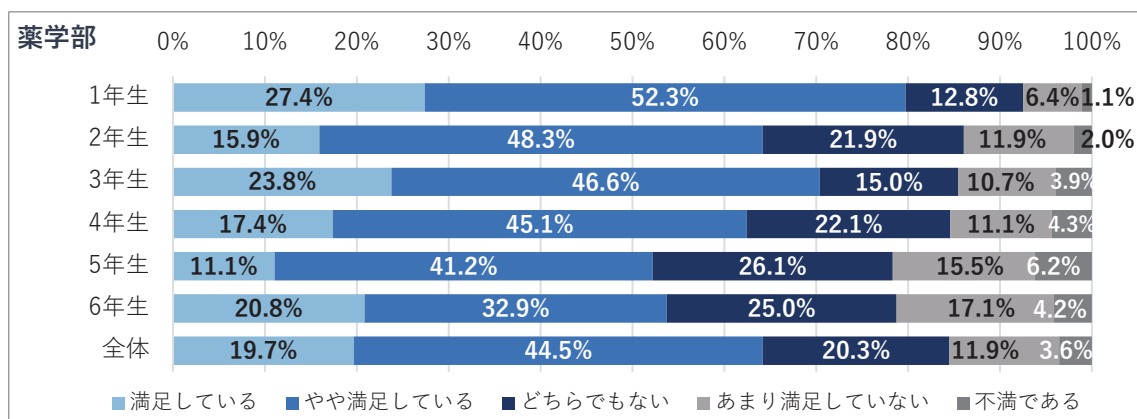
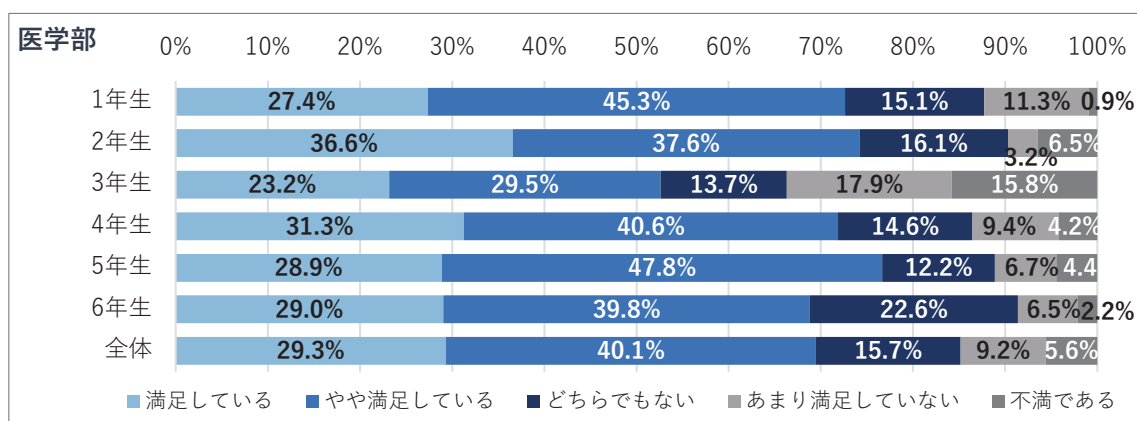
3. 学内施設・支援の利用状況と満足度

(1) 図書館、自学自習室、共用スペースなどの学習支援施設

施設の利用



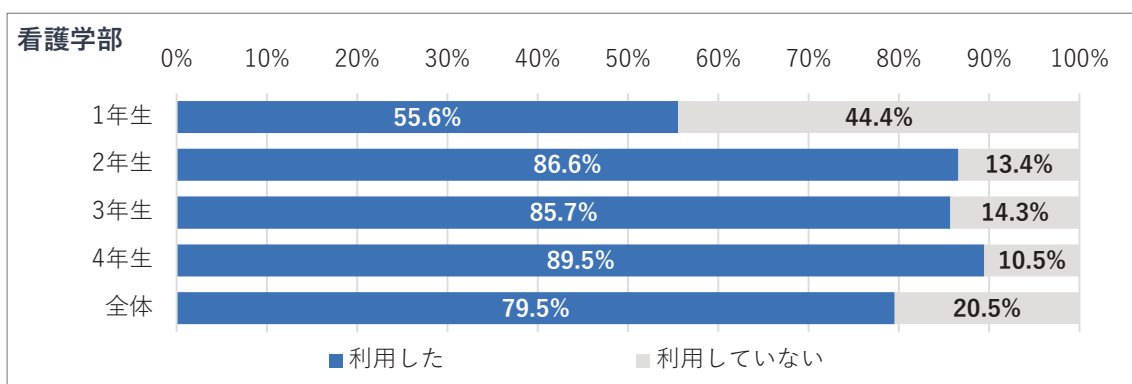
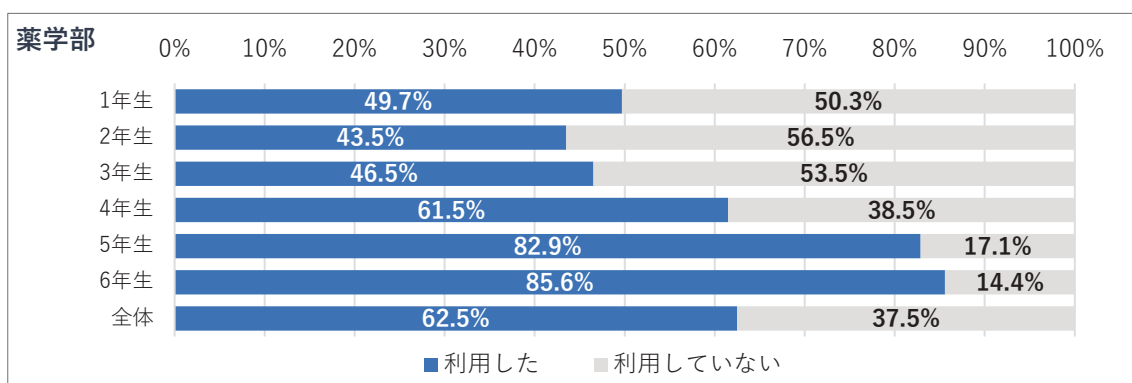
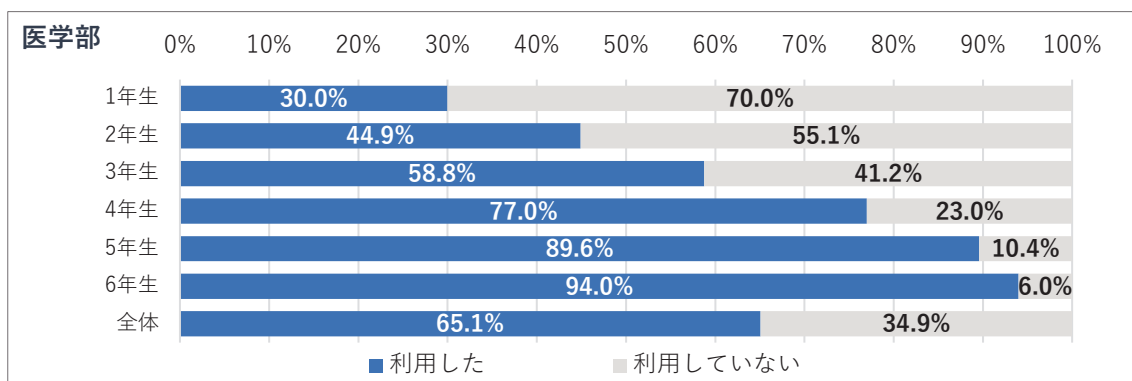
利用した学生の満足度



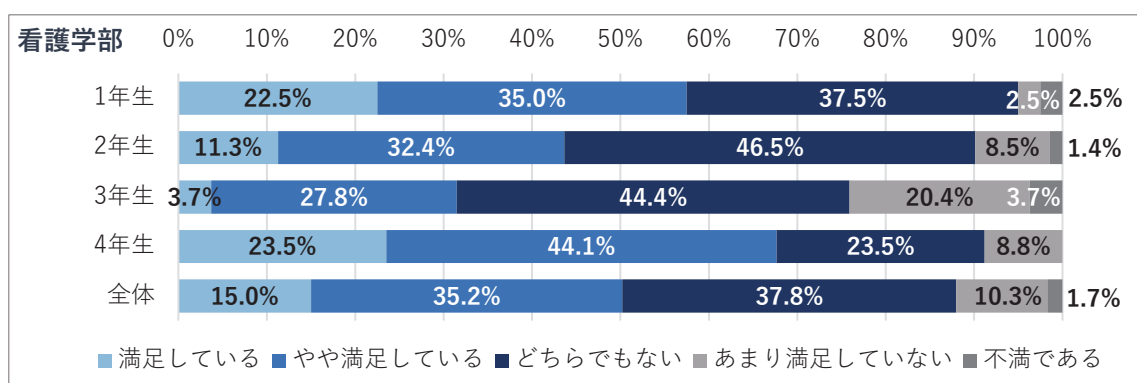
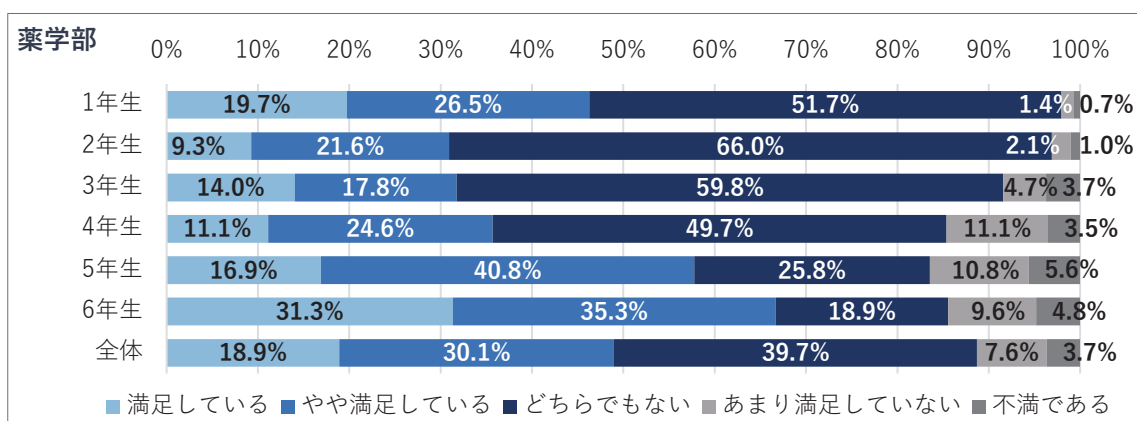
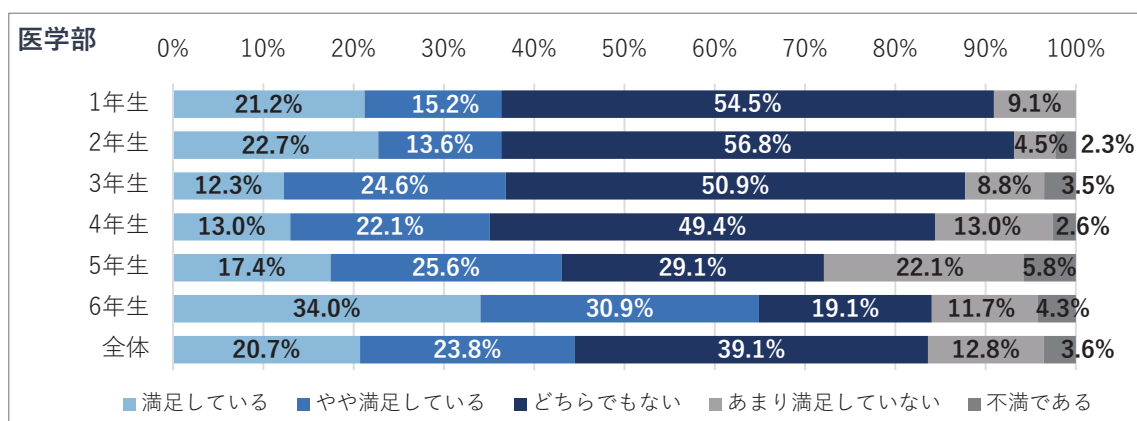
図書館、自学自習室、共用スペースなどの学習支援施設を利用した学生の割合は、医学部全体で 95.3%、薬学部全体で 89.3%、看護学部全体で 92.2%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、医学部全体で 69.4%、薬学部全体で 64.2%、看護学部全体で 66.7%である。

(2) 就職・進路への支援

就職・進路支援の利用



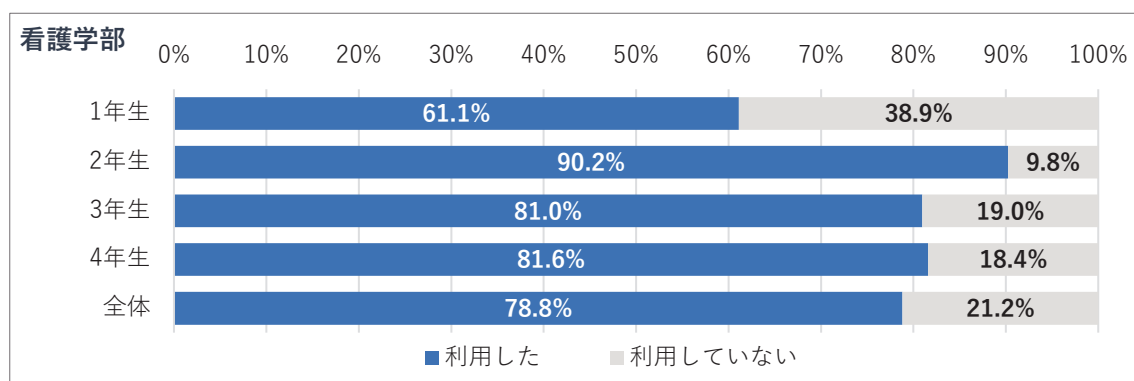
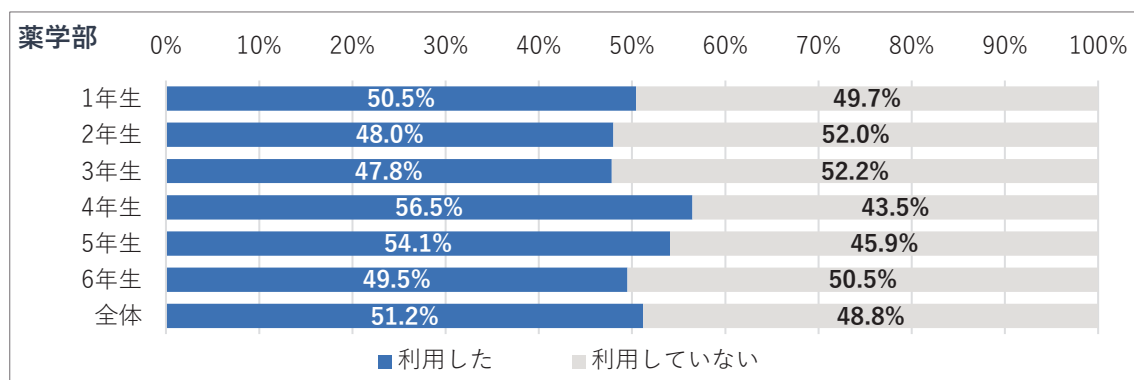
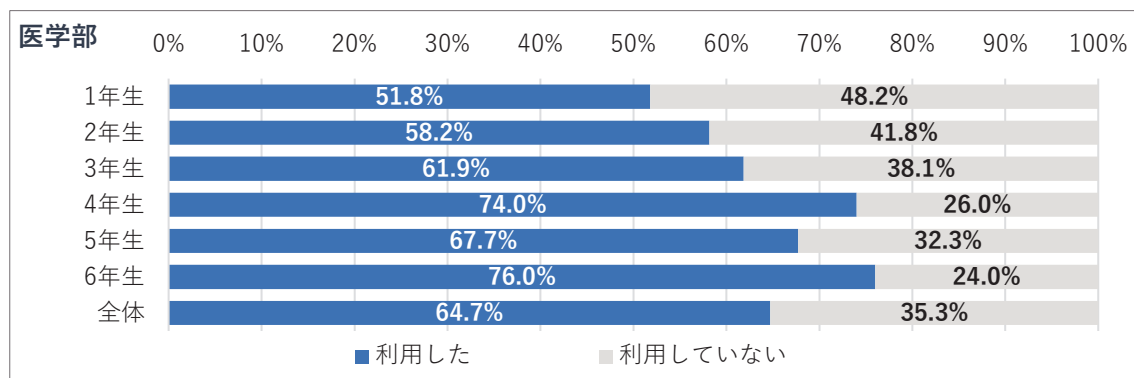
利用した学生の満足度



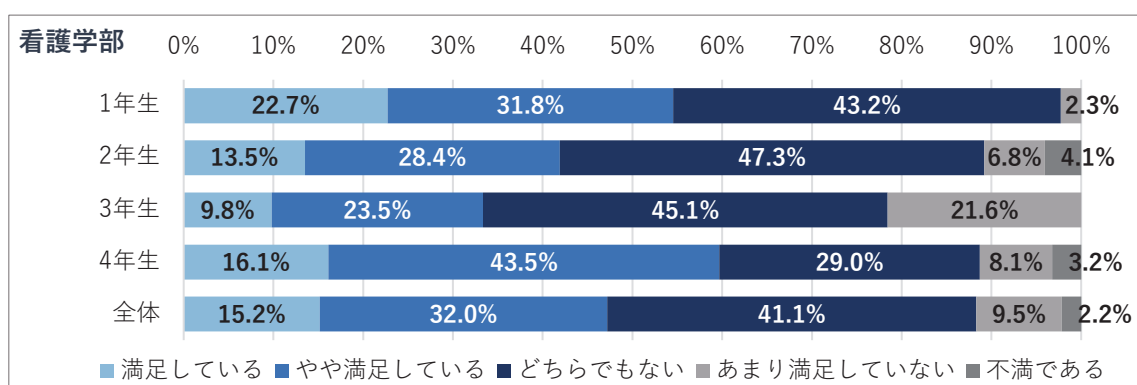
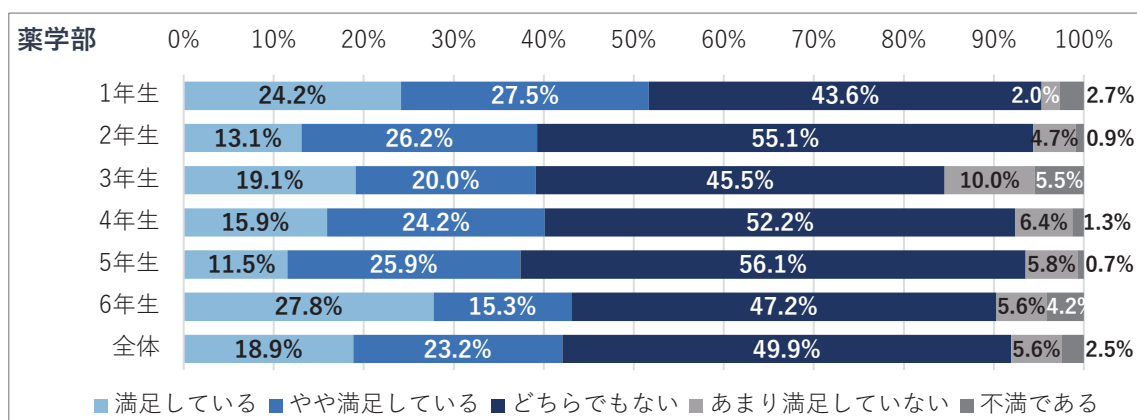
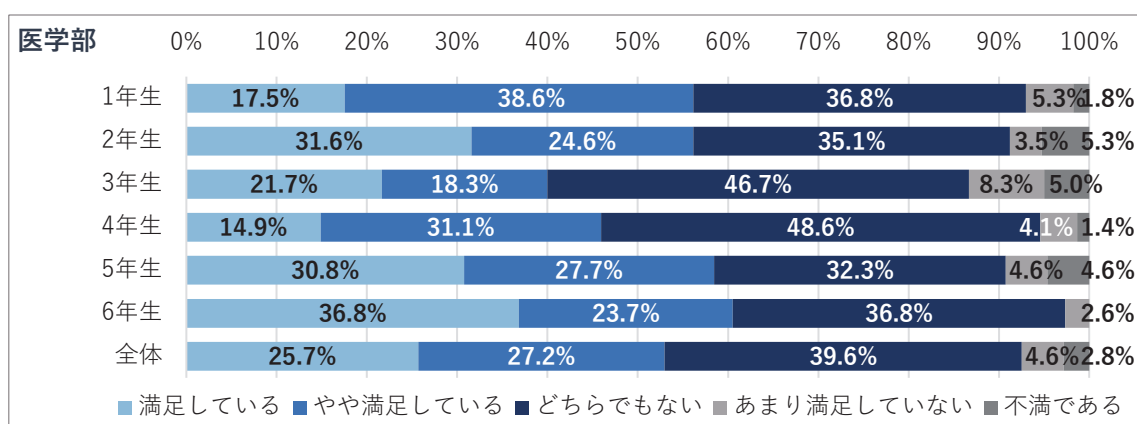
就職支援を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 79.5%、医学部全体で 65.1%、薬学部全体で 62.5%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、割合が高い順に看護学部全体で 50.2%、薬学部全体で 49.0%、医学部全体で 44.5%である。

(3) 学習・心身の健康面の相談体制（面談・カウンセリングを含む）

相談の利用



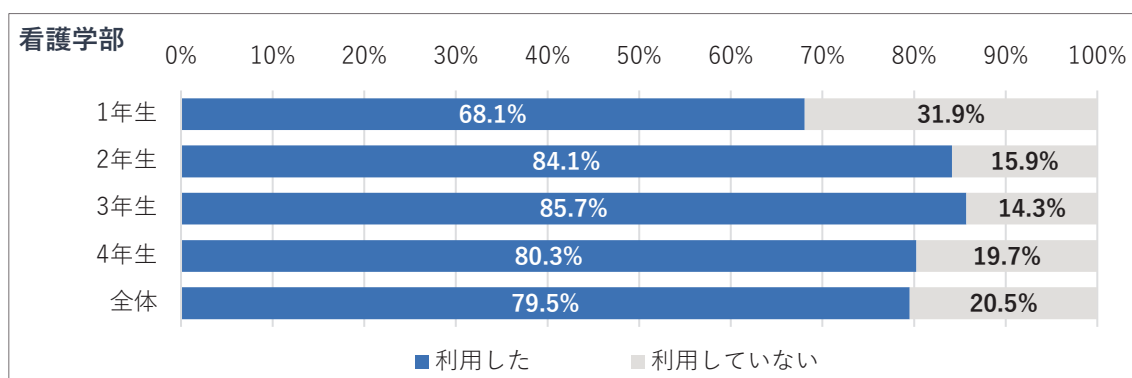
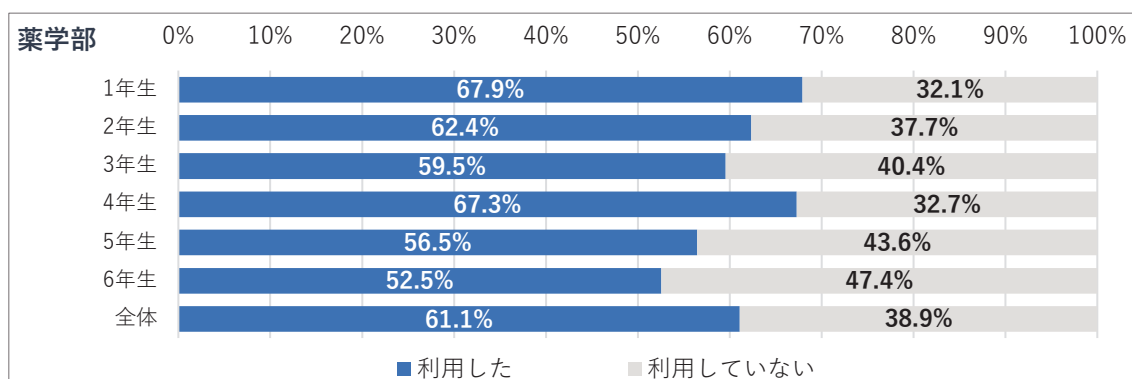
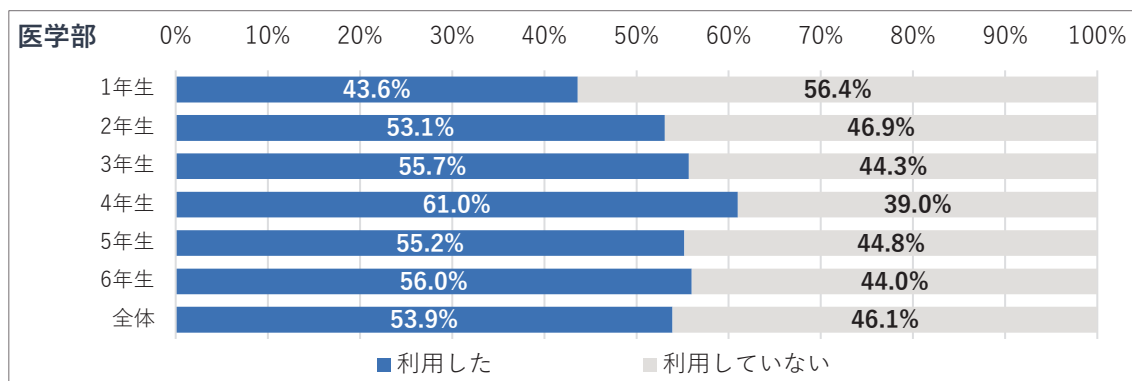
学習・心身の健康面の相談をした学生の満足度



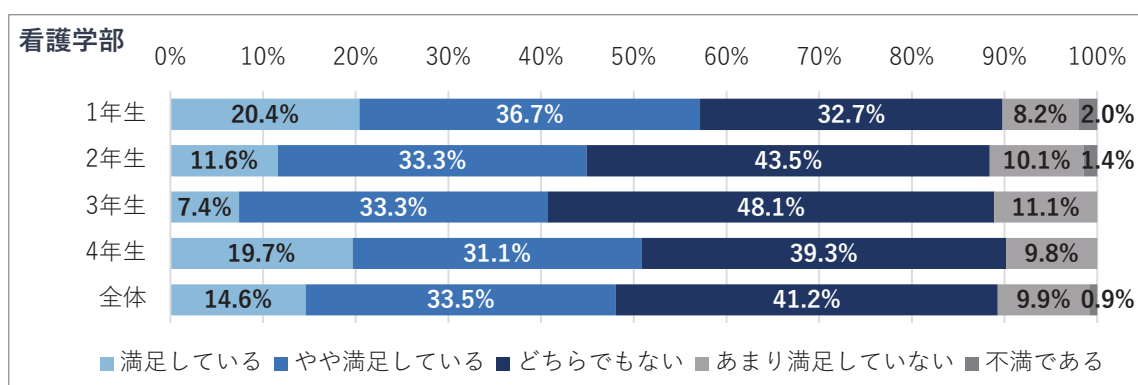
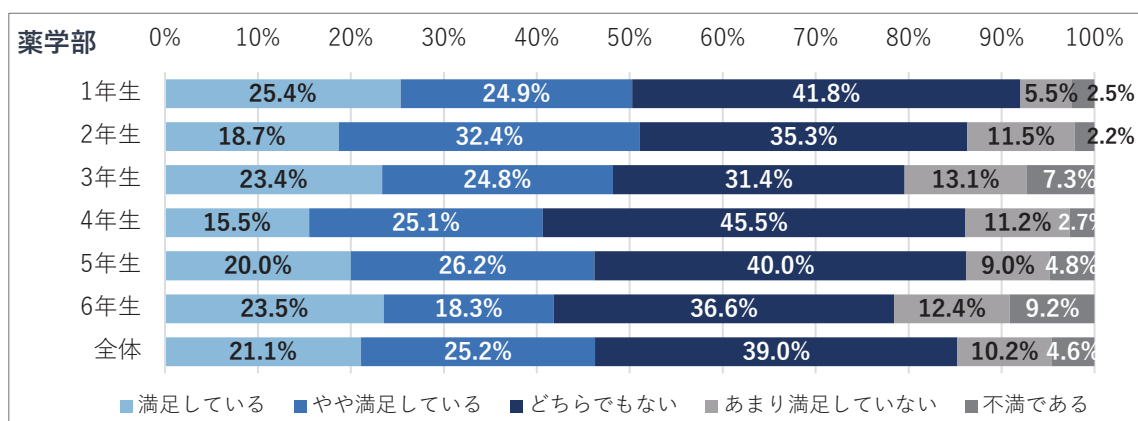
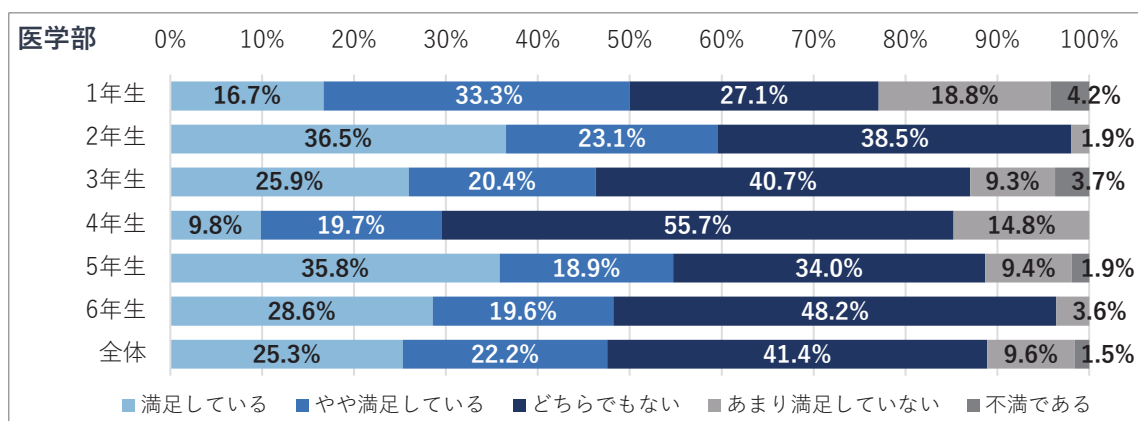
学習・心身の健康面の相談を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 78.8%、医学部全体で 64.7%、薬学部全体で 51.2%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、割合が高い順に医学部全体で 52.9%、看護学部全体で 47.2%、薬学部全体で 42.1%である。

(4) 奨学金等の経済的支援に関する情報提供

各学部生全体の利用



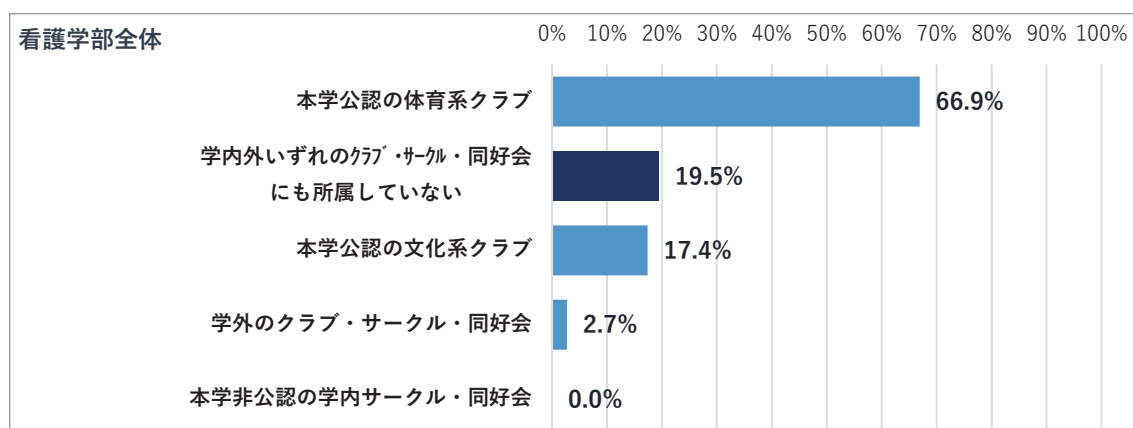
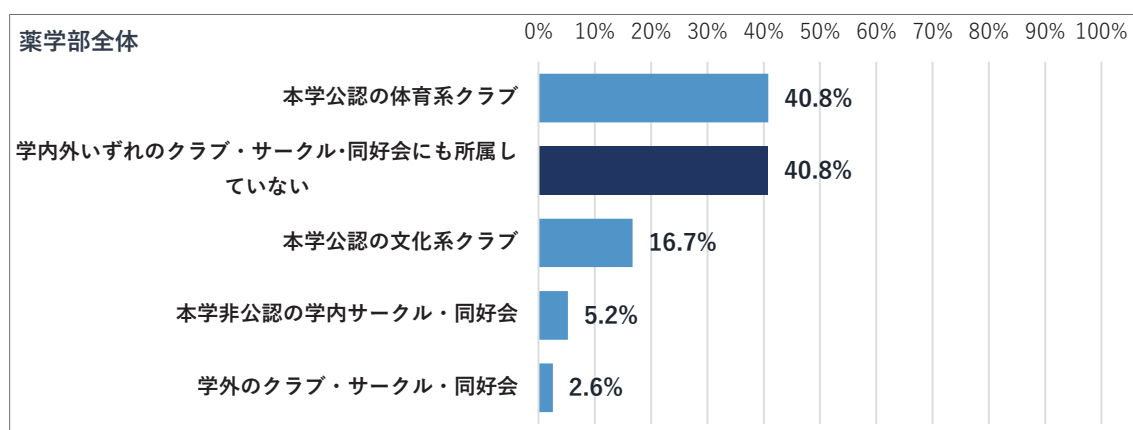
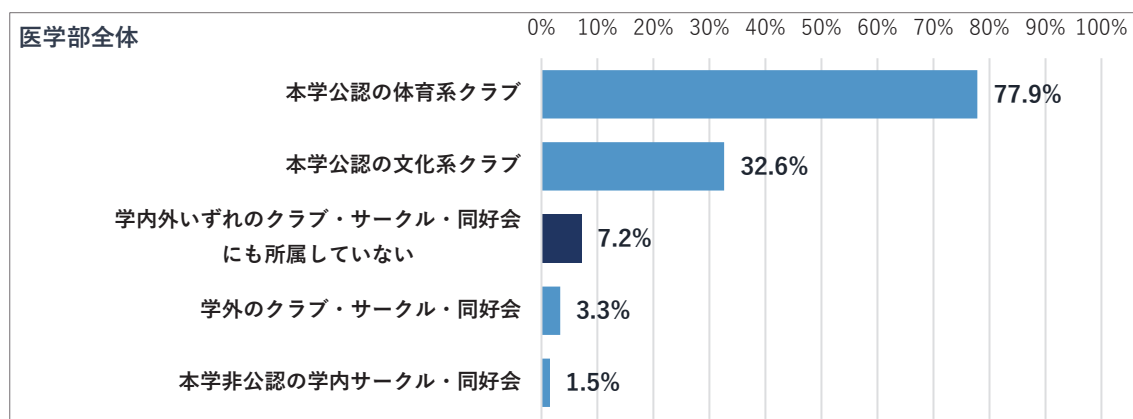
利用した学生の満足度



奨学金等の経済的支援に関する情報提供を利用した学生は、割合が高い順に看護学部全体で79.5%、薬学部全体で61.1%、医学部全体で53.9%である。利用した学生の満足度をみると、比較的満足しているという回答は、割合が高い順に看護学部全体で48.1%、医学部全体で47.5%、薬学部全体で46.3%である。

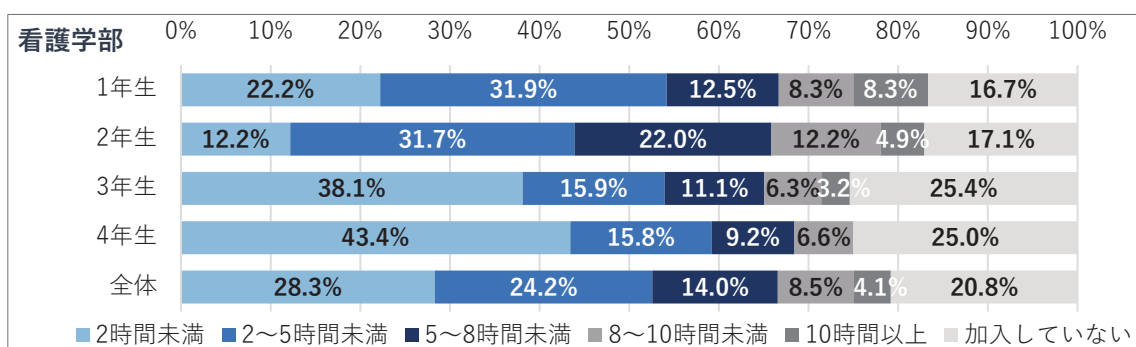
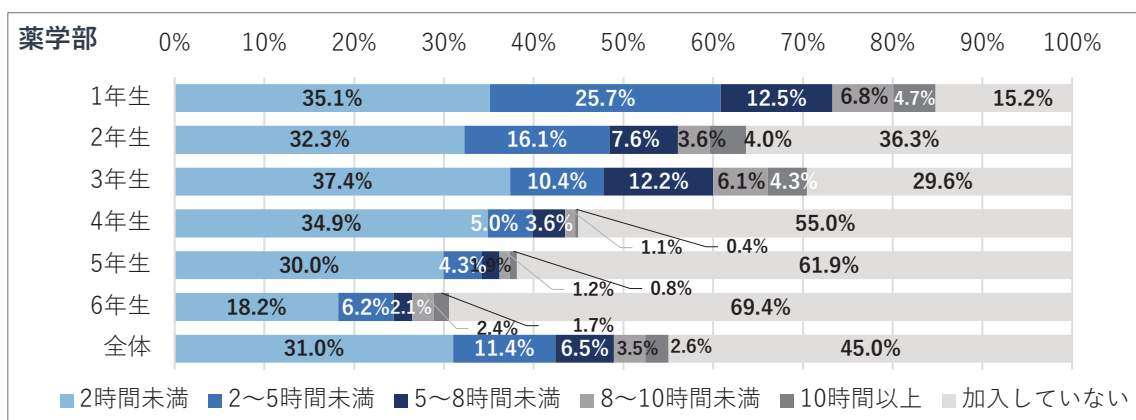
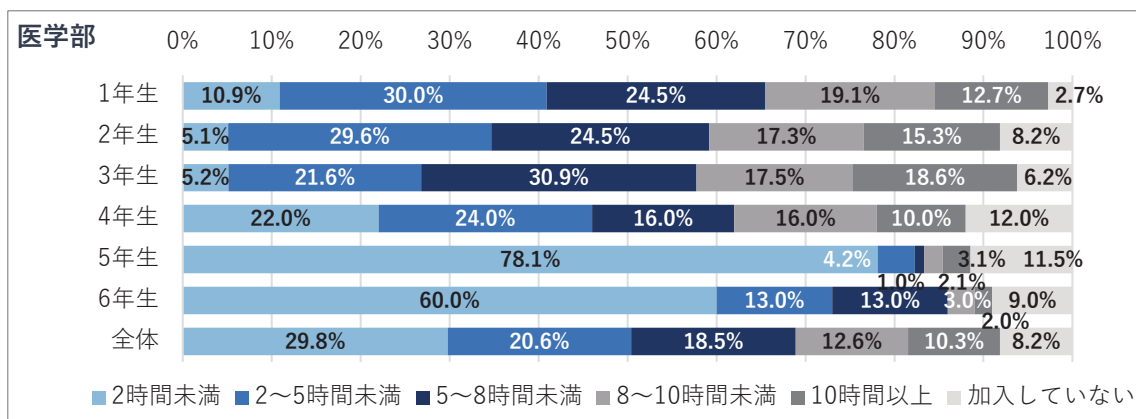
4. クラブ・サークル・同好会活動

(1) 今年度加入しているクラブ・サークル・同好会



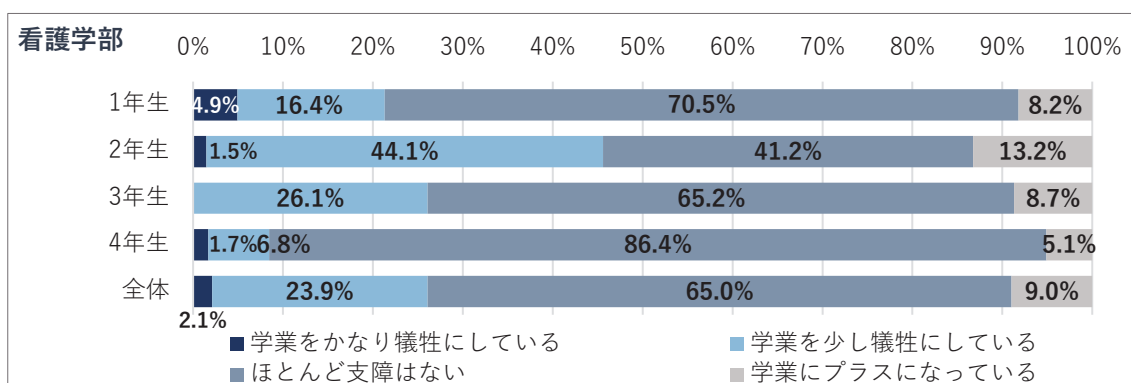
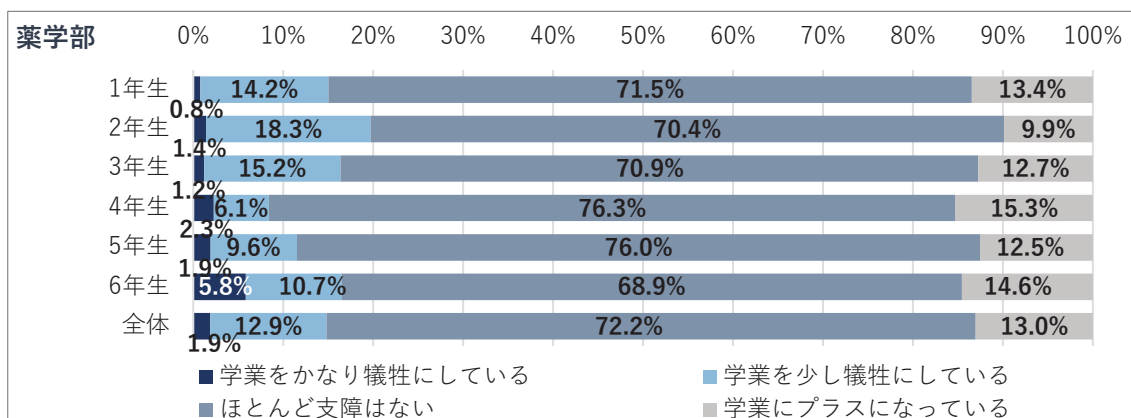
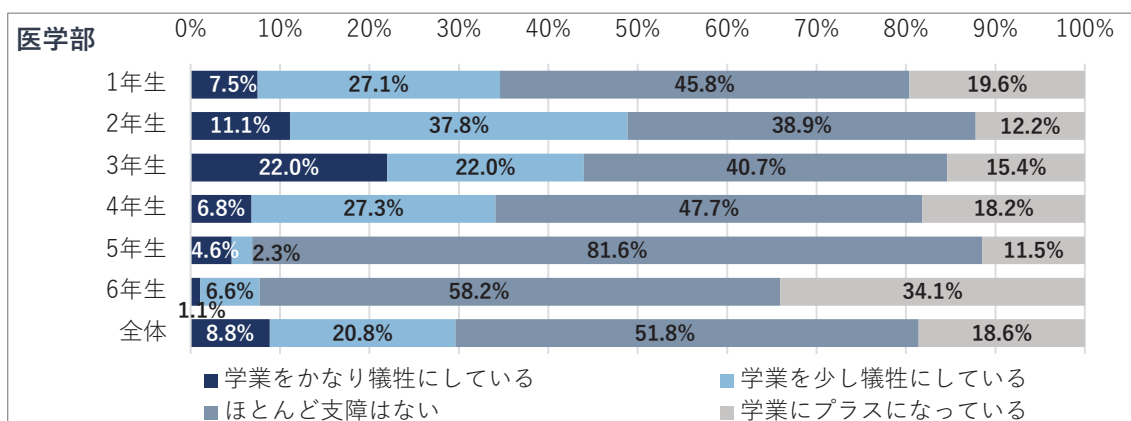
クラブ・サークル・同好会への加入については、医学部、薬学部、看護学部とも「本学公認の体育系クラブ」加入の割合が高く、割合が高い順に医学部全体で 77.9%、看護学部全体で 66.9%、薬学部全体で 40.8%である。一方、クラブ・サークル・同好会活動のいずれにも加入していない学生は、割合が高い順に薬学部全体で 40.8%、看護学部全体で 19.5%、医学部全体で 7.2%である。

(2) 1週間あたりの活動時間



クラブ・サークル・同好会の活動は、学年によって差があるものの、学部全体でみると「2時間未満」の割合がもっとも高く、医学部で29.8%、薬学部で31.0%、看護学部で28.3%である。

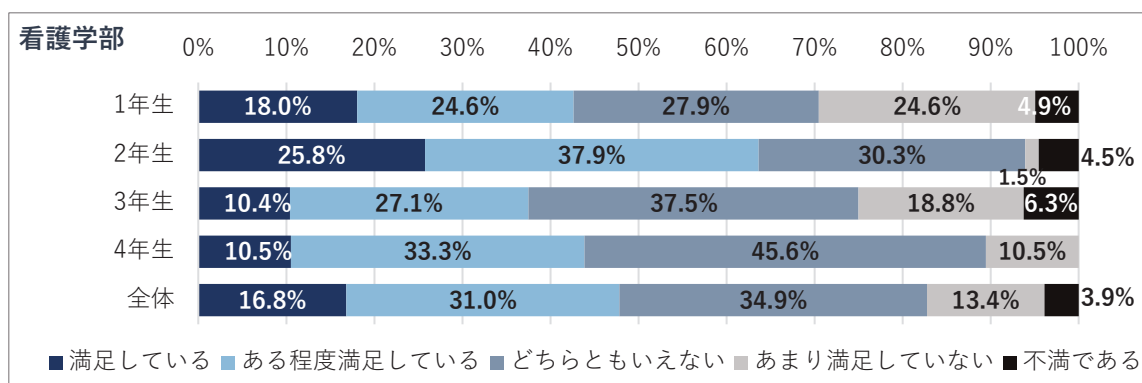
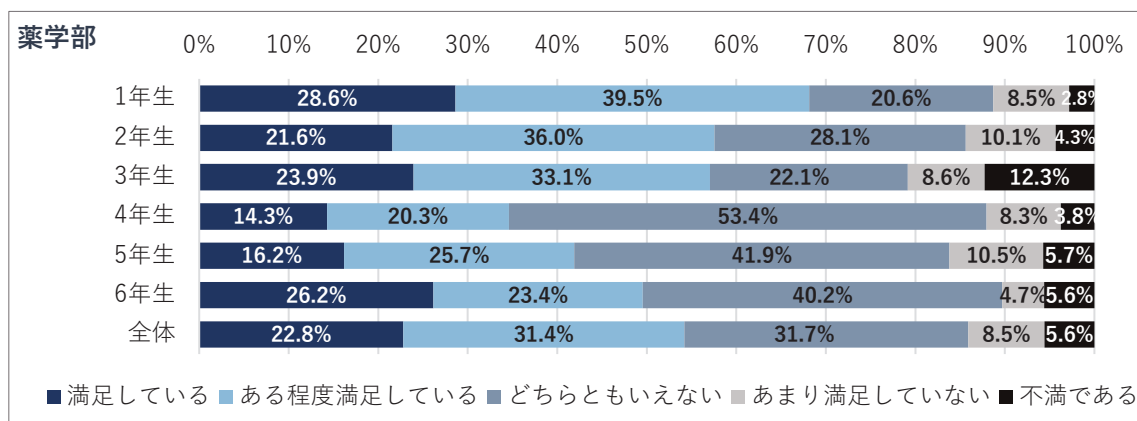
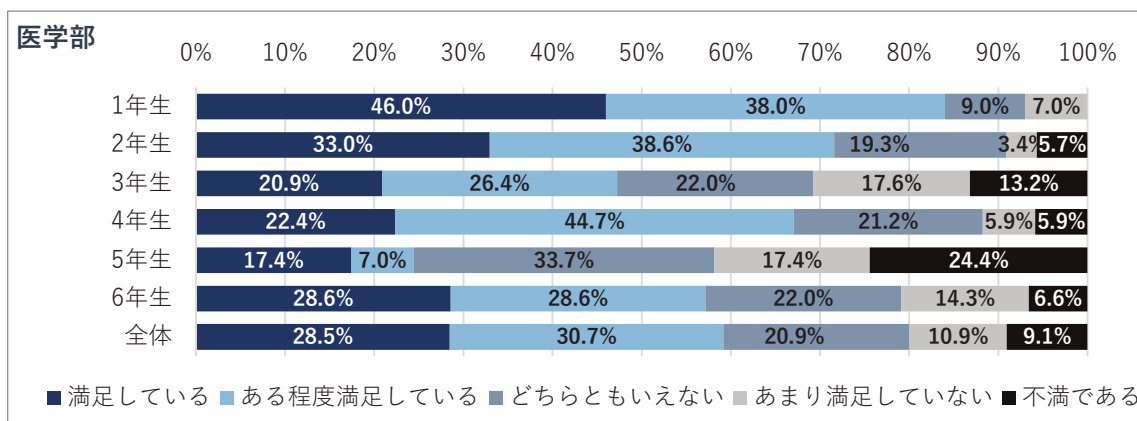
(3) 部活動の学業への影響



部活動の学業への影響については、学部全体でみると医学部、薬学部、看護学部とも「ほとんど支障がない」の割合がもっとも高く、高い順に薬学部で72.2%、看護学部で65.0%、医学部で51.8%である。「学業にプラスになっている」という回答は、割合が高い順に医学部全体の18.6%、薬学部全体の13.0%、看護学部全体の9.0%である。

(4) 活動の満足度

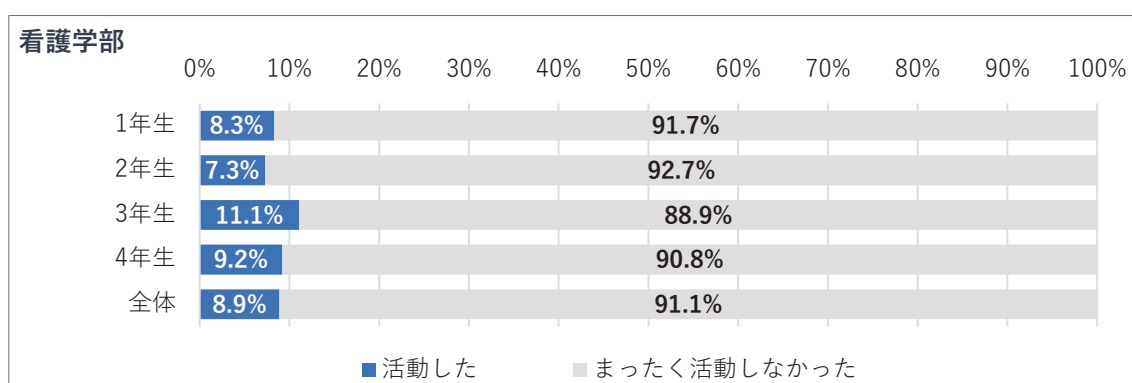
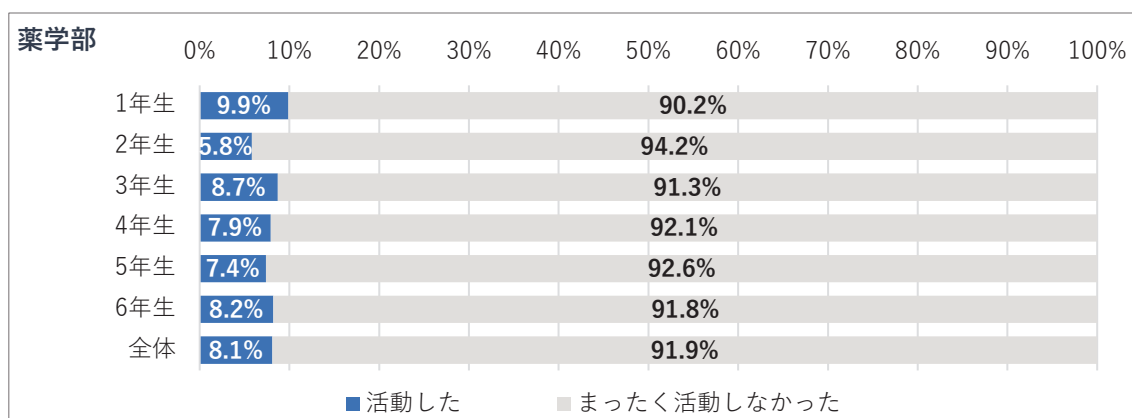
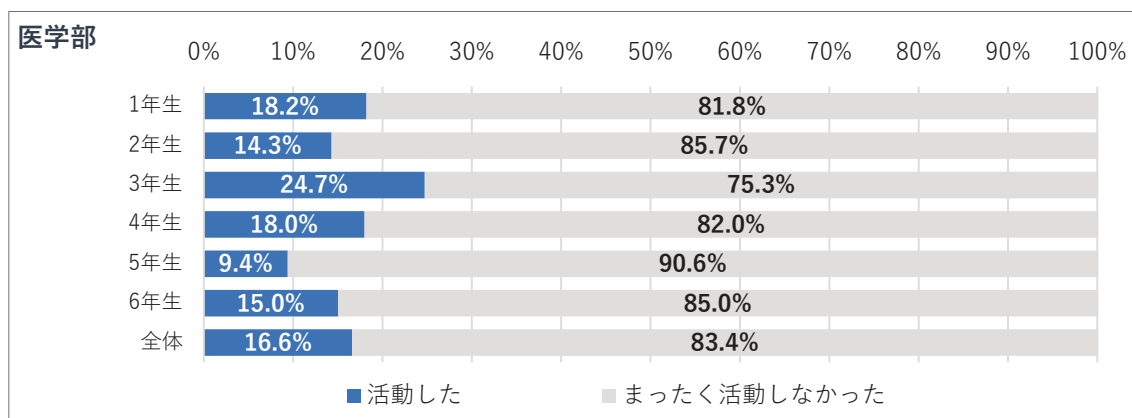
※加入者のみ回答



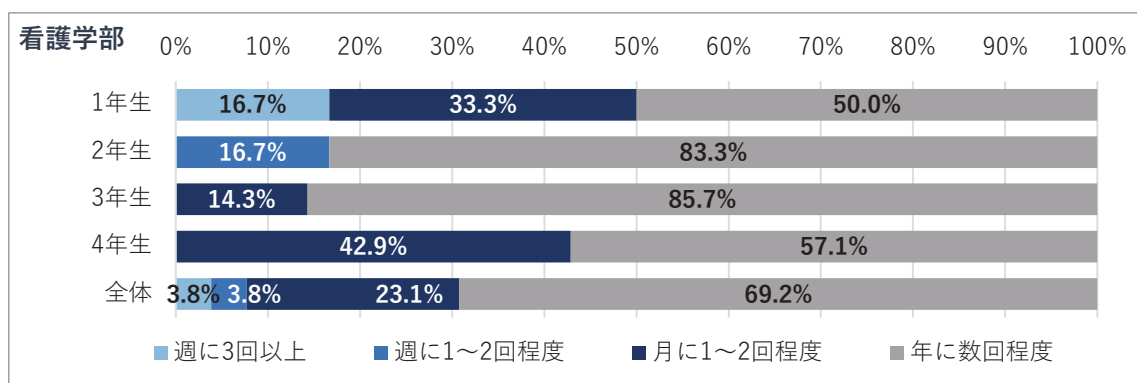
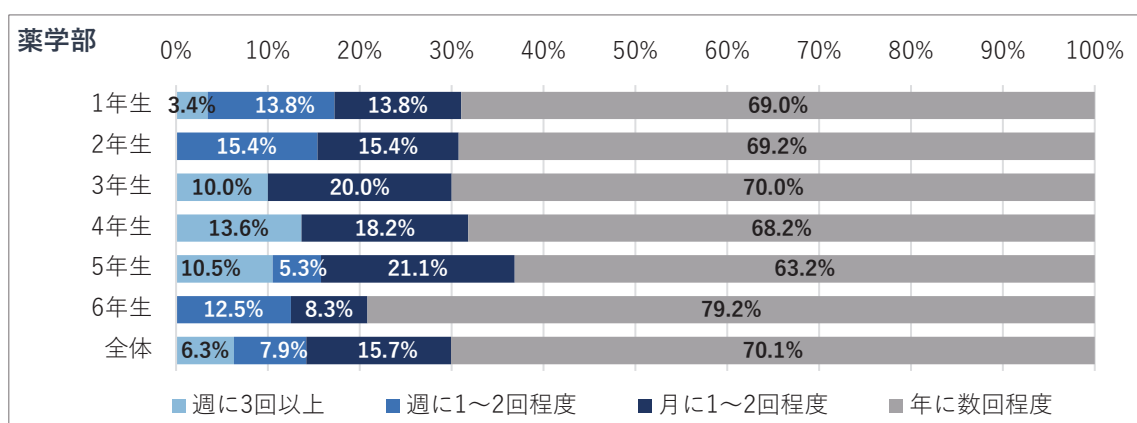
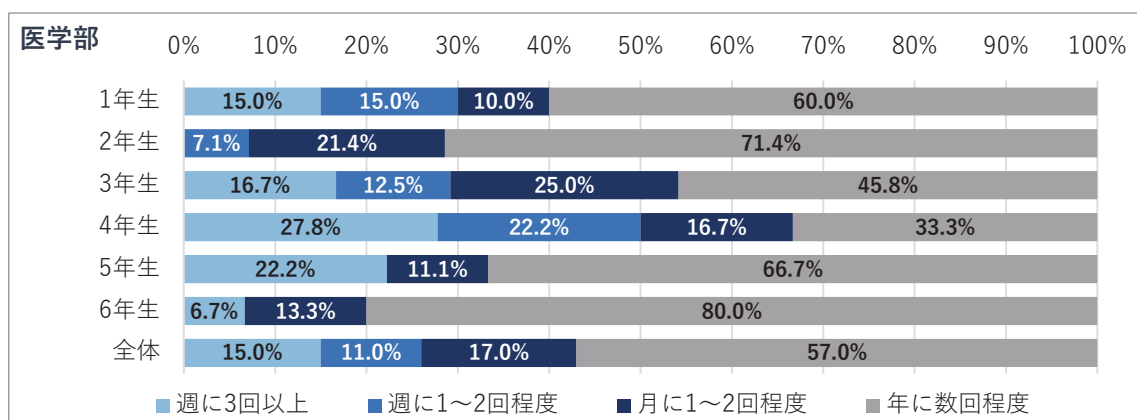
クラブ・サークル・同好会活動の満足度について、「満足している」と「ある程度満足している」をあわせた回答は、割合が高い順に医学部全体で 59.2%、薬学部全体で 54.2%、看護学部全体で 47.8%である。

5. ボランティア活動

全体の活動状況



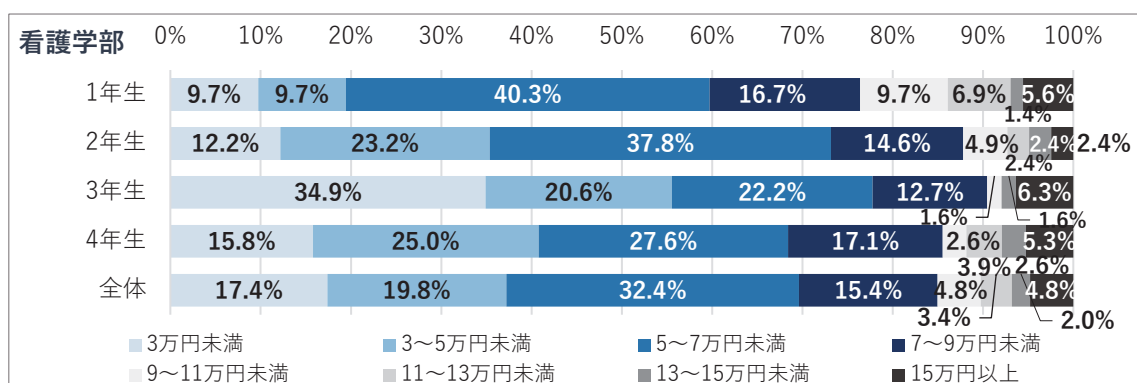
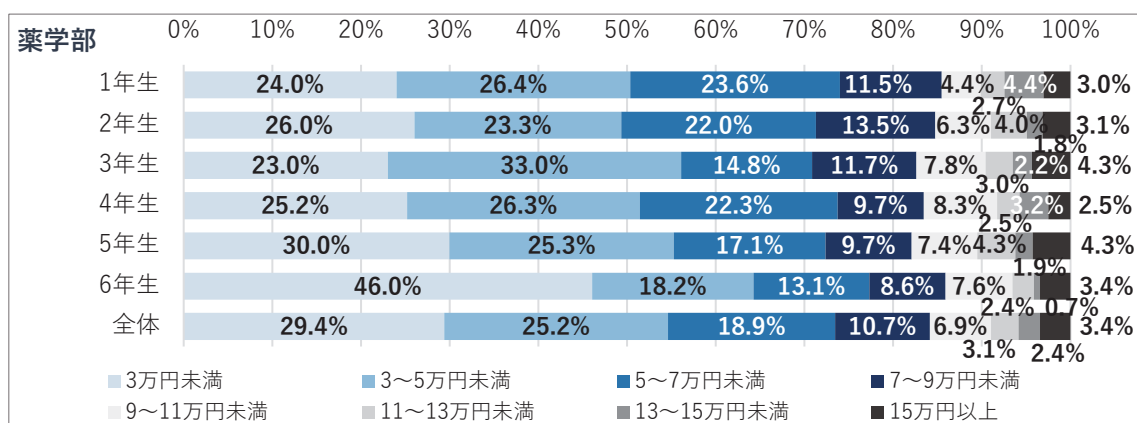
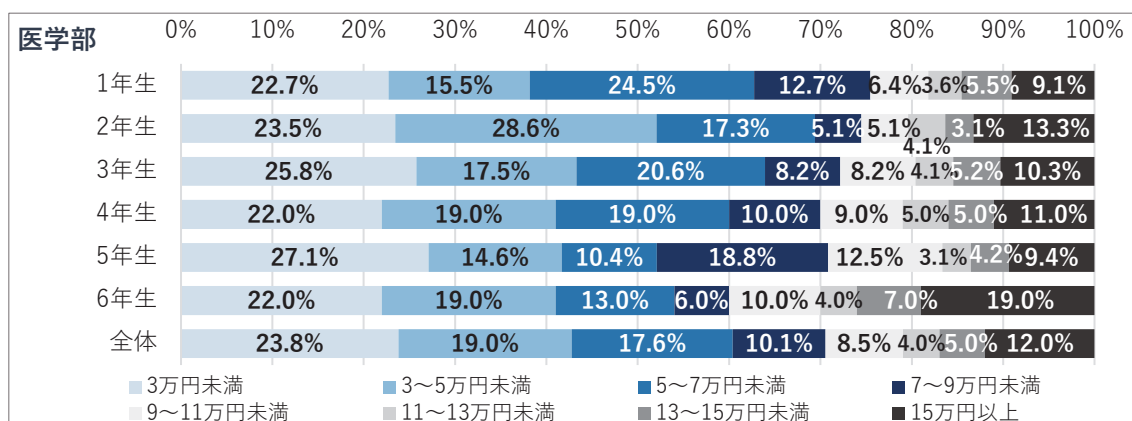
活動した学生の活動頻度



ボランティア活動に参加した学生は、割合が高い順に医学部全体で16.6%、看護学部全体で8.9%、薬学部全体で8.1%である。活動頻度としては、3学部とも「年に数回程度」がもっとも割合が高い。

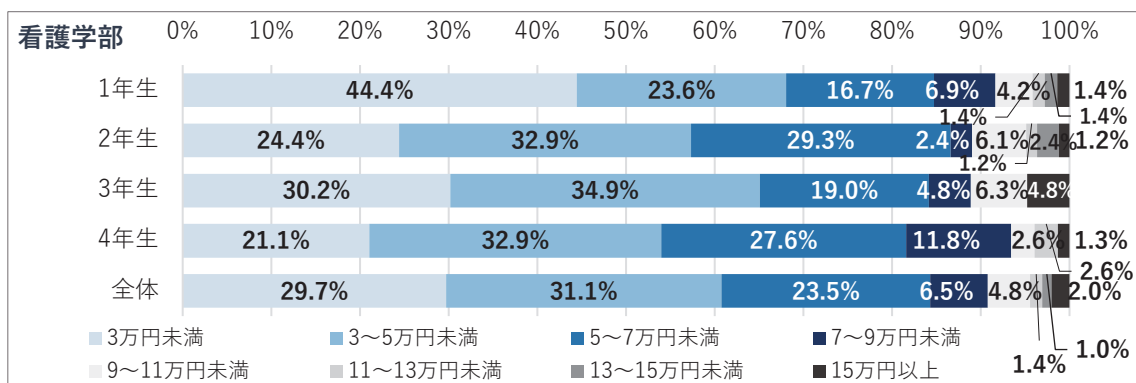
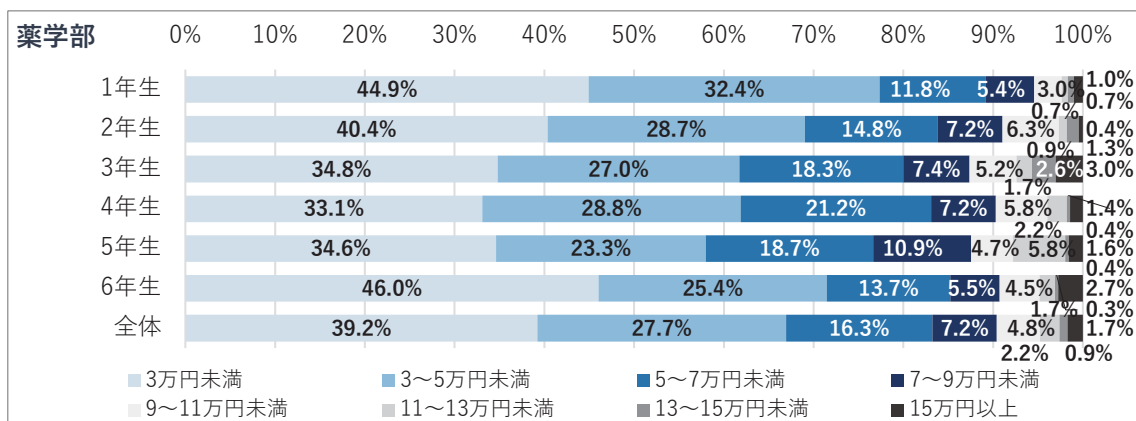
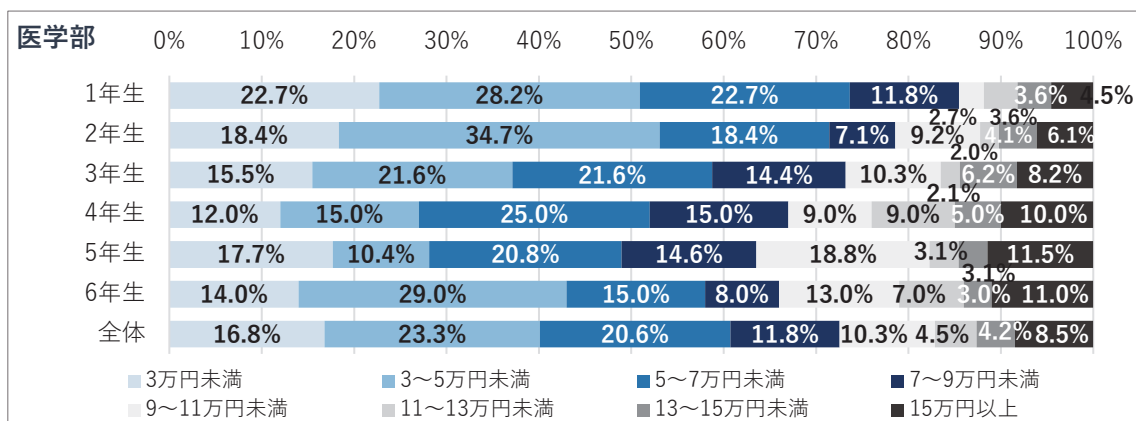
6. 今年度の経済状況

(1) 平均的な1か月あたりの総収入（アルバイト賃金、仕送り、小遣い、奨学金含む）



平均的な1か月あたりの総収入について、5万円未満の学生は、割合が高い順に薬学部全体で54.6%、医学部全体で42.8%、看護学部全体で37.2%である。一方、9万円以上の学生は、割合が高い順に医学部全体で29.5%、薬学部全体で15.8%、看護学部全体で15.0%である。

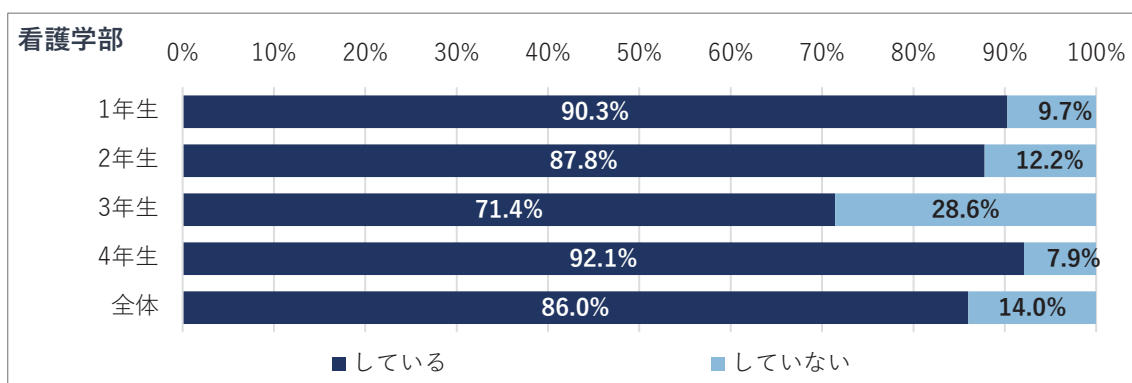
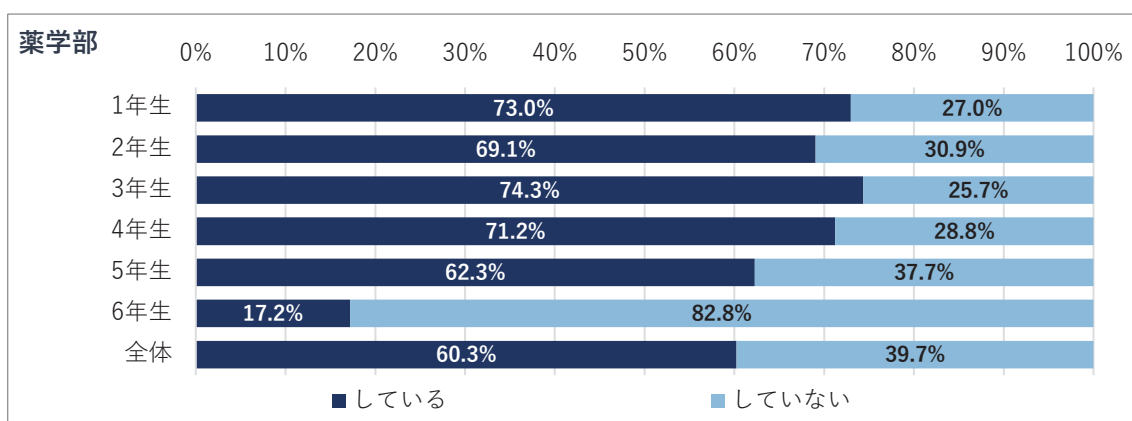
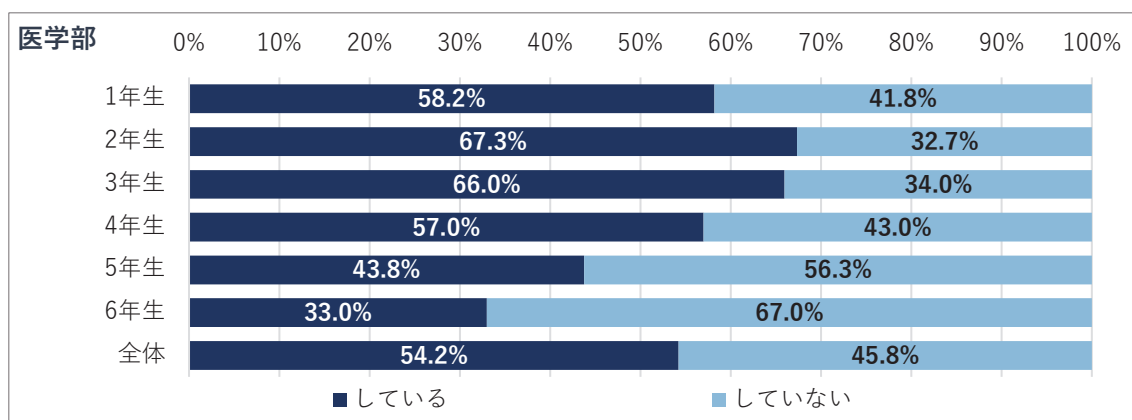
(2) 平均的な 1 か月あたりの総支出



平均的な 1 か月あたりの総支出について、5 万円未満の学生は、割合が高い順に薬学部全体で 66.9%、看護学部全体で 60.8%、医学部全体で 40.1%である。一方、9 万円以上の学生は、割合が高い順に医学部全体で 27.5%、薬学部全体で 16.8%、看護学部全体で 15.7%である。

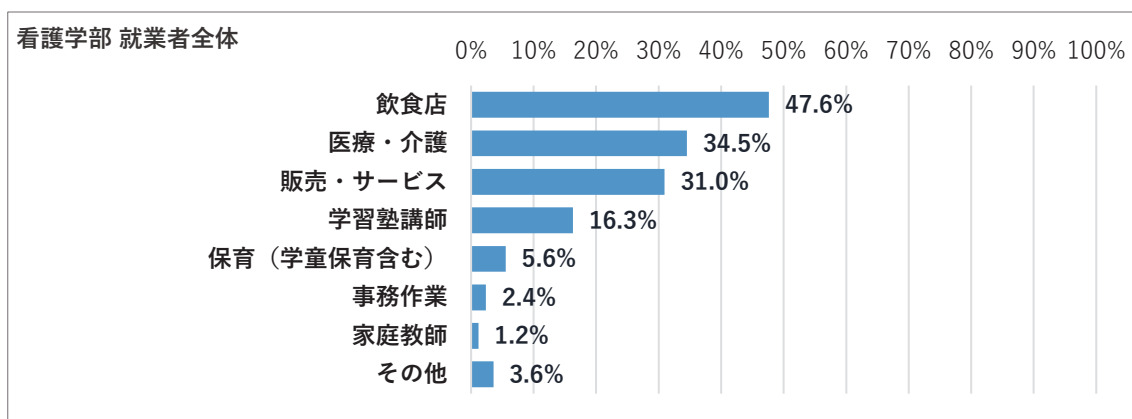
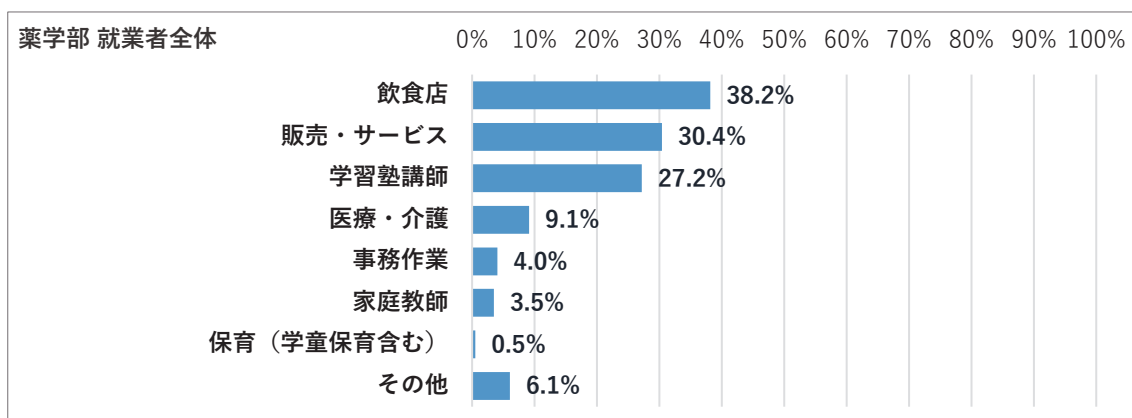
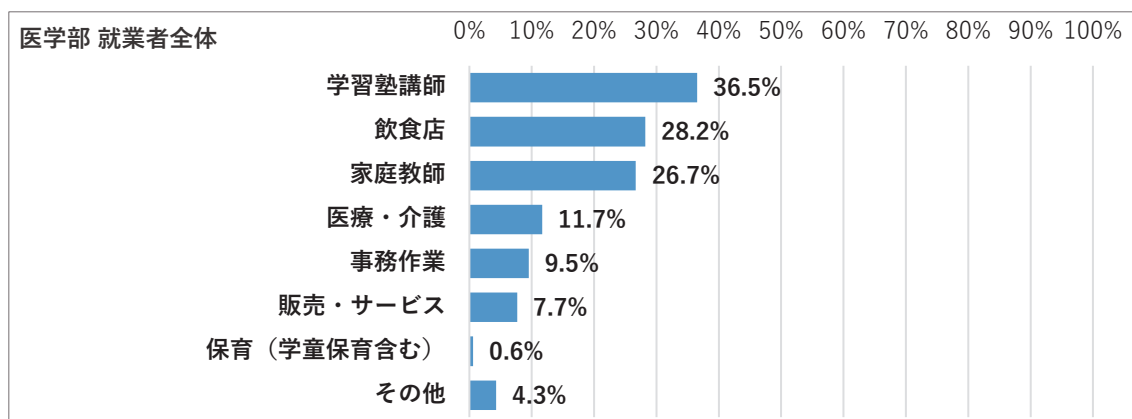
7. アルバイト

(1) 現在のアルバイト状況



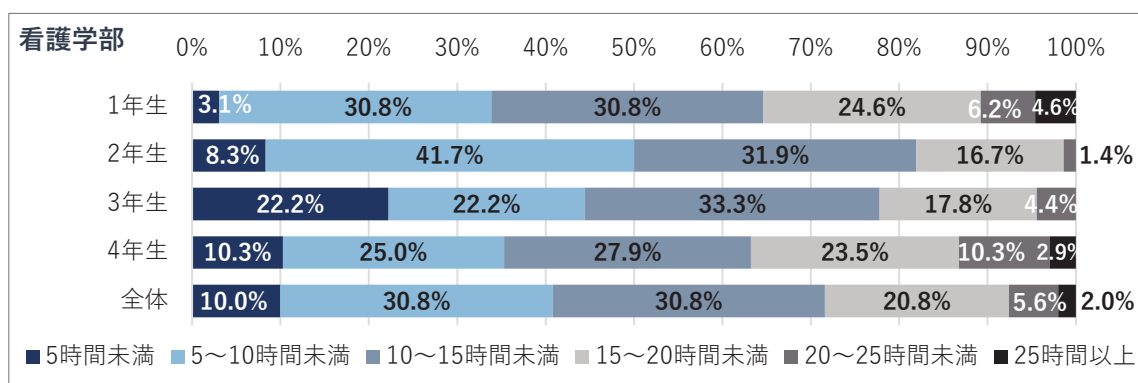
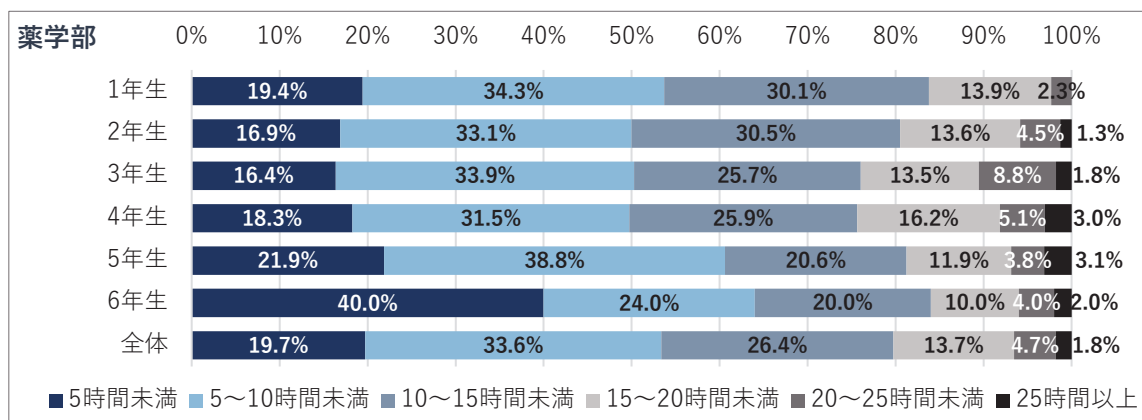
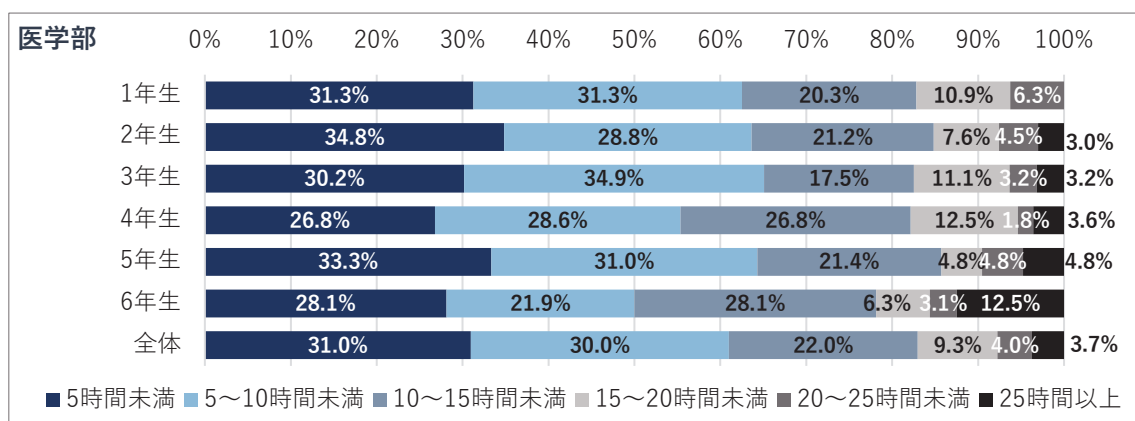
アルバイトに従事している学生は、割合が高い順に看護学部全体で 86.0%、薬学部全体で 60.3%、医学部全体で 54.2%である。

(2) 現在行っているアルバイトの種類



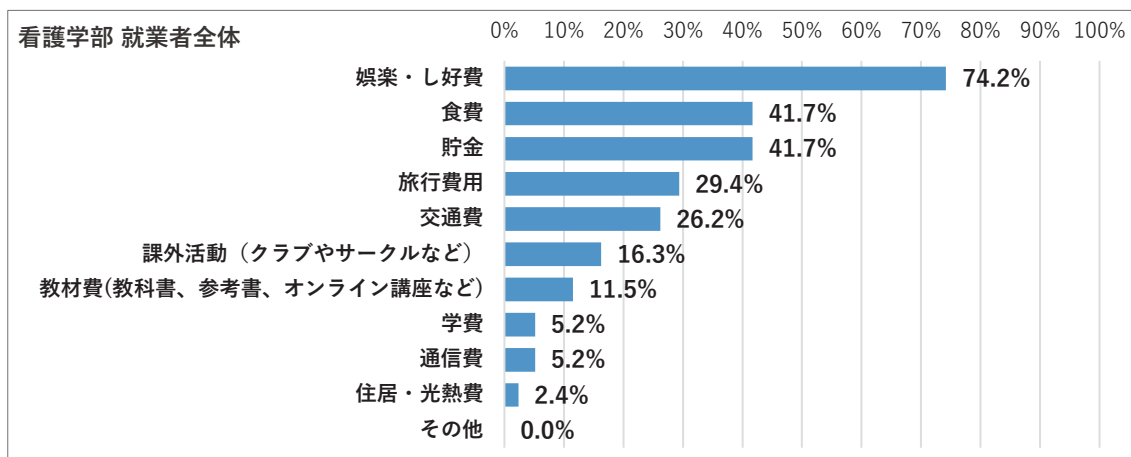
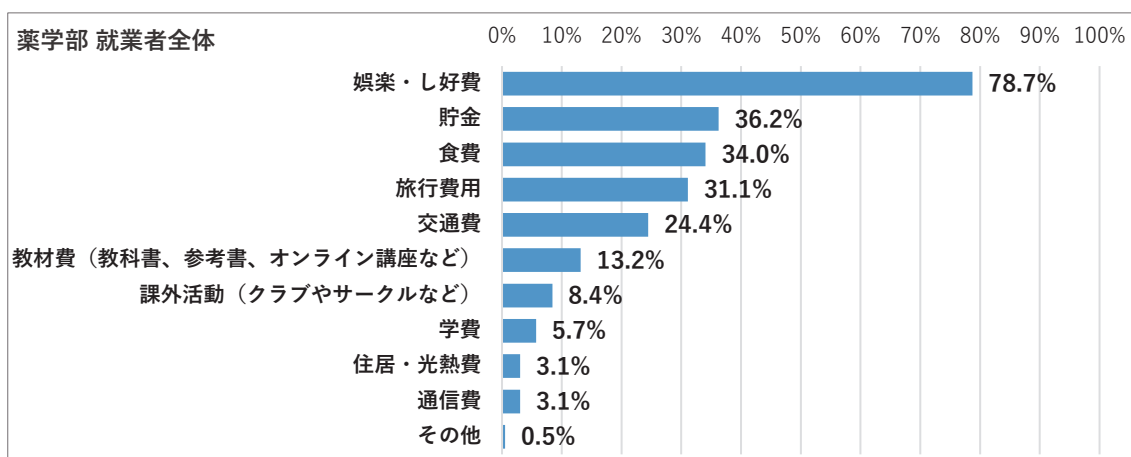
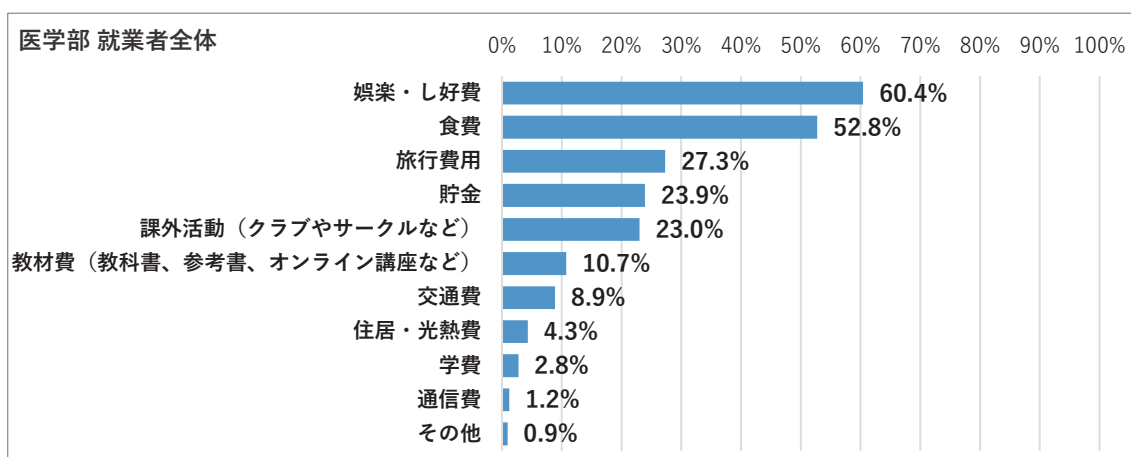
アルバイトの種類でもっとも割合が高いのは、医学部全体では「学習塾講師」で 36.5%、薬学部全体では「飲食店」で 38.2%、看護学部全体では「飲食店」で 47.6%である。

(3) 平均的な1週間あたりの就労時間



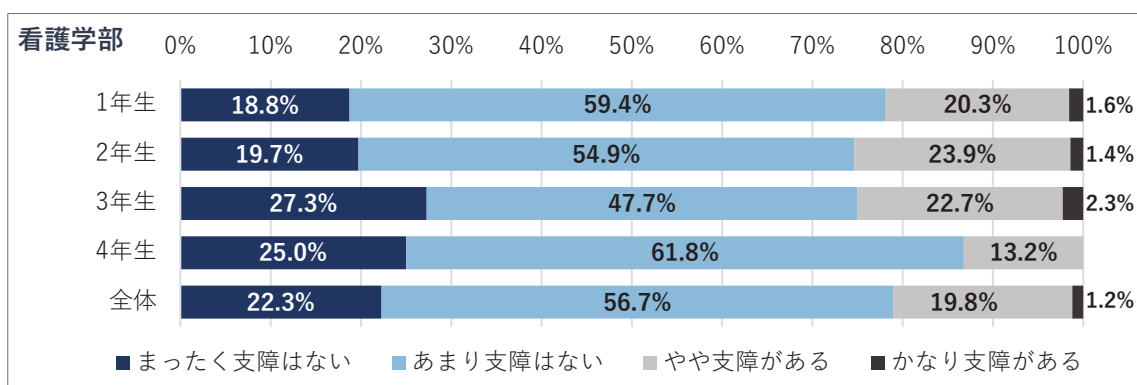
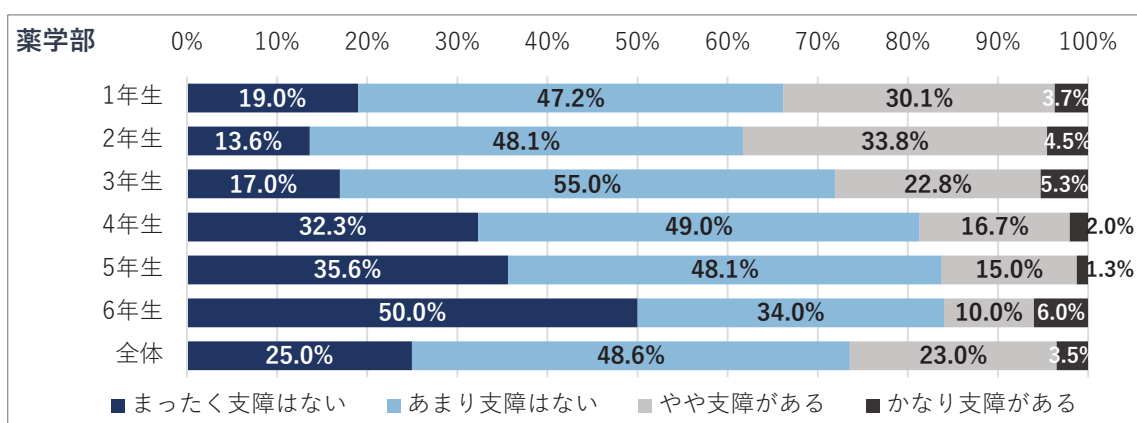
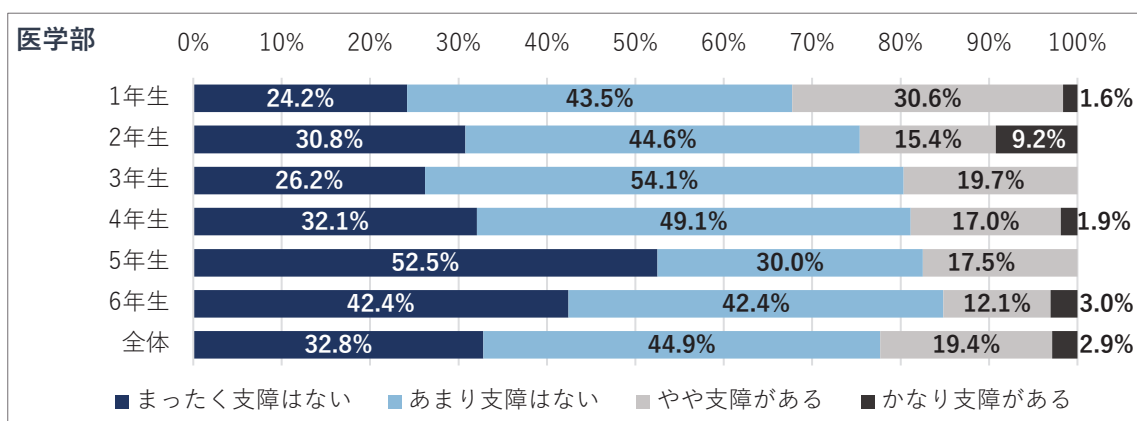
就業時間について、週「10 時間未満」で就業している学生は、割合が高い順に医学部全体で 61.0%、薬学部全体で 53.3%、看護学部全体で 40.8%である。

(4) アルバイト収入の使途



アルバイト収入の使途について、医学部、薬学部、看護学部ともに「娯楽・し好費」の割合がもっとも高く、医学部全体で 60.4%、薬学部全体で 78.7%、看護学部全体で 74.2% である。

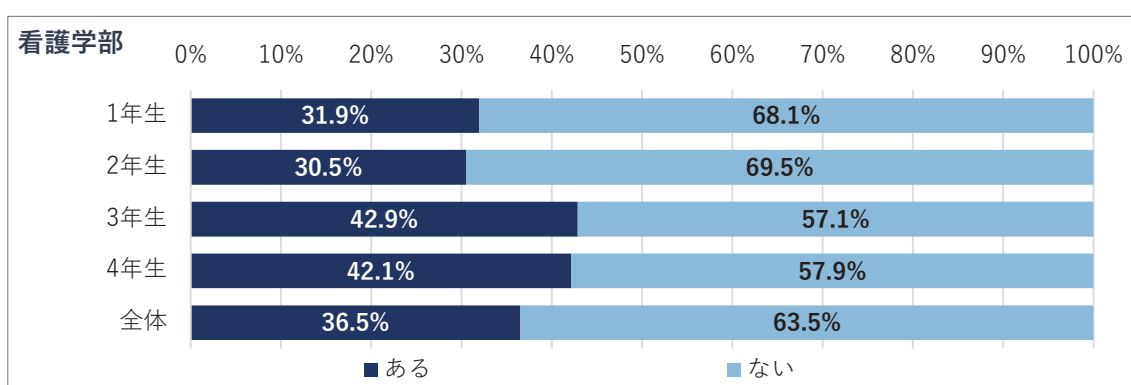
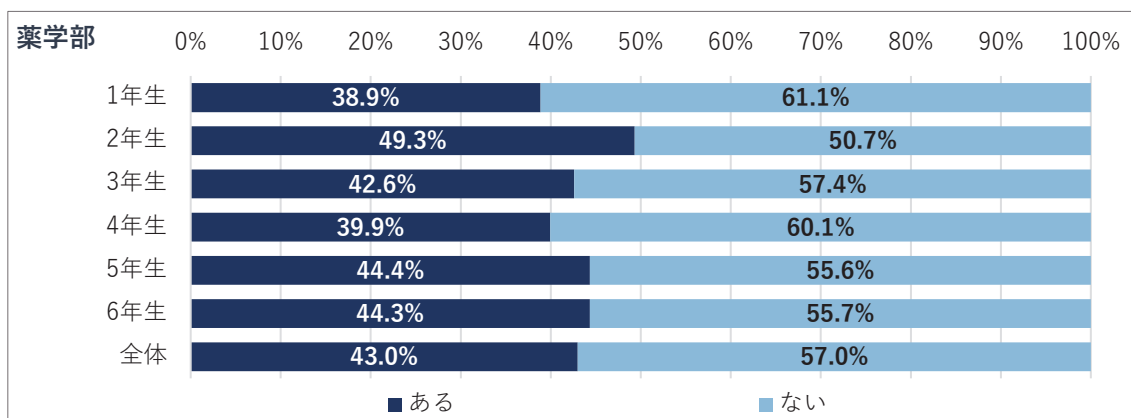
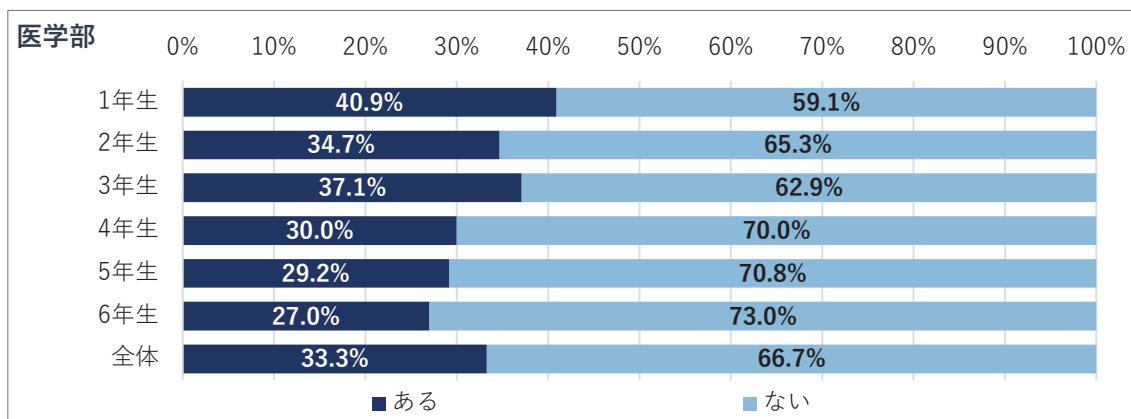
(5) アルバイトと学業の関係



アルバイトと学業の関係について、「まったく支障はない」あるいは「あまり支障はない」と回答した学生は、割合が高い順に看護学部全体で 79.0%、医学部全体で 77.7%、薬学部全体で 73.6%である。

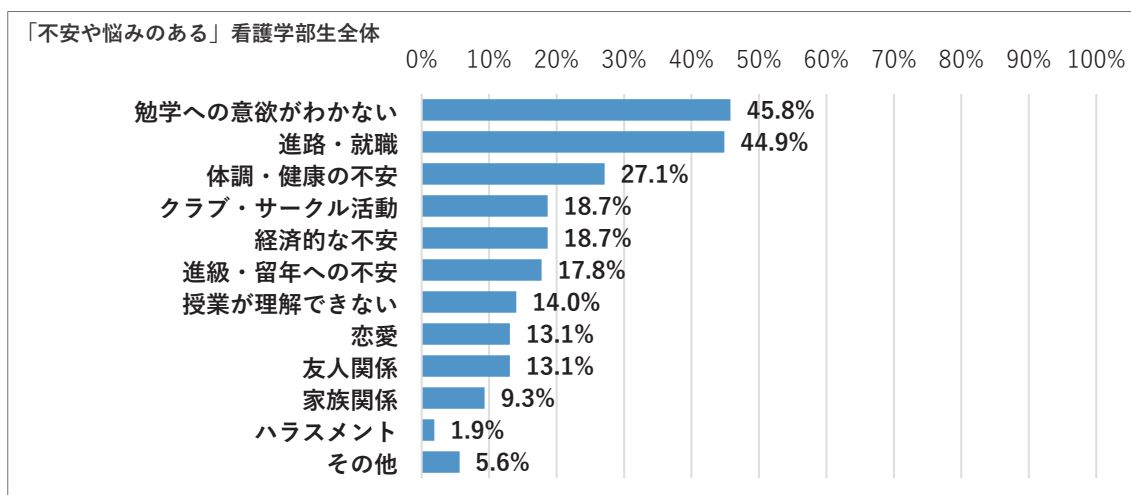
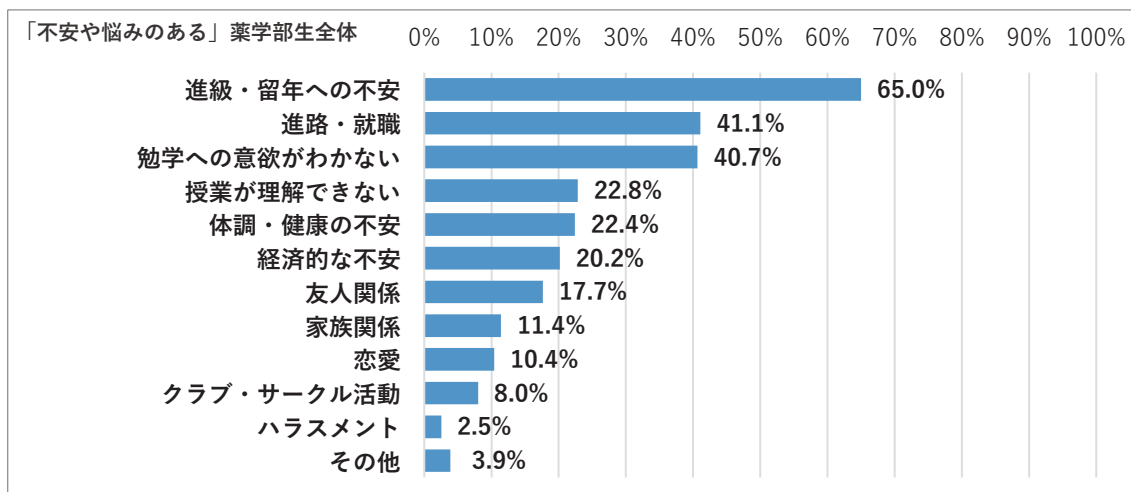
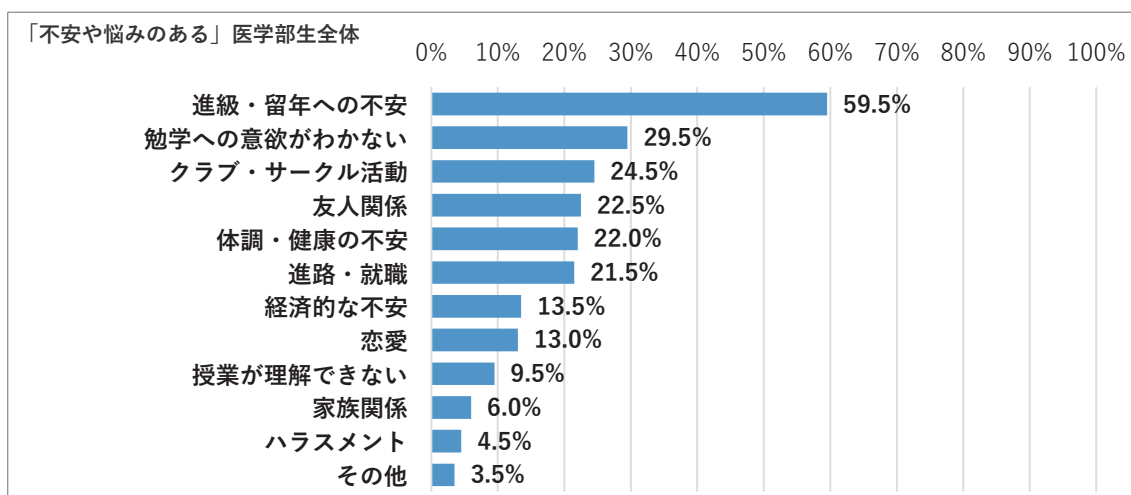
8. 不安や悩み

(1) 今年度の状況



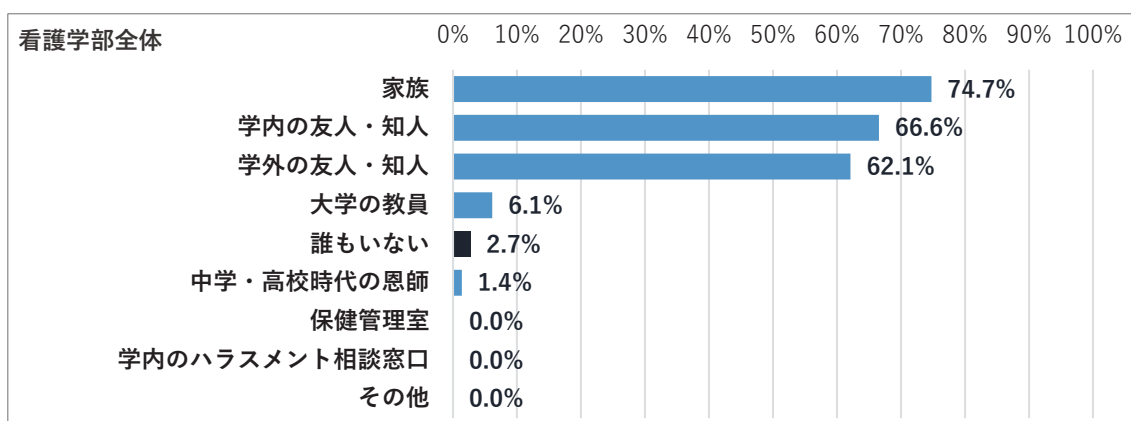
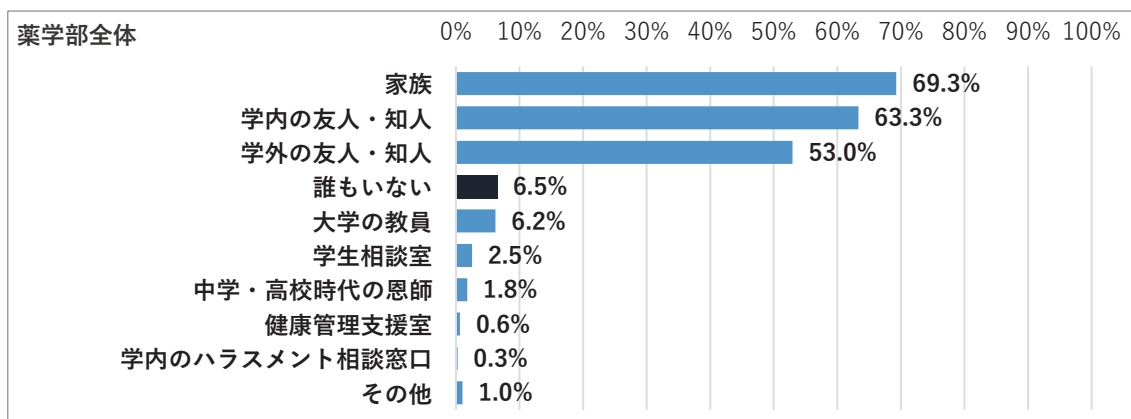
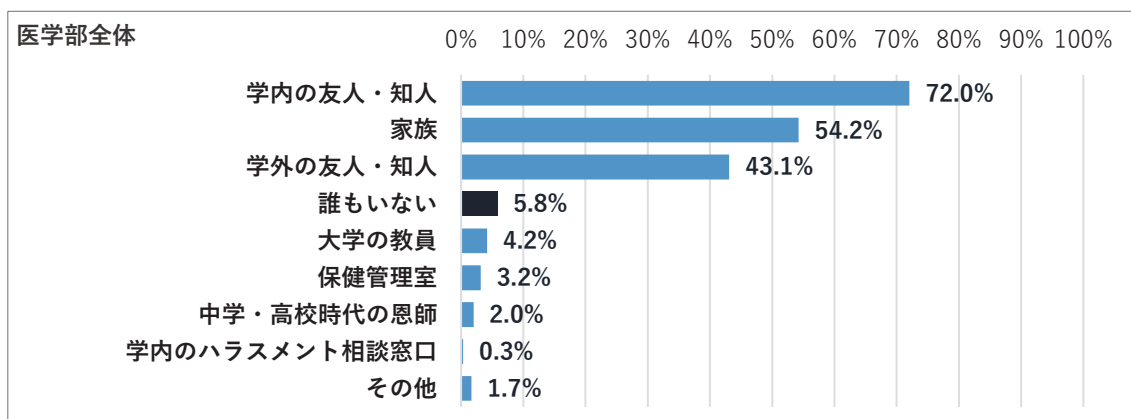
不安や悩みがあると回答している学生は、割合が高い順に薬学部全体で 43.0%。看護学部全体で 36.5%、医学部全体で 33.3%である。

(2) 今年度の不安や悩みの種類



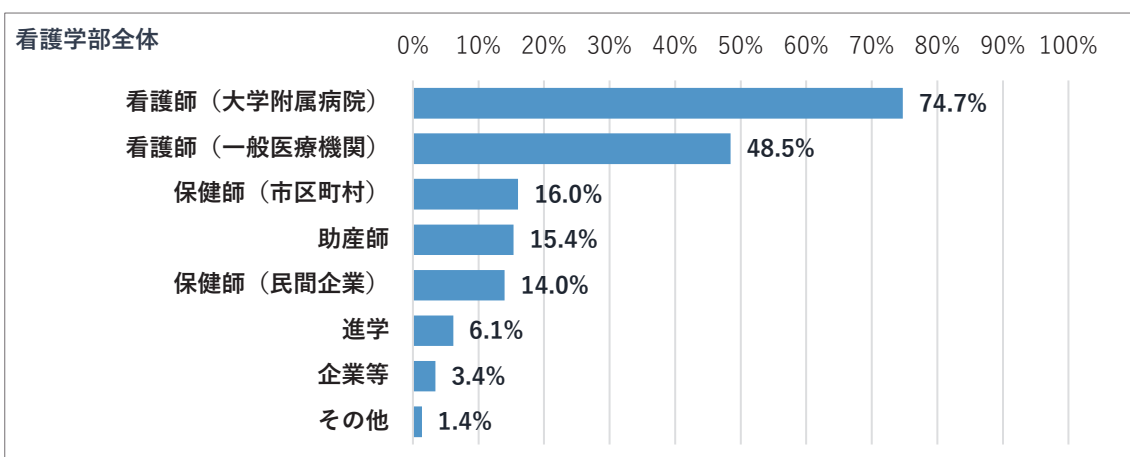
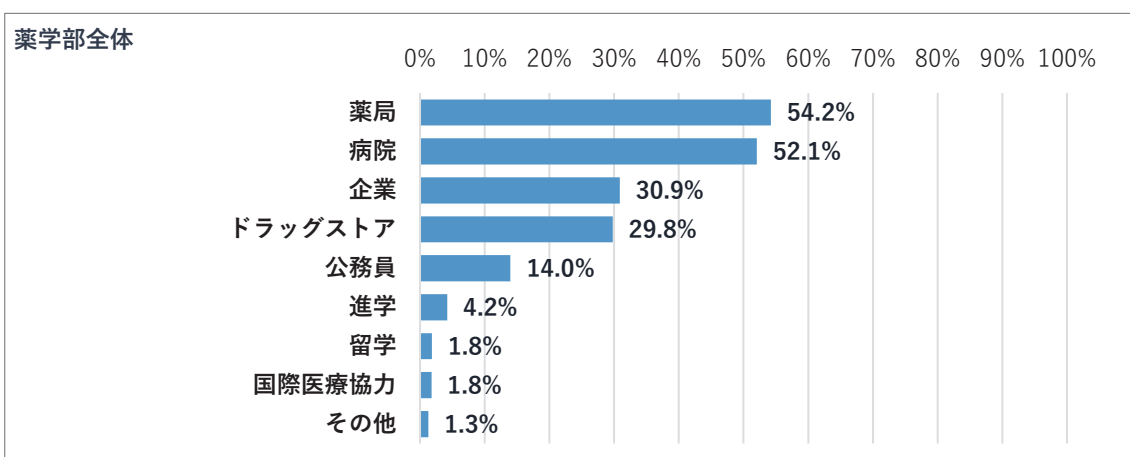
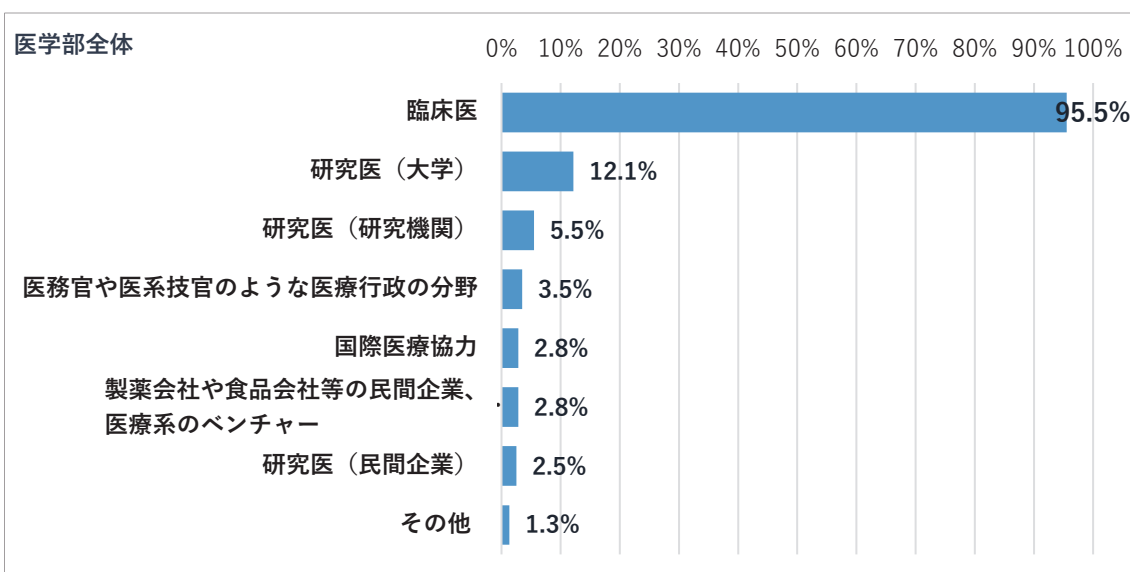
不安や悩みの種類で割合がもっとも高いのは、医学部全体では「進級・留年への不安」で 59.5%、薬学部全体では「進級・留年への不安」で 65.0%。看護学部全体では「勉強への意欲がわからない」で 45.8%である。

(3) 悩みの相談相手



悩みの相談相手として割合が高いのは、医学部全体では「学内の友人・知人」「家族」「学外の友人・知人」、薬学部全体では「家族」「学内の友人・知人」「学外の友人・知人」、看護学部全体では「家族」「学内の友人・知人」「学外の友人・知人」である。

9. 卒業後の進路

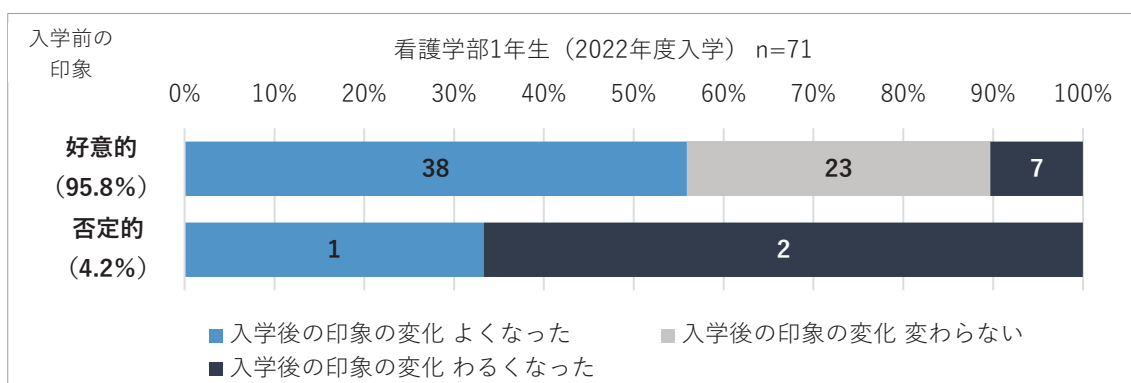
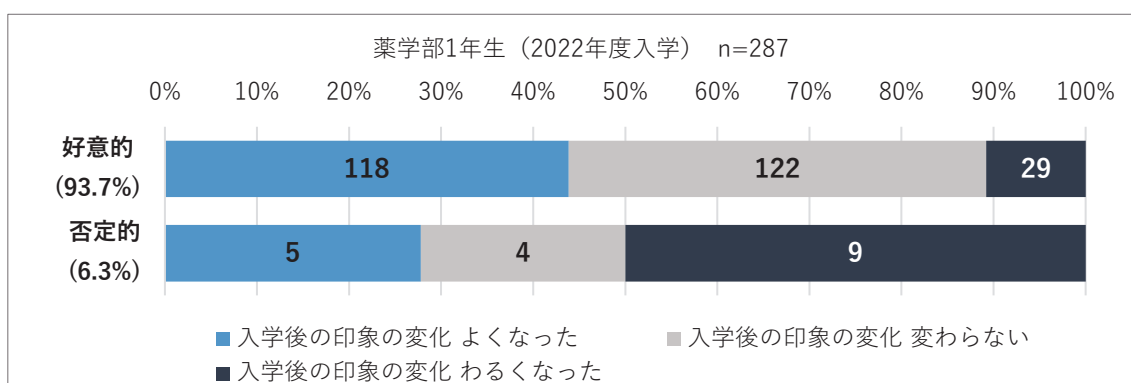
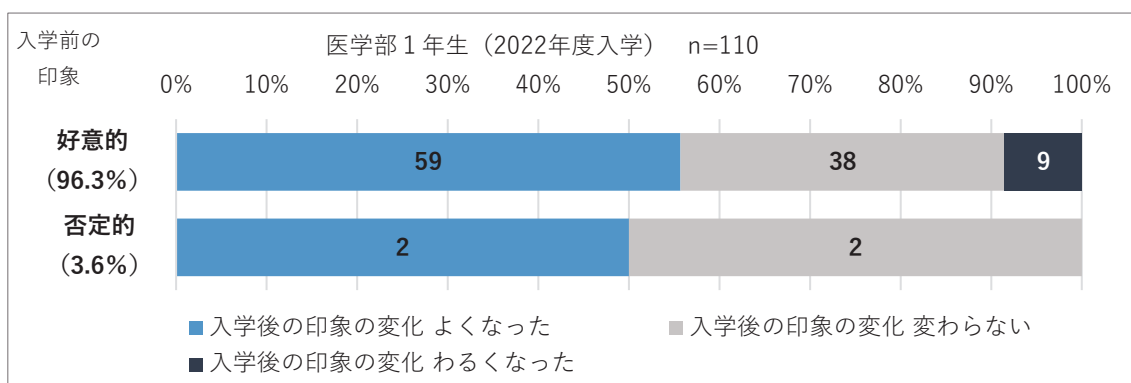


将来の進路として割合が高いのは、医学部全体では「臨床医」の95.5%、薬学部全体では「薬局」の54.2%と「病院」の52.1%、看護学部全体では「看護師（大学附属病院）」の74.7%と「看護師（一般医療機関）」の48.5%である。

III. 総合評価

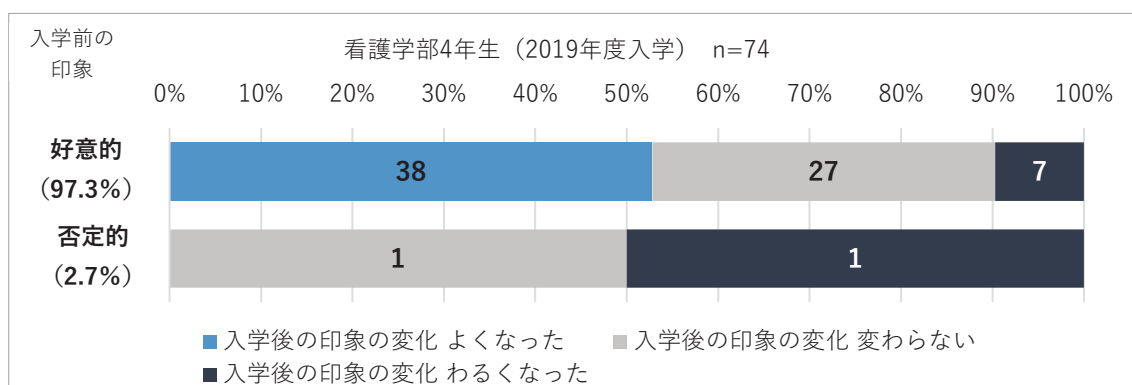
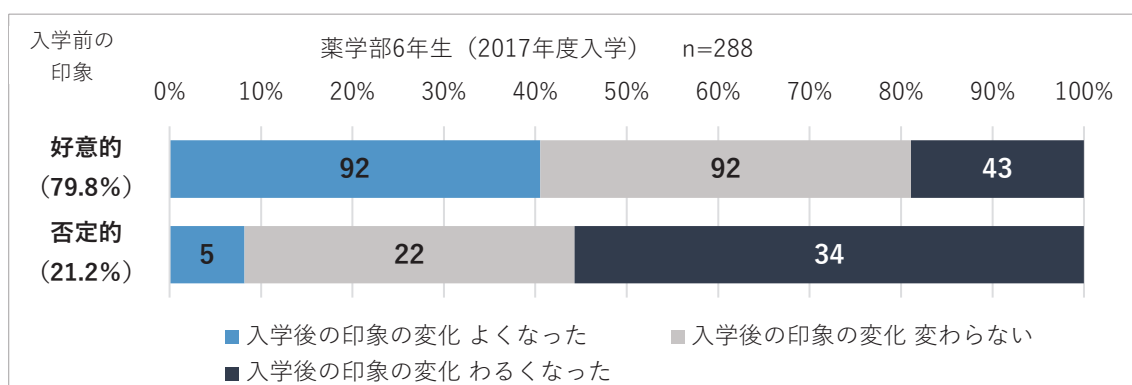
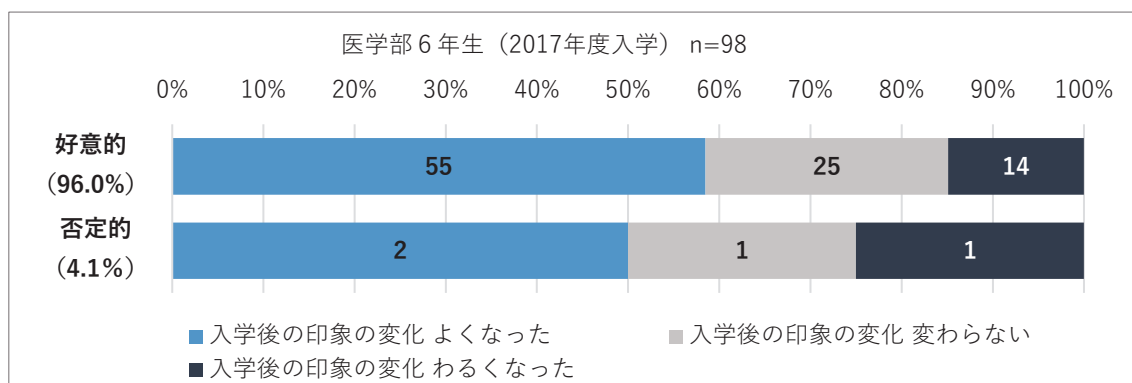
1. 入学前後の本学への印象 【1年生と最終学年のみ】

1年生



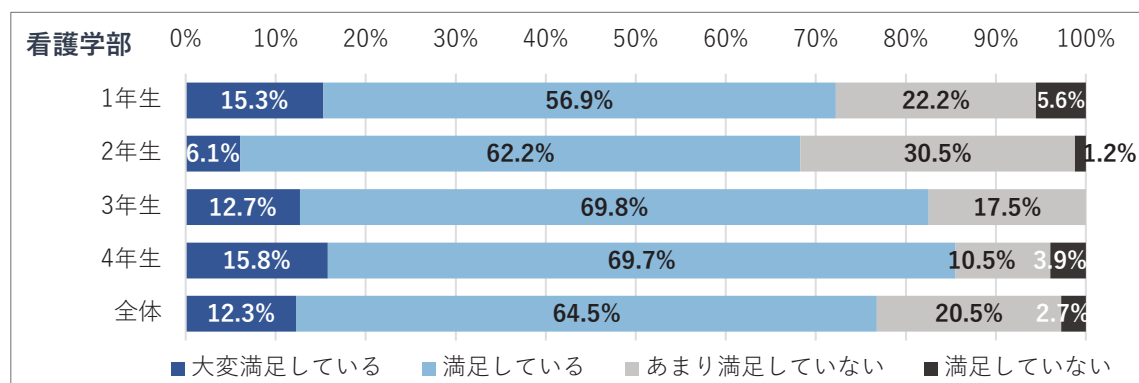
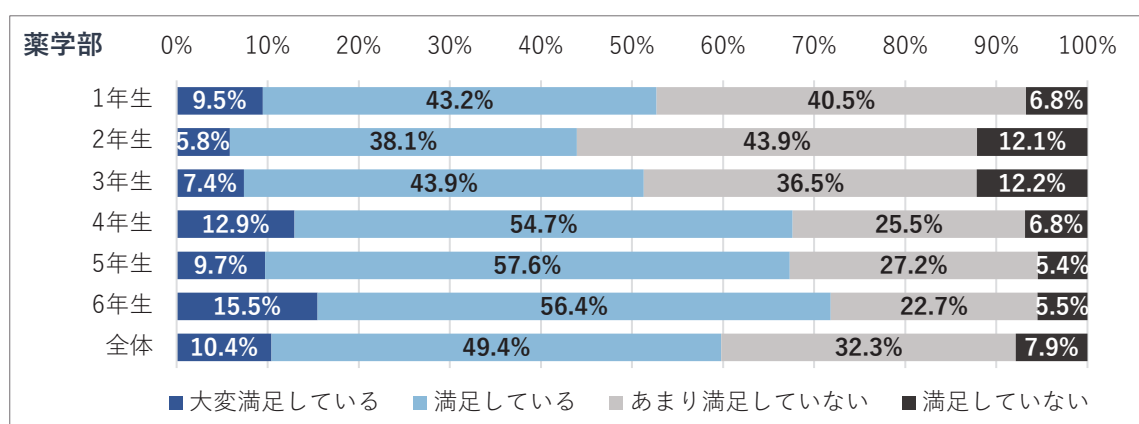
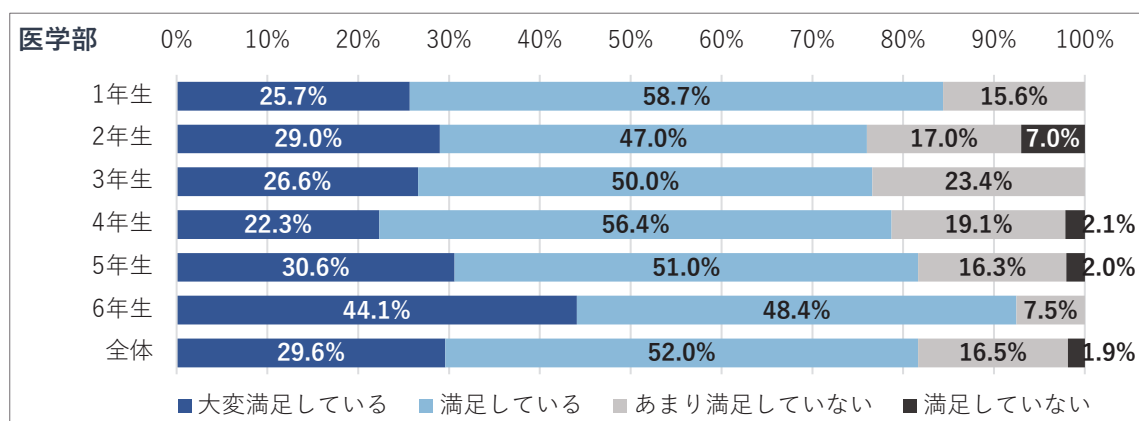
2022年度に入学した学生（1年生）の入学前の本学への印象について、好意的印象を持っていたという回答は、医学部全体で 96.3%、薬学部全体で 93.7%、看護学部全体で 95.8%である。1年生終了時、入学後に印象がよくなったという回答は、入学前に好意的印象を持っていた場合、医学部全体で 55.7%、薬学部全体で 43.9%、看護学部全体で 55.9%である。

最終学年



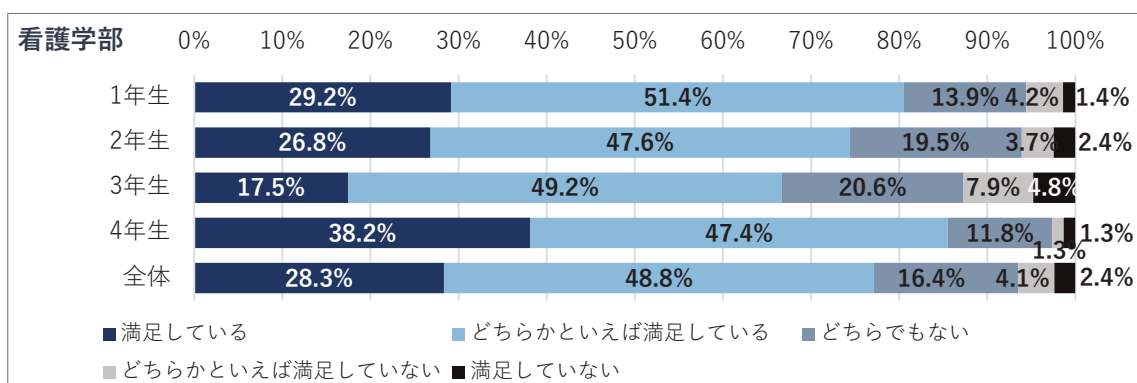
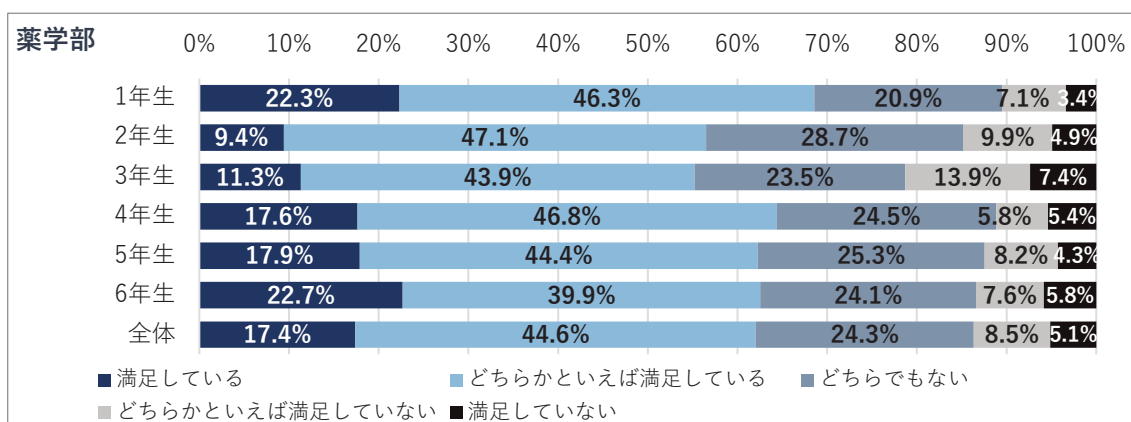
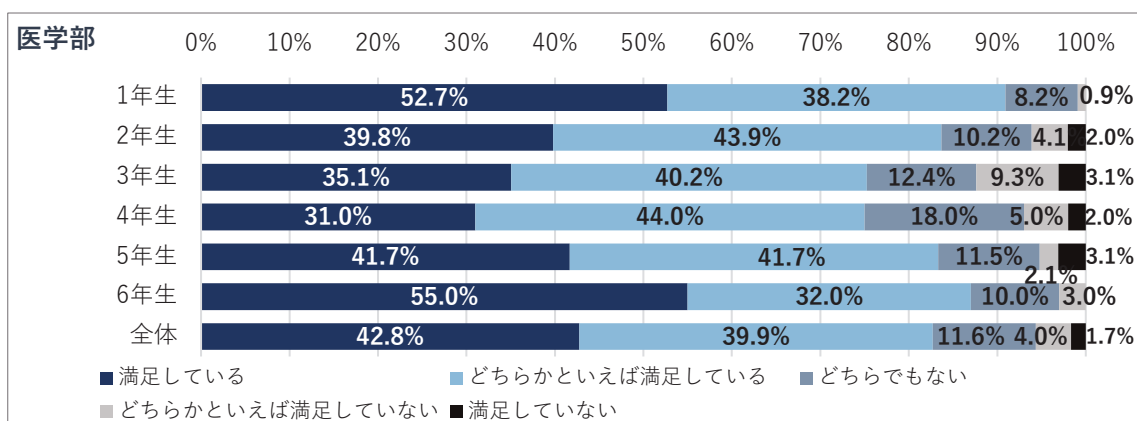
2017 年度または 2019 年度に入学した学生（6 年生または 4 年生）の入学前の本学への印象について、好意的印象を持っていたという回答は、医学部全体で 96.0%、薬学部全体で 79.8%、看護学部全体で 97.3%である。最終年度終了時、入学後に印象がよくなったという回答は、入学前に好意的印象を持っていた場合、医学部全体で 58.5%、薬学部全体で 40.5%、看護学部全体で 52.8%である。

2. 入学以降の総合的な学修成果（結果）の満足度



入学以降の総合的な学修成果（結果）満足度について学部全体でみると、もっとも満足度が高いのは医学部で「大変満足している」が 29.6%、「満足している」をあわせると 81.6%が満足していると回答している。薬学部と看護学部の全体では、「大変満足している」が 10%程度、「満足している」をあわせると薬学部では 59.8%、看護学部では 76.8%が満足していると回答している。

3. 大学生活全般の満足度



大学生活全般の満足度について学部全体でみると、もっとも満足度が高いのは医学部で「満足している」が42.8%、「どちらかといえば満足している」をあわせると82.7%が満足していると回答している。薬学部では「満足している」が17.4%、「どちらかといえば満足している」をあわせると62.0%が満足していると回答しており、看護学部では「満足している」が28.3%、「どちらかといえば満足している」をあわせると77.1%が満足していると回答している。

大阪医科薬科大学
キャンパスライフ・レポート 2022
(大阪医科薬科大学 学生調査)

2023 年 9 月 発行

大阪医科薬科大学 IR 室
大阪医科薬科大学 教育機構
大阪医科薬科大学 学生生活支援機構

大阪医科薬科大学 IR 室
〒569-8686 大阪府高槻市大学町 2 番 7 号

OMPU CAMPUS LIFE REPORT 2022

2023.09



大阪医科薬科大学

Osaka Medical and Pharmaceutical University